

# からぼり川

がたろう通信

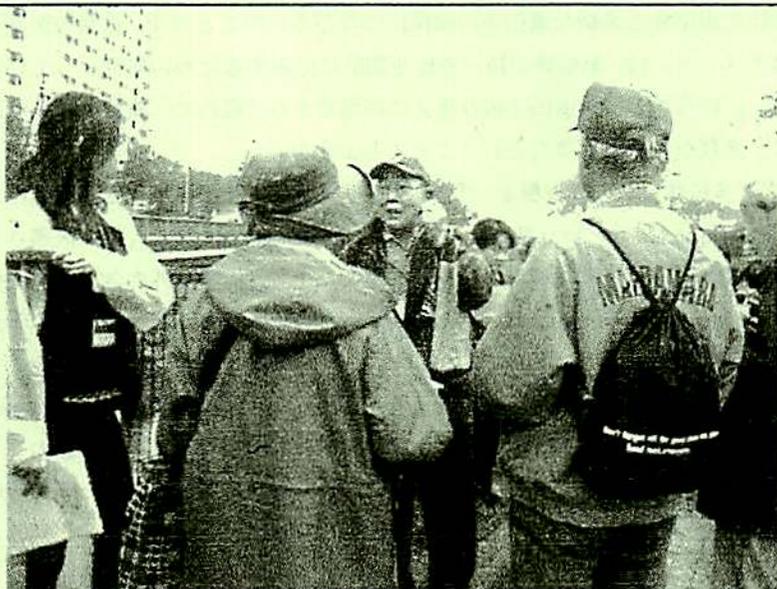
第 61 号

2009年12月20日発行

特定非営利活動法人 空堀川に清流を取り戻す会

ホームページ:<http://homepage2.nifty.com/karaborigawa/>

発行責任者:友保邦弘 TEL/FAX 042-394-9978 東村山市萩山町 2-19-10



11月14日「平成21年度新河岸川流域フォーラム」開催さる  
午後の講演会と諸発表の前に、午前中は折からの雨の中一部ル  
ートを変更しながら北川と空堀川の観察会が行われました。空堀川側  
は当会の小林寛治顧問が、参加者を浄水橋の上流部に案内し、「子  
どもの水辺」のワンドやビオトープ池の創出、植樹、堆肥づくり等の活  
動について、また美住陸橋下の雨水貯留施設についての説明を行  
いました。(詳細は3ページにあります)

## “生物多様性”を考える

正路 妙子

来年名古屋で開催される「生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）」についての報道を目にする機会が増えました。持続可能な社会を構築するために、人間は地球上の生物資源を効率的に利用することが必要で、絶滅する生物種を減らすことを目的とした条約だそうです。現在世界では毎年約4万種の生物種が消えており、生物多様性条約により生物の種や個体数の減少に歯止めがかかれば、将来の新薬開発などに応用できる多様な遺伝子の確保につながるということです。世界の医薬品や化粧品のメーカーは、動植物が持つ特性を製品に応用するための研究をしているようです。ということは、遺伝子組み換えに利用できる“優れた”遺伝子を見つけるために、多様な生物が必要だということでしょうか。

“生物の多様性”という表現を、今までは、「多様な生物が棲息できる環境は人間にとっても好ましい」という意味で理解していました。つまり、人間が快適さを追求してきた結果である地球環境の悪化を認識した上で、人間以外のさまざまな生物と共存して生きる方向へ舵を切る必要があります。生物多様性“という用語の背景にはそのような理念があると考えていました。しかし生物多様性条約が目的としているのは、このような自然保護だけではなく、自然からの恩恵を今後も途絶えることなく継続的に受けられるよう”多様な生物“を管理し、利用していくことのようにです。確かに周りを見回してみると、家畜化され、飼育されている動物たち、栽培されている穀物や野菜・果物は、すでに有効に利用されている生物種です。生物多様性条約は本来気候変動枠組み条約と同時に生まれたものなのに、地球上で人口の爆発的な増加が見込まれ、環境の悪化も、食糧不足も深刻な問題になっている中で、生物資源を有効に活用していくことが求められているのです。

そんなことを考えながら夜の街を歩くと、いたるところでイルミネーションが輝き、星や月は光を失っています。イルミネーションを取り付けられた樹木は夜の眠りを奪われて、生長にも影響が出ているとのこと。人間が賢く、資源を有効に使う知恵を備えているとはとても思えません。人間以外の生き物はますます奪われ、それは結局本来の人間らしさを害することになると懸念されます。夜は夜らしく、冬は冬らしく過ごすことこそが、今求められているはずです。

私たちは大きな自然の秩序に従い、自然の法則に耳を傾け、自然と対話する術を取り戻す必要があると思われます。

## 新河岸川流域フォーラム

“ゲリラ豪雨から街を守る、清流で街を潤す”をテーマに、11月14日サンパルネで「平成21年度新河岸川流域フォーラム」が開催されました。午前中は空堀川と北川の観察会、午後は東村山市長の挨拶のあと、先ず群馬大学大学院工学研究科の片田敏孝教授による講演「最近の豪雨災害に学ぶこれからの地域防災」が行われました。最近のいわゆるゲリラ豪雨や大型台風によって引き起こされた災害の事例を、写真を使いながら紹介し、現在の防災行政の抱える問題点や、命を守るために個人がどのように対応したらよいかを分かりやすく説明されました。最後に中国の古典に由来する“居安思危 思則有備 有備無患”の中の“居安思危（こあんしき）”の重要性を強調されました。安きに居りて危うきを思う、安き今だからこそ、危うきを思うことが出来る、危うきを思うからこそ備えをすることが出来る。大きな自然の恵みを享受することは、大きな自然の振る舞いにつきあうことである。大きな災いをやり過ぎず知恵こそが、これから求められる防災のあり方ではないかとのことでした。

講演のあとは、“流域の変遷と浸水対策”のテーマで、東村山ふるさと歴史館学芸員の「市街化と東村山市の変遷」、東村山市消防団団長の「過去の水害・水害への備え」、東村山市菅工事組合代表の「雨水浸透施設を知っていますか?」の10分ずつの発表がありました。引き続いて、“浸水対策や水循環再生への取組み”と題して、国土交通省荒川下流河川事務所、東京都建設局河川部、埼玉県県土整備部河川砂防課の担当者からの報告、「北川かつばの会」の清水淳氏と当会の小林寛治顧問による発表がありました。清水氏のテーマは「北川流域の環境復元の現状と課題」、小林氏は「空堀川に流れを!」のタイトルで、河川改修により直線化された空堀川で進行している瀬切れ対策として、川に水を導いてくるいくつかの方策が考えられることを説明しました。

会場には水質調査実験、雨水浸透マス模型の実演などの体験コーナーがあり、流域内の行政、市民団体による展示も行われ、主催者側によると一般の参加者は109名、関係者を合わせると131名でした。アンケートでは、片田先生の講演が印象に残ったとの声が多く寄せられ、観察会で見た東村山は緑が多くすばらしいとの声も上位にありました。

## 第25回 空堀川のクリーンアップ

島崎よう子

11月15日、前日とは打って変わって抜けるような青空の下、恒例の秋の空堀川清掃。上流部（今回から新たに馬頭橋より上橋までのエリアが加わり、上橋～西武新宿線鉄橋）と下流部（西武新宿線鉄橋～大沼田橋）の二手に分かれて行いました

看板やポスターを見て初めて参加された方の中に、2年前に恩多町の娘さんといっしょに住むために長野より転居され、毎日空堀川を歩き何か役に立つことはないかと思っていらした80代の女性の方、それから所沢から参加された某大学4年生がおられました。地理学専攻で空堀川をテーマに卒業論文をまとめる計画で、日頃から足しげく空堀川流域に出向いており、今回のイベントを知ったそうです。そして、この10年、毎回欠かさず参加してくれる森永乳業東京多摩工場の若手社員は今回も12名の大部隊で、市役所都市環境部から職員1名、合計53名で快い汗を流しました。

河川敷のごみを拾い終わった帰り道は、遊歩道のごみを拾いながら川を眺めながら歩きます。空は青く川に水は流れ、清々しい気分です。けれど、今回も野口橋右岸の木陰には大量の袋入りごみや自転車、椅子、ビニール傘、棚板などの粗大ゴミが捨てられていました。仲よし橋、ふれあい橋下は吸殻がたくさん。火バサミで挟み辛く、ビニール袋入りのワンちゃんの糞同様、腹が立つ。「環境意識のある人、ない人の差が大きすぎるなあ」というボヤキが聞こえてきました。

集められたゴミ袋を市役所手配の車に積み込む場所へ持ち寄るのがケッコウ大変。改善策として折りたたみ式運搬車を購入しました。次回からはもっと気持ちよくできそうです。

正午前に作業を終え、下流部は下堀広苑でとん汁、上流部でも美住町団地の奥様お手製のすいとん入り豚汁をご馳走になり、13時過ぎに解散しました。

上流部（上橋～西武新宿線鉄橋）

もえるゴミ	20袋
もえないゴミ	25袋
バイク	1台

下流部（西武新宿線鉄橋～大沼田橋）

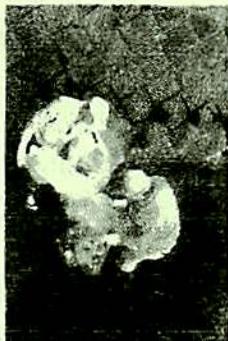
もえるゴミ	33袋
もえないゴミ	65袋
自転車	3台

（袋は70リットル入り）

## クリーンキャンペーンに参加して～空堀川は生活の友～

ボランティアセンター 下村 君 夫

空堀川との出会いは 49 年前である。当時はフナが泳いでいた。川は良き遊びの友だった。時代の流れの中で、工場からの汚水、台風による川の氾濫等悪いイメージがあり、それが頭の中で消えると共に川を忘れていた。今年病院生活を数ヶ月経験、退院後に散歩を始めた。そのコースが空堀川の遊歩道だった。今では通勤のコースである。あまり気にしていなかった川の様子、水の量、草木、かもの群れ、そして周辺のごみが、歩いていてとても気になりだした。健康な多くの人が散歩しているが、川が汚れるのを気持ちいいとは思えないだろう。空堀川は今や生活の友である。心の癒しの場でもある。



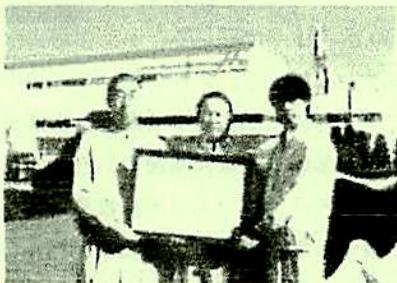
クリーンキャンペーンに参加して、一人より二人、二人よりも多くの人と活動することの意味と大切さを感じさせてもらった。次回は、もっと多くのボランティアに呼びかけて参加してみたい。ありがとうございました。



### “森永さん”おめでとうございます!

私たちの活動を当初から支援し、春秋2回のクリーンアップには大勢の若い社員の方々が応援に駆けつけて下さっている森永乳業株式会社東京多摩工場が「第4回3R<sup>\*</sup>推進全国大会」で循環型社会形成推進功労者の「3R活動優良企業」部門で表彰され、10月16日環境大臣賞を受賞されました。心からお祝いを申し上げます。

今年2月14日の環境講演会では、東京多摩工場製造部主幹 菅原幸男氏から「製造業における循環型社会形成の試み」と題する発表が行われ、廃棄物を出さないようにする日常の取組みが紹介されました。東京工場では過去6年のうち5年間、リサイクル率100%を達成しております。今後ますますのご発展を祈念しております。<sup>\*</sup>Reduce (排出抑制), Reuse (再利用), Recycle (再資源化) の略



## 秋のクリーンアップ雑感

加藤 敏子

今回大沼田橋と秋津南橋の間で気付いたことをいくつか挙げてみます。

- ・ 使い捨てマスク：新型インフルエンザ大流行の社会情勢を反映してのことでしょうが、なぜ外出途中で捨てなければならないのでしょうか。
- ・ ミカンの皮：散歩中歩きながら食べ、剥いた皮をポイなのです。驚いたことに、実がいくつか入った袋ごと捨てられたものもありました。歩きながら口にするものでもないと思うのですが。
- ・ 空き缶のポイ捨ては毎度のことなのですが、今回はペシヤンコにつぶされた缶が多くありました。そこまで小さくしてくれるなら、家まで持ち帰って欲しいです。
- ・ 最後に、集められたゴミの山を見て気付いたことは自転車が多かったこと。そして、3m近い長さの物干しやガスレンジまであったことに驚きました。
- ・ 河原に捨てられた大きなゴミを目にするたびに、こんな大きな物をどうやって、誰にも見咎められずに運んできたり、投げ込んだり出来るのかと不思議に思います。

年2回ではなく、年3回のクリーンアップの必要性をますます感じた次第です。

## 不法投棄

友保 邦弘

悲しいことというか腹立たしいことというか、心ないヤカラの不法投棄には目に余るものがある。家電4品目の処理費有料化以後において特に著しい。インターネットで「不法投棄」を検索して800項目までは確かめたが、まだまだ延々と出てくる。きりが無いので途中であきらめたが、要するに不法投棄が如何に多いか、重大問題であるかの証左であろう。同じく「不法投棄対策」で検索しても膨大な項目数である。これほど重大で、これほど関心が高まり、そして色んな対策が行われているにもかかわらず、増えこそすれ無くならないのはいったいどういうわけなのだろうか？



突然ですがここで問題です。

下記の不法投棄対策の内でも最も効果の大きい方法はどれでしょうか？

- 「不法投棄は犯罪である」旨の看板を掲示する
- 柵を作って網を張り、投棄できなくする
- 棄てられたらすぐに撤去する
- 見せしめのため捨てられたゴミを目に付くところに並べておく
- 花を植えたプランターを並べる
- ダミーの防犯ビデオカメラを設置する

ヒント：「監視されているのではないか」という不安感をあたえる。

写真2枚はいずれも仲よし広場のトイレ付近に投棄されたゴミである。子ども用の自動車玩具を棄てた親がいた。「おもちゃの自動車に乗てられた子は親と同じ大人になる」と書いた紙を貼り付けておいたら、しばらくの間は効果があった。数日たってみたら二枚目の写真のように元の黙阿弥・・・やっぱりゴミで一杯になってしまった。しかもご丁寧に「御用」と書かれたダンボールにガラクタを入れて捨ててあった。必ず犯人を見つけて「御用」にしてやる！ シャレにもならない。捨てられた書類の中に封筒が何枚かあったが宛先部分を切り取ってあった。そんな手間があったら資源ゴミで出せばいいのに、ご苦労さんなことだ。



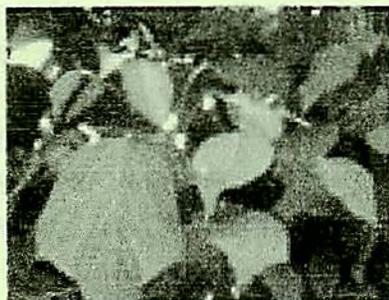
日本人はいつから「恥」の文化を放棄してしまったのであろうか。戦後教育で自由と権利だけを学び、裏付けとなる義務を叩き込まれなかった親たちとその子ども達が大勢をしめてしまった。その結果「人様に迷惑をかけることは恥である」という思想が欠落してしまった。「百年河清を待つ」と諦めてしまって良いのだろうか。今こそ智慧の限りを尽くして妙案を絞り出さねばならない。

(問題の解答：3番目の「棄てられたらすぐに撤去する」です。何度棄ててもすぐに処理されると「誰かに監視されているのではないか」という心理が働き、投棄をためらうようになるとのことです)

(トウダイグサ科)

有川 栄子

暖地の平地や山野に普通に見られる落葉高木で、高さ 15m位になる。生長が非常に速い。葉は長い柄を持ち、互生し、卵形または円形で先端が尖り、時に 2~3 裂している。葉柄は赤く、春、若い葉は紅赤色を呈し、美しい。雌雄異株。夏に梢に総状あるいは円錐状の花序をつけ、多数の花を開く。雄花は黄色で 3~4 裂した萼(がく)片と多数の雄しべを持つ。雌



花は短い花穂に密着していて短い柄があり、萼は 3 裂し、子房には 3 柱頭がある。果実は紫黒色で球形の種子を出す。日本名“赤芽櫛”は、芽が紅赤色であることによる。昔からこの葉に食物をのせたことにより、五菜葉とも呼ばれる。空堀川のからぼり広場、ふれあい広場にはよく見

られる。ふれあい広場には雌雄並んで生えているところもある。



雌花



雄花

## 空堀川水質測定について

垂水 荘 司

空堀川の水質測定は10月測定の前定が、バックテストの試料が入手できませんでしたので伸びておりました。

11月19日、職業能力開発総合大学校環境化学科の渡辺先生から小林顧問に、空堀川の水質測定を学生4名と実施したいとお話があり、小林顧問と垂水が参加させていただきました、幸い実施日の2日前に降水がありましたので水量、にごり（透視度）共申し分ありませんでした。

今回の水質測定調査地点は浄水場堆肥置場前の川、ビオトープ、ワンドの3か所で実施しました。尚来年は2月ごろに調査を行いたいと思ひ、渡辺先生に次回のバックテストの試料をお願いしました。

水 質 測 定 値 記 録

H.21年11月19日（天候曇り）

調査項目	調査地点		
	堆肥置場前	ビオトープ	ワンド
気温℃	9.1		9.1
水温℃	9.8	7.5	9.1
pH	9.0	7.5	8.0
電気伝道度 mS/m	493	141	287
COD* mg/l	6.0	8.0	8.0
アンモニウム態窒素 mg/l	0.00	0.00	0.10
亜硝酸態窒素 mg/l	0.00	0.02	0.02
硝酸態窒素 mg/l	2.0	0.5	2.0

\* 化学的酸素要求量



## 八郎山ニュース

加藤敏子

11月27日は平日でしたが、八郎山の勉強会(当日知りました)と草取りがありました。20名足らずの参加者でしたが、内容のある集まりでした。

久し振り(夏の草取りは欠席したので)の八郎山は、以前の鬱蒼として暗かった姿とは変わり、皆の労作のお蔭で明るい陽が足元に射し、今まで隠れていた山野草が元気な姿を見せていました。

はじめに東京都北多摩北部建設事務所にいらした今泉安廣氏から、立派な冊子(作業の記録写真や説明、植生調査の結果がまとめられたもの)を見ながら、経過報告や今後のことについて説明がありました。次に協議会の菊一さんから当日の作業についての話があり、いよいよ勉強会となりました。木や草のことに詳しい清瀬の宮澤さんの説明を楽しく聞きながら、木肌や葉の違いを観察し、落葉の仕組みを学びました。その合間に、用意された立派な、厚手の木で出来た名札を樹木に取り付けました。また、斜面の土留めに使われた古木のひとつが柔らかかそうに見えたので、皮を剥いで見ると、沢山の丸々と太った甲虫の幼虫が育っているのを見つけました。皆で観察したあと、元に戻してやりました。たつぷり古木の栄養を貰い、夏には大きな角をもった成虫が、今度は倒木ではなく立木の樹液を吸うでしょう。とその時、何と、大きな立木の根元に頭と体が離れた甲虫が転がっているのが見えました。鳥たちにやわらかい部分は食べられて..... 倒木や落葉で育った虫たちが鳥に啄ばまれ、鳥のフンと共に落ちた種が新しい芽を出すと、自然界の命のサイクルを目にし、短い時間の中で命の循環を勉強しました。

最後に山野草を守るために、外来種のショカツサイ、ヒメジョオン等の草取りをし、「この里山を気にかけて、見守っていきましょう」と確認しあいました。次の目標は、柳瀬川を挟んだ淵の森の植物の移植ということで、次回集まる1月を約して別れました。



## 子どもの水辺から

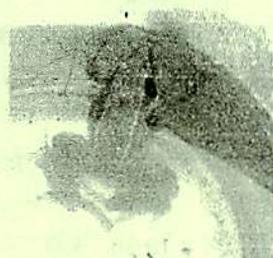
### 自然は正直

小林 寛 治

平成 8 年、東村山浄水場付近の工事が始まるにあたって、北多摩北部建設事務所工事第二課長小林さんから私たち数名に工事の説明がありました。当時の川は浄水場の堀に沿って流れ、新青梅街道よりの右岸にはサクラの大木が並んで川を覆っていました。ガソリンスタンドもありました。桜の木がすべて切り倒されると聞いて、川の中に中洲のように残せないかと訴えましたが駄目でした。その代わり、新青梅街道沿いにヤブツバキの垣根を設け、10m 置きにソメイヨシノを植えることで了承しました。浄水橋と馬頭橋間右岸に、川に下りる親水階段も設けてもらうことが出来ました。

河道の低水路面は、それまでの 3m から 8 倍以上広がり、河道を掘った大量の土砂が運び出され、完成した河道は文字通り一本の木、一筋の草も生えていない茶色の河床でした。もちろん魚の影はありません。ここをフィールドとして移行帯に植物を植え続けてきました。平成 12 年から河川環境管理財団の支援を受け、この区間を対象に自然再生のモデル区間として取り組んできました。

あれから 12 年が経過し、ワンドやピオトープ池も出来ました。河道にも手が入り、どうやらここだけは水が枯れる心配も無くなり、僅かながら魚をはじめ色々な生き物が現れています。自然が戻ってきたと感じたのはカエルの出現でした。アカガエルやツチガエルが出てきてようやく目標がかなった想いです。



ニホンアカガエル



ツチガエル

## インフォメーション

### ◆空堀川の植物

当会会員神山みつ江氏が10月から11月にかけて実施した秋の植生調査の結果、250種を超える植物種が記録されました。上橋から上流の、頻繁に草刈りの行われる個所では、植物種が顕著に少なくなる現象が見られるようです。多様な生物が育つためには、人間による適度な攪乱が必要なのでしょうか。

### ◆島谷先生の講演

東大和市の公民館講座で、私たちにとっては馴染みの島谷幸宏先生(九州大学大学院教授)の講演「いい川づくり空堀川」が行われました。矛盾を抱えた空堀川の河川改修ですが、「これだけのスペースがあれば、いい川ができるのだが」という言葉に、勇気を与えられた人が多かったようです。空堀川に似た川であったとおっしゃる神奈川県和泉川の、豊かな河畔林と緑野に囲まれた美しい景観が心に焼きついています。

### ◆新会員の紹介

伊藤秀子さん(東村山市青葉町) 12月12日入会。空堀川の瀬切れを憂慮しながら川を見守って来られました。どうぞよろしくお願ひいたします。

### ◆これまでの経過と今後の予定◆ (2009/10/03～2010/02/13)

- ◎10/10 第139回定例会 東村山市中央公民館
- ◎10/19～20 下堀広苑作業
- ◎10/21 ふれあい広苑作業
- ◎10/29 東大和生き物調査
- ◎10/31 第140回定例会 東村山市地域福祉センター
- ◎11/14 「平成21年度新河岸川流域フォーラム」開催 サンパルネ コンベンションホール
- ◎11/15 空堀川秋のクリーンアップ
- ◎11/28 東大和第8回クリーンアップ
- ◎12/11 東大和市環境講座
- ◎12/12 第141回定例会 東村山市地域福祉センター
- 01/09 第142回定例会 東村山市地域福祉センター 午後1時より新年会
- 02/13 第143回定例会 東村山市地域福祉センター 午後は水質調査

### 会員募集

私たちは「空堀川に清流を取り戻す会」の活動を支援し、参加して下さる方を募っています。

お問い合わせは下記までお願いいたします。

東村山市萩山町2-19-10 友保

TEL/FAX : 042-394-9978

がたろう通信

# からぼり川

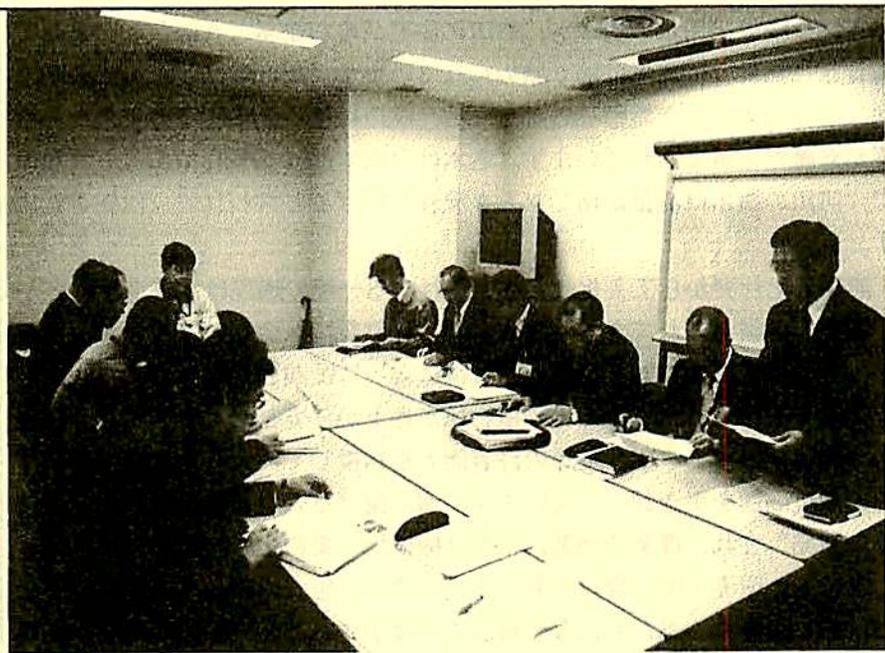
第 62 号

2010年3月13日発行

特定非営利活動法人 空堀川に清流を取り戻す会

ホームページ:<http://homepage2.nifty.com/karaborigawa/>

発行責任者:友保邦弘 TEL/FAX 042-394-9978 東村山市萩山町 2-19-10



## 第二回空堀川「子どもの水辺協議会」開催

2月15日(月)、東村山市役所いきいきプラザ4階で午後1時30分より「第二回空堀川 子どもの水辺協議会」が開催され、平成21年度の活動報告と22年度事業計画が承認されました。また、協議会の会長が小林寛治から、当会理事長 友保邦弘に交代する人事も承認されました。

## 樹木

正路 妙子

周辺の樹木がさまざまな理由で切られていきます。相続税を支払う必要に迫られた農家の果樹園の跡地が細分化され、何軒もの小住宅が建てられました。そんな小住宅の敷地には、一本の灌木すらなく、大地の露出を拒んで舗装材で被覆されています。公園で遊ぶ子供が変質者に襲われたりすると、道路からの視線を遮る樹木は悪者扱いされて伐採されます。市内の保存林や野火止用水の樹木も、周辺に住宅が建ち並ぶようになり、まるで斬首されたように異形に切り詰められています。数百年にわたって人間の営みをみつめてきた屋敷林のケヤキは、周辺に建った小住宅の住民から落葉が邪魔だと訴えられています。老木は台風で倒れる恐れがあるとの理由で、河川の樹木は流量が増したとき流れを妨げると言われて、伐採されず。

前工業化社会から工業化社会へと移行する一連の過程は、“進歩”とか“開発”と讃えられてきました。しかし自然環境保全という視点から見ると、それは人間の無知・無慮と貪欲によって蹂躪され収奪された歴史といえるでしょう。たくさんの動植物種が地上から姿を消しましたし、現在もそれは続いています。地球の許容能力を無視して拡大した人間活動が、地球環境問題を引き起こしています。増え続ける人口を養うために、森林は“開発”され、農業や漁業、畜産は機械化・集約化されました。しかしそれはもう限界です。今は立ち止まって考える癒しの時。“進歩”のときではありません。私たちに成し得ることは小さいことです。しかし、無用な伐採や殺戮はやめるようこころがけることはできるはずです。

孤独な求道者ヘルマン・ヘッセは樹木を神聖なものと呼び、印象深い言葉がたくさん遺しています。「樹木と対話することのできる人は、真理を手に入れる」、「樹木は生きることの根本法則を教えてくれる」など。

大量の雨が流れ込んで濁流が駆け下る中を必死になって耐え抜き、振(ねじ)れた姿をさらしている空堀川のクワの木は語っています。「私の姿をよく見てごらん。いろいろ辛い経験をして来たけれど、自分の運命を最後まで生き抜くつもりだよ。これが私の神聖な役目だよ。」

## この川に命を下さい

伊藤邦夫・秀子

この川は、有名な川ではありません。  
 この町の小さな川のひとつにすぎません。  
 しかも、汚いどぶ川という人もいます。それもそうです。  
 たまに大雨の時ぐらいしか流れていませんから。  
 それ以外は、乾いた白い小石がゴロゴロしている川だからです。  
 もう小さく小さくなった水たまりの中で、  
 泳いでいた小魚を見つけることはできません。

けれどもここからは、家並みのあいだからちよっぴり  
 富士山が見えるんです。ここには、この川の周りを散歩する人、  
 ジョギングをする人、車椅子で通る人、杖を突いて歩く人、  
 小学校へ通う子供たちがいます。四季折々の川の周囲を巡りながら、  
 それぞれの思いをこの川に托しながら。

でもどうして水が流れていないのでしょうか？  
 どうして清らかなせせらぎがないのでしょうか？  
 誰がこんな川にしたのでしょうか？  
 川は、泣いているのに違いありません。

私たちの知ってる昔の思い出の川は、きらきりと流れ、  
 夏の暑い光の中で輝いていたではありませんか。  
 春には菜の花が咲き、夏には黒い糸トンボが飛び回り、  
 秋には秋あかねが飛び、冬にはさらさらとした雪の中を  
 透けて流れる川があったではありませんか。  
 幼い頃の思い出を閉じ込めてはいけません。  
 またこの川に命を吹き込もうではありませんか。  
 人と川の絆をもう一度取り戻そうではありませんか。

川に命を戻しましょう。  
 きっと笑顔の川になってくれるでしょう。  
 川に命をください。

## 不法投棄(その後)

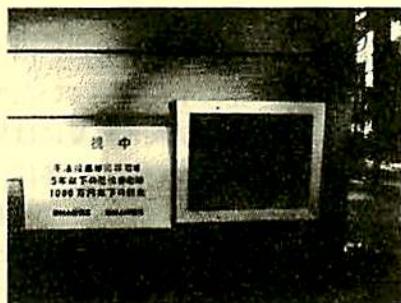
友保 邦弘

空堀川の「からぼり広場」の近くに「仲よし広場」なる公園があります。ベンチやトイレも完備していて近隣の市民に親しまれた居心地の良い公園です。ところがこの公園ができて以来ゴミのポイ捨ては日常茶飯事、大掛かりな不法投棄が後を絶ちません。そのあたりの実情は前号(61号)に述べた通りです。そこで止むなく一計を



案じました。あまり効果の期待できない方法ではありますが、写真のような警告文書をトイレの横壁に貼り付けました。ゴミを捨てようと思って近づけば必ずこのステッカーが目に入るはずです。そこで思い留まるような人間であれば初めからゴミのポイ捨てなんかやらないとは思いますが。とにかく何か手を打たなければ……

との思いでこのステッカーを掲示してみました。さらに念には念を入れよということでトイレの裏側の壁にはステッカーの他に鏡を取り付けました。この狙いは、犯人がゴミを捨てようとした時チラッと自分の顔が映る。確信犯であるから一瞬「ドキッと」す

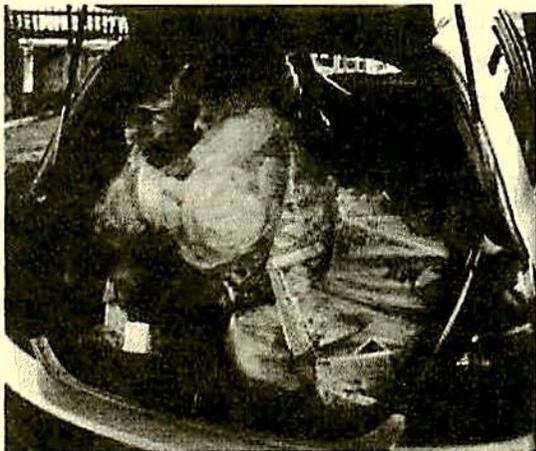


る。しないかもしれない。「これはヤバイ」と反省するかもしれない。たぶん「しない」だろう。しかしながら「何かしらんが変なことをやっているナ」……という風を感じてくれればメッケもの。

数日してから効果の程を確かめようと現場に行ってみました。結果は右の写真の通りです！

まったく効果はありませんでした。むしろ前よりひどいぐらい。やむなく分別して車に詰め込んで秋水園に運んで処分してもらいました。

最近ホームセンターのチラシで画期的なグッズを見つけました。超小型防犯カメラ（SD カード記録式）が手頃な価格で売り出されました。これを設置して「必ず犯人を見つけてやる！」



これで駄目ならもうお手上げです。



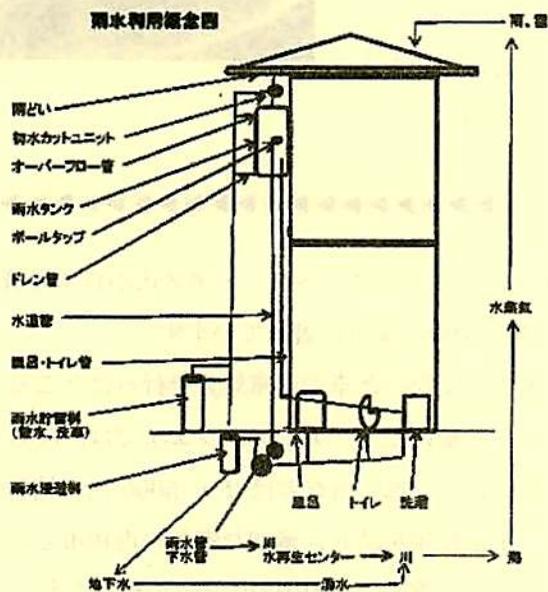
ノルウェイのハンス・ペター・ネス氏が日本経済新聞夕刊（2010年3月8日号）で次のように書いています。

日本で古くなった車の廃車処分を行ったところ、処分費用を請求されてとても驚いた。一方、ノルウェイでは、決められた廃車処分の手続きを行えば、車の所有者は2万5000円の補助金を受け取れる。ともに、不法投棄を防ぎ、適切な資源の再利用を促すための制度なのに、このように違うのは両国の国民性の違いだろう。

## 提言 「雨水利用システムによる水循環の構築」

友保 邦弘

NPO 法人「空堀川に清流を取り戻す会」は長年にわたり「清流復活」を目指して様々な活動や提言を行ってきた。しかし残念ながら現在までその目標達成は遅々として進展していない。都市河川に共通の現象で「空堀川」は数日雨が降らなければカラカラになり、生き物は死滅する。しかるに一旦雨が降れば一気に増水、濁流と化す。集中豪雨ともなれば甚大な都市型水害の危険が高まる。これに対処するため河幅の拡張・直線化・遊水池の設置などに膨大な予算がすぎ込まれて工事が進んでいるが、年々頻発するとみられる予想をはるかに超えたゲリラ豪雨に見舞われた場合には大水害が発生することは明らかである。そこでこの緊急課題を解決するための「雨水利用システム」を「空堀川」に当てはめてその概要を以下に提言する。設備の概略機能は次の通り。降った雨を雨水タンクに入れる。降り始めの汚れた水は「初水カットユニット」で除かれ、きれいな雨水が雨水タンクに入る。貯留した雨水は風呂、トイレ、洗濯に利用する。雨水が少なくなったら直結した水道水が補給される。余分な雨水はオーバーフロー管で雨水貯留桝へ、さらに余分は雨水浸透桝で地下に浸透させる。要するに降った雨がいきなり川に流れだすのではなくて、雨水タンクに貯留



され、風呂、トイレ、洗濯に利用され、さらに余った水が散水や洗車に利用されて、使いきれない部分が地下水となり一部が少しずつ川に流入することになる。河川への流出係数が大幅に減少し、地下水位の上昇で湧水の復活と相まって川の水が涸れることなく安定した維持水が期待出来るのである。

武蔵村山市，東大和市，東村山市，清瀬市を貫流する空堀川の左右両岸から各々500mの範囲に約72000の住宅がある。これらの住宅に図の雨水利用システムを設置する（1世帯当たり総費用80万円）。10年計画とすれば1年に7200世帯に設置することになる。総額は年間58億円となり都が10億，国が14億を負担するものとし，4市の年度予算の3%をこの事業に充当し，個人負担を10%（8万円）とすれば，市民と行政の応分の負担で実現の可能性が高い公共事業となる。

この事業を推進することによるメリットと波及効果を要約すれば下記の通りとなる。

- 都市型洪水の減少 → 人命と財産の保護・保全 → 税金の無駄遣いの減少
- 水道水の節約 → 上水道のスリム化と水道代の節約 → ダムなど不要不急の事業凍結
- 公共事業の質の転換 → 農林業政策への応用 → 税金の有効利用
- 地下水の涵養 → 湧水の促進 → 生物多様性と河川景観の回復
- インフラの整備・拡充 → 設置とメンテナンスによる雇用増大 → 失業率の低下・社会不安の解消

ここに提言したシステムは技術的に困難な点は皆無であり，その気になれば明日からでも取りかかれる事業である。個人住宅にとどまらず，公共施設，工場・事業所，集合住宅等にも対応すればさらに大きな成果が得られる。数値的なデータは概算値や推定値であるので専門家の精密な試算が必要であるが，この事業による効果は想像以上に多大であると確信する。「水」という貴重な資源を有効活用することは環境立国を目指す日本の責務でもある。

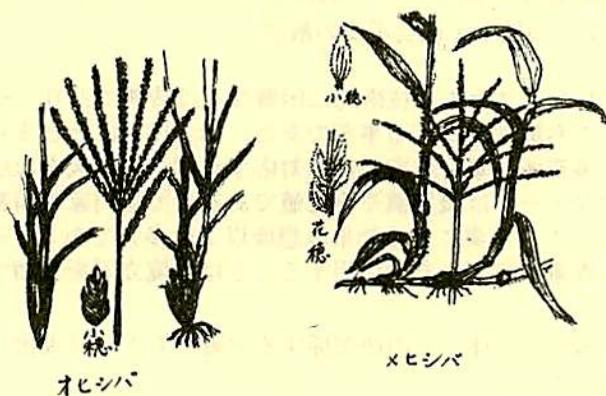
この提言を国や自治体，その他関係する分野の方々に具現化して頂くことを強く祈念する。

## 空堀川の草木 33 オヒシバ・メヒシバ (イネ科)

有川 栄子

オヒシバ：日本国内いたるところ、道端などの向陽地に生える一年草。ひげ根を出し、叢生し、緑色で高さ 30—50 cm 位。茎は直立または斜上してまばらに分枝し、葉は強く、細長い線形、葉縁に白色の軟毛がある。夏、茎の先に長さ 5—8 cm 位の穂を 2—6 個放射状に出し、小穂が穂軸の片側に 2 列に並ぶ。根が丈夫で引き抜くのに力があることから力草とも呼ぶ。雄日芝（オヒシバ）は雌日芝（メヒシバ）に比して大形で丈夫。ヒシバとは夏の激しい陽射しの下でもたくましく繁茂することによる。

メヒシバ：雌日芝は雄日芝に対しての呼称。オヒシバと同じようなところに生える一年草。根元から数本の茎を分けて広がり、細長い節に細かい毛がある。葉は線状披針形、先は尖り、縁に鋸歯があり軟らかい。夏から秋にかけて、葉の頂に花序の枝を放射状に出す。この草は茎が分枝して地を這い、畑地にはびこるので農家の人たちは非常に嫌う。別名スモウトリグサともいい、子どもたちが茎を引っ掛けて引き合い、切れたほうが負けとなる遊びに使う。



## 八郎山ニュース

加藤敏子

昨年 11 月下旬学習会と外来植物の除草をしてから早や 2 ヶ月が経ち、去る 1 月 24 日、「淵の森」の下草刈りほかの作業に合わせ、八郎山の植樹

作業を行いました。「淵の森」の方は宮崎駿会長のもとに毎年 100 名程のボランティアが集まり、マスコミにも取り上げられる有名な作業です（夕方のテレビニュースにも写りましたね）。たくさんのカメラのシャッターが切られる中、①なるべく山野草の芽を踏まないよう筐を取るなどの作業をすること～これに



については絶対無理なことなので笑いながら、②黄色のテープが貼られた木は移植する木であること、③赤いテープがはられた木は切ること、④刈った下草を集める場所、⑤遊歩道沿いに張られたロープの交換、ぐらついた杭を直すなどの説明がありました。

一般のボランティアは川向こうの八郎山には行かないよとの指示があり、今までに何度か八郎山に関わった 20 名ほどのメンバーだけで苗木の移植を行いました。「淵の森」よりも狭い八郎山の、今までの手入れで息を吹き返したばかりの山野草の芽を守るためです。黄色のテープを貼られた淵の森育ちの苗木を 30 本ほど、柳瀬川を渡って運び、八郎山の斜面と上の民家との境に植えました。

この寒さで大丈夫かな、3 割位は根付いてくれるかなと話しながら、穴を掘り、水をやり、苗木を植え、土をかけて終了しました。当日のほんのわずかな作業しか手伝えなかった私ですが、前もって移植する苗木を選び、テープを貼って準備して下さった方々、前回の作業の様子を写真付きでプリントし、今回のお知らせと一緒に郵送して下さった方々など、陰の人たちの働きに頭がさがります。そのような人たちのおかげで身近な自然が残る憩いの場所が守られるのだとつくづく思いました。

## 第二回 空堀川 子どもの水辺協議会開催

第二回 空堀川子どもの水辺協議会は去る2月15日(月)東村山市役所いきいきプラザ4階において午後1時30分開催されました。出席者は教育委員会太田指導主事, 社会教育課課長代理, 河川管理者から工事第二課野村課長, 管理課関川課長, 都市整備部道路交通課池谷課長補佐, みどりと環境課小田課長, 下村社会福祉協議会ボランティアセンター長, 当会から小林, 友保理事長, 岡田副理事長, 安岡理事の4名が出席しました。

当会岡田一郎が司会し, 小林会長の挨拶につづき, 河川管理者の野村課長, 太田指導主事の挨拶があり, 会長が一年間の子どもの水辺における活動報告を行いました。太田指導主事からは「資料の中で子どもの顔が判別できるのはまずい。使うなら親の許可を受けなければ使用できない」といわれ, また「総合の時間が大幅に減る, 色々なテーマを先生が考えて行うので, 指導主事から水辺の学習を積極的に進める立場にはない」との発言がありました。

当会の友保邦弘から22年度の活動計画の説明があり了承されました。次いで, 前会長小林のお礼の挨拶に続いて, 新会長の意気込みのこもった挨拶があり, 午後2時30分第二回空堀川こどもの水辺協議会は終了しました。



3月3日, 子どもの水辺 ビオトープで二種類のカエルの卵を確認しました。紐のように長いのはヒキガエル, 丸い塊はアカガエルだと思います。ツチガエルは6月以降に産卵するので, 上記の二種類のカエルだと思います。生態系にとって良いことがあったのかもしれませんが。

## 子どもの水辺に植樹

小林 寛治

2月28日(日)、午後2時から「子どもの水辺」

WAKUWAKU ひろばの環境整備を目的に、植樹を行いました。浄水場の塀に沿って昨年植えた8本のソメイヨシノに続いて、シダレザクラ1本、アオダモの枯れ木を除いて同じアオダモ1本を植えました。氷雨模様の空も2時過ぎには青空に

かわり、暖かな陽気になりました。当会から6名、「小彼岸桜の会」から橋本会長ほか1名、お誘いした平田憲二氏(和彦さんのお父さん)の合計9名が参加しました。



植樹後、有川さんのお汁粉の接待があり疲れも取れて大好評でした。遊びに来た子ども達もお汁粉によばれ、何杯もおかわりして、なべが空になりました。

平田さんからは河川の植栽基準(国交省)、河川敷の樹木の伐採、草刈等にかかわる諸法令についての話があり、また

資料の提供もありました。有意義なひとときでした。

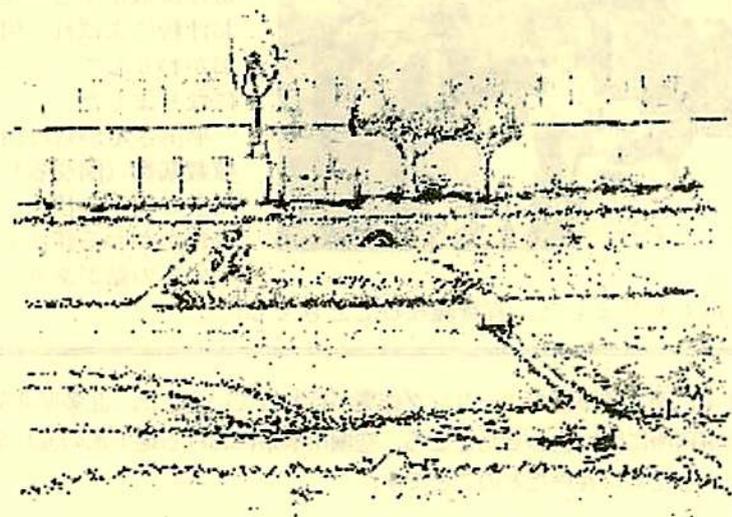
2月末に栗木橋下流でボーリング作業が行われていました。北多摩北部建設事務所に問い合わせたところ、空堀川水系における地下水の流れを調査するための井戸だとのことでした。

## 空堀川の水清く

国田隆雄

今年の冬は思いのほか寒くて、空堀川も凍っていました。そんな中、年明け早々誘われて、『空堀川に清流を取り戻す会』に参加させて頂きました。入会のきっかけは、①水が無く無残に干上がった川が何とかならないのか、②ゴミが捨てられている汚い川の姿を見て、「これは放って置けない」と、誰しもが思う動機によるものでした。

私が今の萩山に住んで約半世紀以上、子供の頃を思い浮かべてみても空堀川の記憶はほとんどありません。小学校の課外授業で、今の天王森あたりの畑と赤土の土手へ行って、細流と、水たまりがあった事を思い出します。まだコンクリートブロックや護岸工事などなくて、土手に若草が生えていたのどかな春の思い出でした。東村山の水利はもともと良くなって、田んぼの無い、畑ばかりの、雑木林が続く所、冬に風が吹けば赤土の砂埃で空が赤くなることがしばしば、そんなところから先人は水利の為に野火止用水を引いたのでしょう。空堀川はその名の通り、空堀で、川底が水を吸い伏流水を地下に溜めた頼りない川だったのかも知れません。



近年遊歩道が整備されて川岸を散歩するようになってから、そんな空堀川に対する新鮮な興味と親近感が湧いてきました。自然のままの空堀川だったら興味を抱かなかったかも知れません。人の手が加わって整備され、護岸や歩道が作られたからこそ川に近寄れるようになり、私と川との関わりができたのです。

ところで今の空堀川は私達の暮らしとどう関わっているのでしょうか。本来の川の持っている力を生かせないものなのか、例えば、魚を飼う、虫を育てる、はたまた「川の水で田畑を作って」などと・・・空堀川の底力、生産的な「川の力!!」を引き出して、具現化する場があれば、私達の暮らしと空堀川をもっと身近に結びつけるきっかけになるのではないかと考えています。もっとも水量が問題ではありますが。

付記：国田隆雄氏は、萩山町在住で、今年1月に入会されました。上の文は氏の空堀川に寄せる思いとスケッチです。

\*~\*



2月末のある晴れた日の「ふれあい広場」に、先生に連れられた保育園の園児が遊びに来ていました。おそろいのピンクの帽子をかぶって。以前昼ごろに通りがかったときには、中年過ぎの女性の5人ほどのグループに、「ここに入ってお弁当を広げてもいいですか?」とたずねられました。

文字通り「ふれあい広場」となり、川と人、人と人をつなぐ場となっているようです。

## 子どもの水辺から

### 空堀川「子どもの水辺」の流量調査

小林 寛 治

空堀川は何時も水が少なく、東村山市内下流域で川に流れを見ると、懐かしさを感じるようになりました。

生活排水が混ざっていたときにはある程度流れが保たれ、多くの魚や水鳥を楽しむことが出来ました。水量については『「子どもの水辺」WAKUWAKU ひろば』でも大きな関心事の一つです。

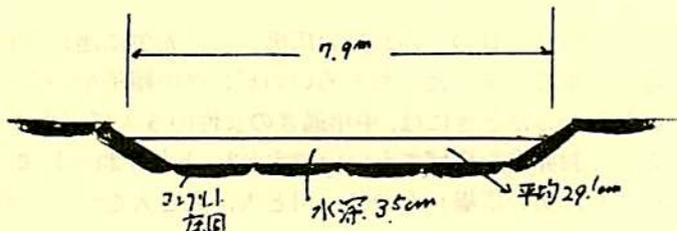
会では行事の1つとして流量の測定を定期的に行っていますが、私も出来るだけ正確に測定しようと度々調べてきました。そこで、今回は「子どもの水辺」からの情報として提供したいと思います。

河川の流量（流れている水の量）を測るには、出来るだけ川底が平らの方が測りやすいです。「子どもの水辺」では浄水橋の直ぐ上の河床を固めた場所が格好の調査ポイントです。水深のあるところでは表面の流れの速さと深い所の流速が異なり、また岸寄りと流芯（流れの芯となる所）とでも異なります。水深が浅い空堀川では岸辺と中程と分割して断面積を測り、合計して流量を計算します。

計算式は、 $\text{流量}(Q) = \text{平均流速}(V) \times \text{断面積}(A)$  です。

私たちの会では、平均流速はプロペラ式の流速計で分割したブロック毎に何度か測って平均流速を出して計算します。プロペラは上流に向けて正面から水を受けるようにすると正確に測れます。浄水橋のすぐ上は川底が平らで、川幅も8m前後で断面積を計算しやすいです。

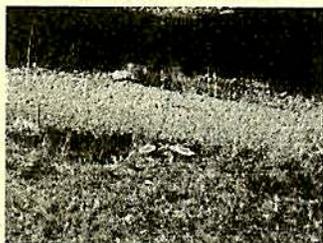
2009年12月12日は、 $\text{流量}(Q) = 0.291(V) \times 0.276(A) = 0.080 \text{ m}^3/\text{s}$  です。したがって毎秒、80リットルの水が流れていたこととなります。これは前日に雨が降った結果で、平常の2倍の水量でした。



## インフォメーション

### 河川敷の樹木伐採さる

昨年 12 月半ば、突然空堀川河川敷のクワの木が伐採されるという出来事がありました。毎年定期的に行われる草刈りに際しては、刈り残して欲しい植物（主として在来種）をマーキングするなどして、当会と東京都は望ましい川の姿のために一緒に活動してきました。生長を楽しみにしてきた樹木が、前もって知ら



られることなく伐採されたことに対して、NPO 法人「空堀川に清流を取り戻す会」理事長の名前で東京都北多摩北部建設事務所宛てに「要望書」を送付しました。

### カワツザクラ（河津桜）が咲きました!

馬頭橋右岸のカワツザクラが咲いています。カワツザクラの原木は野生状態で発見され、のちに静岡県河津町に移植されました。片親はカンヒザクラであることは確実で、「もう一方の親は不明であるが、オオシマザクラであるとする説がある」（日本の桜：山と溪谷社）とされています。



花は直径 3 センチほど、花卉のふちは色が濃くなっています。まだまだ楽しめます。ぜひ見にお出かけください。

### 清瀬「カタクリまつり」

今年は 3 月 27 日から 4 月 4 日（午前 10 時～午後 4 時）まで、清瀬市の中里緑地保全地域（空堀川に面した「お化け山」からせせらぎ公園脇までの 3 地区）で「カタクリまつり」が開催されます。

葉が出る前の早春の林の中で開花し栄養分を鱗茎に貯えたカタクリは、5 月にはもう地上部が枯れてしまいます。ヒロハノアマナ、イチリンソウ、ニリンソウなどのようにスプリング・エフェメラル（春のはかない命）と呼ばれる植物です。”堅香子（かたかご）“の古名をもつこの植物は、東京都 23 区と北多摩地区では絶滅危惧種に指定されています。

## これまでの経過と

## 今後の予定

(2009/12/25 ~ 2010/05/30)

- ◎12/24,25 空堀川清掃 有川・  
嘉手川・垂水
- ◎01/09 第 142 回定例会・新年  
会
- ◎02/13 第 143 回定例会
- ◎02/14 第 2 回子どもの水辺協  
議会 小林・岡田・友保・  
安岡
- ◎02/25 空堀川清掃 有川・嘉手  
川
- ◎02/28 「子どもの水辺」にて植  
樹
- ◎03/02 「第 12 回川まつり」実行  
委員会事前打合せ
- ◎03/10 「第 12 回川まつり」実行  
委員会
- ◎03/13 第 144 回定例会
- 04/10 第 145 回定例会
- 04/18 春の空堀川クリーンアッ  
プ
- 5月下旬 第 12 回川まつり

## 原稿募集

がたろう通信の原稿をお寄せく  
ださい。

- ・原則として写真・図表を含めて  
1 ページ、文字数にして 950 程  
度にまとめてください。
- ・投稿された文章はお返ししませ  
んのでご了承ください。
- ・引用する場合には、原典を明記  
してください。

## 会員募集

「空堀川に清流を取り戻す会」の  
活動を支援し、参加してくださる方  
を募っています。

私たちは空堀川の自然再生と河  
川本来の景観の復元による街づく  
りを目指しています。

NPO の活動に関心のある方、お  
問合せください。

◎会費は次の通りです。

## ・個人の場合

入会金 2,000 円

年会費 2,000 円

## ・団体・法人の場合

入会金 一口 10,000 円

年会費 一口 10,000 円

## ・賛助会員 (入会金不要)

個人 年会費 2,000 円

団体・法人 年会費 10,000 円

## ◎会費振込先

郵便振替 口座名：がたろう

口座番号：00130-3-729803

◎お問い合わせは下記までお願い  
いたします。

東村山市萩山町 2-19-10

友保 (ともやす)

TEL/FAX : 042-394-9978

# からぼり川

がたろう通信

第63号

2010年6月12日発行

特定非営利活動法人 空堀川に清流を取り戻す会

ホームページ:<http://homepage2.nifty.com/karaborigawa/>

発行責任者:友保邦弘 TEL/FAX 042-394-9978 東村山市萩山町 2-19-10



## 第12回空堀川「川まつり」が無時に終了しました

5月30日は肌寒い陽気ではありましたが、心配された雨も降らず約3500人の人出で賑わいました。今回の特徴は子ども達のグループや親子連れが目立ったことです。川まつりを通して多くの市民に空堀川に対する関心を持ってもらうためにも、今後は、空堀川の問題点や望ましい未来像についてのパネル展示など、川に関係したイベントを充実させる必要があります。

## 植物リスト

正路 妙子

「清瀬の自然を守る会」が長年にわたって行っていた清瀬の植物調査の結果が、100ページを超える冊子「清瀬の植物」として実り、2010年3月清瀬市から公開されました。昭和61年から62年にかけて刊行された「清瀬の自然 フィールドガイドブック」春・夏・秋冬の三冊本も、季節ごとに観察される植物、昆虫、野鳥の美しい写真が一杯の、手に取るのが楽しい図鑑でしたが、今回はA4判、豊富な写真に、1000種類以上の「清瀬市の植物リスト」が加わり、植物学的に貴重な資料です。絶滅危惧種とされる植物もいくつか記述されていますし、「清瀬から消えた植物」のページもあります。「消えた植物」について記述できるのは、それが存在していたときの記録が清瀬市には残っているからです。

東村山市には、空堀川の植物については神山みつ江氏が作成したリストがあり、ホームページで公開されています。また、2008年に市有林となった八郎山では、今泉安広氏や所沢の「淵の森協議会」並びに「清瀬の自然を守る会」のメンバーの協力を得て、植物観察会が頻繁に開かれ、経年変化を記録し、里山の植生復元の試みが続けられています。2年の間に、柳瀬川に沿った河畔林エリアの高木を伐採し林床に光が届くようにし、また年に数回の草刈を行い、ヒメジョオンやシヨカツサイなどの帰化植物や、繁殖力が旺盛で他の植物を駆逐してしまう恐れのあるクズ、カナムグラなどの蔓植物を注意深く除きながら、多様な在来種の育つ空間を確保するための努力が重ねられてきました。その努力が実って、今年の春は河畔林の下にイチリンソウ（一輪のみならず二輪出ているものが多数観察された）、ニリンソウ、ジロボウエンゴサク、ヤマエンゴサク、ムラサキケマン、タチツボスミレなど、驚くほど豊かな植生が確認されました。

八国山や地権者の許可を得る必要のある雑木林などの植生についても、現在の植物リストを早急に作成する必要があります。東村山の現存植物の記録を残し、それを将来の記録と比較することによって、新しく侵入した植物や絶滅した植物を認識し、地域の環境の特徴と変化を把握することができます。今年10月には名古屋で「生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）」が開催される予定です。着手するのにふさわしい時です。

## 第 11 回 定期総会の概要

第 11 回定期総会が 5 月 8 日（土）午前 10 時から東村山市地域福祉センターで開催されました。出席者 13 名、委任状提出者 17 名でした（会員総数 34 名）。

定刻 10 時に司会者の垂水荘司理事 からの推薦により、総会議長に加藤敏子氏、議事録署名人として正路妙子、安岡雅永の両氏、書記に安岡雅永氏が選出されました。

議長の挨拶の後に審議に入り、第 1 号議案「平成 21 年度事業報告及び収支決算報告を求める件」を友保邦弘理事長が説明し、安岡建依会計担当理事から会計の詳細が報告されました。続いて関連する第 2 号議案「平成 21 年度会計監査報告の承認を求める件」が小倉安洋監事から報告された後に、議長が一括質疑を求め、全員の拍手で承認されました。次に第 3 号議案「平成 22 年度事業計画（案）及び収支予算（案）の承認を求める件」を友保邦弘理事長と岡田一郎副理事長が説明し、議長が質疑を求めたところ全員の拍手によって承認されました。最後に第 4 号議案「役員改選の件」が取り上げられ、役員改選の件については全役員が任期途中のため改選は行わず、小林寛治前理事長が顧問に就任したことを友保邦弘理事長が報告したのち、議長が質疑を図り、全員の拍手で承認されました。

総会で予定された全ての議案が承認された事を議長が確認したのち、その他の件で質問あるいは意見を求めたところ、会員管理担当の有川栄子理事から年会費未納の会員に対する請求方法について質疑がありました。この件については、小倉安洋監事から、会員管理は理事会の重要事項であるので別途理事会において審議するよう提案があり、定期総会は 11 時 5 分に終了しました。

(4)

## 平成 22 年度 事業計画

安岡 建依

第 11 回定期総会で承認された平成 22 年度事業計画は次の通りです。

### I. 実践活動

- 子どもの水辺の維持管理：東京都北多摩北部建設事務所と取り交わした「覚書」に基づいて「子どもの水辺」の維持管理を行います。具体的には、日常の清掃、簡単な草刈りおよび木本植物の手入れ、堆肥作成施設および手押しポンプ関連施設の維持管理、住民の意見や要望の取りまとめ等です。  
また東京都北多摩北部建設事務所のサポートを受けて、既設のピオトープの改良作業や安定水量確保のための湧水・貯留施設の拡充を行います。
- 環境学習支援：「子どもの水辺協議会」と連携して「子どもの水辺」を活用した環境学習支援を行います。
- 川まつりへの参加：5月30日「からぼり広場」にて実施済みです。
- クリーンアップ作戦：春期は4月18日に実施済み、秋期は11月に予定しています。
- 水量・水質調査：「子どもの水辺」を中心にして、水質・水量・昆虫・鳥類・水生生物・植生等の調査を行います。
- 内野吉之助緑の基金事業：空堀川流域の緑化を行います。

### II. 普及啓発活動

- 会報の発行：年間4回、会員および公共施設への配布を行います。

### III. 提案・提言活動

- 空堀川の類型指定の変更：空堀川的环境基準（水質）の類型指定を現在のE類からC類に格上げするよう関係機関に働きかけます。
- 空堀川的环境整備：御成橋付近の環境整備計画を立案・図面化し、実現に向けて関係機関に働きかけます。

### IV. 収益事業

- 広苑整備：東村山市都市環境部から委託された2件の契約を履行します。

## 春の空堀川は花でいっぱい！

神山みつ江

「ここに見慣れない花が！」……かわいいう花を見つけたので園芸植物に違いないと思い込んでしまいましたが、ヒメウズというキンポウゲ科の野草でした。また、おいしそうなオレンジ色のキイチゴを見つけたら、カジイチゴ。普通に見かけるハルノノゲンだと思ってよく見たらコウゾリナ。茎に細かくザラザラした毛が生えています。私の植物観察経験は浅く、



ヒメウズ

その場で植物の名前が出てこないこともよくあるので、後で調べて図鑑で判明したときの嬉しいこと！

今年はアリアケスマレやタチツボスマレ、カントウタンポポ、シロバナタンポポも数ヶ所で見られましたし、ヒメオドリコソウ、オオカワヂシャ、オランダガラシが大きな群落を形成して

いました。もちろん早春の野草、オオイヌノフグリがカーペットのように敷き詰められている場所もありました。同じゴマノハグサ科の植物ではタチイヌノフグリ、フラサバソウ、ツタバウンランだけでなく、今年初めて発見したコゴメイヌフグリという、フラサバソウの青い花を白に染めたような野草も見られました。カラシナが一面に咲いていて、そこを通り抜けるのに一苦労する場所もあります。菜の花でおなじみですが、カラシナだけでないこともわかりました。1ヶ所だけですが、セイヨウアブラナの群生がカラシナの大群生の隣にありました。ハーブ類はアップルミントだけでなく、スペアミントも確認できました。

今年は早めに調査を始めたおかげで、可憐な花を見つけられましたが、イネ科の植物に関しては、穂を見ないとまるでわかりません。穂が出てからもう一度見に出かけることになりました。おなじみのカラスムギ、ネズミムギ、イヌムギ、オニウシノケグサ、カモガヤ、シナダレスズメガヤなどの中にイチゴツナギ、カモジグサ、アオカモジグサ（カモジグサは茶色のノギですがアオカモジグサは全草が緑です）、クサヨシが穂を出しています。

イネ科以外の植物では、オニタビラコ、ケキツネノボタン、ハルノノゲン、キショウブ、アメリカフウロが花盛りです。ヘビイチゴにはもう実がなっています。4月の調査ではほんのわずかししか見られなかったメドハギ、イタドリなどが、今群落をなし、クズがツルを少しでも遠くへ伸ばそうとがんばっています。

## 第12回空堀川・川まつり開催 ～開催にいたる当会準備委員の活動から～

岡田 一郎

恒例となった「空堀川・川まつり」は5月30日に行われました。市民が川に親しみ、河川環境についての関心を高める地域、町おこしの市民まつりとして定着したこのイベントも、昨年度の準備会スタート時にはそれまで主導してきた商店会等の役員幹部の脱会で、継続が危ぶまれた経緯があります。当会が「川まつり」の主幹事団体として引継ぎ、2年目を迎えた第12回川まつりの準備委員会は3月10日に第1回が開催され、小林実行委員長から引継いだ当会理事長の友保新委員長の主導でスタートしました。この会は毎回19時から21時の会合で、5月14日のイベント進行、役割分担、そして展示ブース・模擬店の設置位置の最終確認会まで4回の委員会を開きました。なお、地域4自治会との準備委員会に臨む下打合せ会を3月2日に行っています。第2回では北北建、市役所、地域4自治会、空堀川に清流を取り戻す会の7団体、計14名から成る実行委員会を立ち上げ、事務局には北北建、市役所の9職員が承認されました。第3回には改めて「空堀川・川まつり実行委員会の運営要領」を新策定し、川まつりの目的を『「空堀川子どもの水辺」一帯で、広く市民が自然に親しみながら、町おこしと河川文化の創出をおこない、良好な河川環境を後世に継承するために「空堀川・川まつり」を実施する』とし、この目的達成のための実行委員会の事業として以下の4事項、①川まつりの実施計画の策定および決定、実施に関すること ②川まつりに係わる予算、決算に関すること ③川まつりに係わる広報・宣伝に関すること ④その他、川まつりの運営全般に関することを明文化したことで、川まつり実施の方向付けも明確になりました。

市報の5月1日号では「第12回 空堀川・川まつり フリーマーケット出店募集中」が、15日号では「第12回 空堀川・川まつり ～川と地域のまちおこし、みんなで川を楽しもう～」のタイトルで写真入り告示記事が掲載されました。なお新聞二紙にPR記事掲載を依頼し、読売新聞が29日朝刊の多摩版に約300字数で掲載してくれました。他に手作りで作成した立て看板10個所、ポスター100部、そして5,000部の3色チラシは近隣の朝日、東京の各新聞販売店の無料新聞折込みで行われました。これらの広報活動等による当日の市民動員数は子供を中心に約3,500名と試算されました。一時、徹底不足で美住町集会所トイレを使用禁止にして、女性利用者のクレームが続出しましたが、程なく解決しました。終始降雨もなく、会場の準備作業とイベントスケジュールも予定通りに進行し、また事故もなく15時前には終了しました。6月15日に次年度に備えての反省会が開催されます。改善等の皆様のご意見をお待ちしています。

## 第 26 回空堀川クリーンアップ 大沼田橋～秋津南橋を担当して

加藤 敏子

今年の春のクリーンアップは4月18日に行われました。雨による中止が1, 2回あったと思いますので、春秋年2回で26回。つまり会ができて14年が経過したことになります。過ぎてみれば本当に月日の流れの速いこと。私が参加してから10年。年をとった証拠ですね。

さて当日は良い天気でした。さらに、41年ぶりの春の大雪のおかげで、いつもは瀬切れでジャリがあちこちむき出しのあわれな川に雪解け水がさらさらと流れ、途切れることのないきれいな流れを見ながらのクリーンアップとなりました。開始直後は、前日の雪の涼しさを感じたものの、少しずつ暖かくなり、途中から上着を脱いでしまいました。川の流れのほかに、川原の菜の花も見事(特に下堀広苑前)で、花に寄ってくる蝶たちの優雅な舞いも楽しみながらの清掃作業でした。集合場所の下堀広苑から離れているために、いつも開始時間になると一人か二人で大沼田橋から始めます。今年も一人でやり始め、終了時間に遅れるかなと思っていましたら、区間の途中で上流からきた森永乳業の方など男性4人が加わって下さり、予定より早く終わることができました。毎月有川さんと仲間でお掃除してくださっていたお陰(10袋以上がすでにまとめられてありました)で、ゴミが少なかったためでもありました。

それにしても、河川敷、遊歩道などをウォーキングする人、ジョギングする人、犬との散歩を楽しむ人など、大勢の人が通り過ぎましたが、声をかけて下さった人は二人だけ。期待するわけではありませんが、身近な川への関心の薄さを感じました。それと同時に、「義務と権利」の如く、「利用と労力」との関係を考えさせられた半日でした。

.....

今回のクリーンアップの参加者は、東京都北多摩北部建設事務所、市役所都市環境部、森永乳業の方々をはじめ、立て看板やポスターを見て参加を決めた一般市民に当会会員を加え、上流部44名、下流部33名となりました。昨年春よりはゴミが少なめであったとはいえ、自転車、マットレス、綿入り布団、パイプ椅子など、運び上げるのに骨の折れる粗大ゴミが見られました。

## 空堀川の草木 34 シロバナタンポポ (キク科)

有川 栄子

関東地方から西日本各地、特に九州、四国に多く、日の当たる道端などどこにでも見られる多年草。早春にロゼット状に葉を出し、葉は少し大きく、立った感じがする。淡緑色で軟らかく、3月から4月頃に葉の間から花茎をぐーんと伸ばし高さ20~30cm位になり、その頂に白い舌状花からなる径3~4cmの頭花をつける。萼(がく)のような総苞片(そうほうへん)は反らない。本種は花冠が白色であるので、容易に見つけられる。空堀川を歩くと、野口橋やなかよし橋あたりに見られるが、数は多くない。その近くには在来種のカントウタンポポも健在。

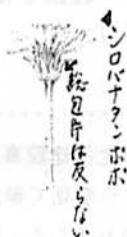
タンポポは太陽の光を受けて開き、夕方になると閉じる。それを3日間くらい繰り返し、花が終ると閉じた苞(ほう)の中で実が生長し始め、実は熟すと白い毛の球状となり、風に乗って種子はフワフワと飛んでいく。

名前の由来は球形の果実穂がタンポ(布で綿をくるんで丸めたもの。拓本などに使う)を想像したものという。(牧野植物図鑑より)

シロバナタンポポとセイヨウタンポポの  
総苞片の比較



セイヨウタンポポ  
総苞片は下に反転



シロバナタンポポ  
総苞片は反らない

シロバナタンポポ



果実穂



とう果

## 2000 本が目標

東村山市小彼岸桜の会  
会長 橋本 一郎



2月の中頃、「空堀川に清流を取り戻す会」の小林前理事長に「空堀川の管理道路に小彼岸桜の苗木を植えていただけないか」と問い合わせたところ、友保理事長に相談するようにとのことで、早速詳しい話を申し上げました。北多摩北部建設事務所と連絡をとって頂いて詳細を詰め、実施が決まりました。3月25日、雨の中、垂水、友保の両氏と私の3人で21箇所穴を掘り、28日に本番の植樹祭を行いました。当日は会の皆様や私共、それに小学生の姉妹など14名が参加して無事植え付けることができました。

ここで、なぜ小彼岸桜なのかということについて、思うところを申し上げます。一般的に樹木を増殖するには播種、接ぎ木、取り木、株分け、挿し木などがありますが、桜はほとんど接ぎ木の苗木で出回っており、挿し木は皆無に等しいのが現状です。挿し木は短期間で大量の苗木が生産可能という利点があるので当会では平成9年より小彼岸桜に挑戦し、長年にわたる研究開発の結果、挿し木方法の新技术をほぼ確立しました。その後、毎年挿し木を行い、都立中央公園や市有地である「廻田の丘」で2~4年の間育成し出荷をしています。とりあえず2000本の無償提供を目標としていますが、平成2年3月に1000本を達成し、もう後一息というところです。

小彼岸桜は花が小さく、鈴なりに咲き誇り、開花後期には花の色が一段と濃くなってきます。樹形は上空に向かって伸張り「ソメイヨシノ」より成長が遅く、狭い植栽場所にも適応し、どちらかと云えば都市向きで公園や道路、又は河川に最適な品種です。これまでに植栽した場所は都立公園、市立中学校・小学校、さくら通り、運動公園などです。また「みどりの祭典」や「清瀬カタクリまつり」等々で苗木の無料配布をしています。

この活動を始めた時以来「小彼岸桜あふれる市に向けて」をスローガンとして、目標達成まで活動を継続する所存です。今後も空堀川を小彼岸桜の咲き誇る川辺にする為に植栽活動を継続しようと考えておりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

**子どもの水辺から****「子どもの水辺」とカエル**

小林 寛 治

改修前の空堀川にはどんな生き物がいたのか、殆ど知られていません。記憶している空堀川には、汚いわりには多くの種類の魚や底生生物が棲んでいました。フナやコイ、ドジョウ・モツゴなどの魚、サカマキガイ・イシビル類・ミズミズ・ユスリカは川全体にいました。

不思議なことに、現在川の至るところに見られるオイカワはいませんでした。また、カエルといえばウシガエル。このカエルは改修前から棲みついていて、ウシのように夕方から夜半に鳴いていました。ウシガエルの名称はこの鳴き声から付いたものようです。改修された空堀川では一時姿を消していましたが、数年前からまた姿が見られます。今では、ワンドの入り口に陣取り、番兵のように、出入りするオイカワやコイなどを見張っています。食べ物、ワンドの周りの昆虫が主食です。このカエルも寒くなると周辺の柔らかい土に穴を掘って冬眠します。数年前の工事では冬眠中のウシガエルに重機が当たり大分殺されてしまいました。

私は昔、埼玉県の川口に住んでいたのですが、家の周りには田んぼばかりで田植えが済んで水が張られると、一斉にカエルの合唱が聞こえてきました。今では、一枚の田んぼはおろか畑もありません。トノサマガエル・ダルマガエル・ウシガエル・イボガエルもすべて姿を消しました。

そんなわけで、自然再生の重要な要素に、カエルが棲む環境があると考えています。空堀川の「子どもの水辺」区間にはほかにアカガエル・ヒキガエル・ツチガエル（イボガエル？）もいて、合計四種類が棲息するようになりました。ウシガエルは外来種で、終戦を境にアメリカザリガニとともににはびこり、今や市民権をもっているとさえ思われています。アカガエルは去年初めて捕まえたもので、普通のアカガエルでした。調べてみると、この地域では黒い模様が際立っているヤマアカガエルが多く狭山丘陵に棲みついていることが分かりました。ツチガエルは去年の親が何処かかといれば、今年もこれから出現してくるでしょう。

そんなわけで自然再生の指標として私はカエルを大事に見守っています。

## インフォメーション

### ◆河川隣接広苑の管理作業

当会では、市の都市環境部からの委託を受けて、河川隣接広苑の植え込み手入れ・芝生刈り込み・草刈り・除草などの作業を行っています。公共事業における草刈りに関しての標準的な仕様は「地面から5cm以下」ということになっています。そこで草の成長をコントロールして作業コストを低減するためには何時、どの程度、どのような方法で刈るのが効率的であるかを検証するための実験を5月から開始しています。年内に実験結果を報告する



予定です。

### ◆ハマナスの花が咲きました

「子どもの水辺」のハマナスの株が大きく生長し、いくつものピンクの花が咲きました。神山さんが植物調査の折り第二天王橋左岸上流で発見。毎年草刈りで刈り込まれる運命にあったものを、3人の会員が掘り上げて移植したもので、大切な子供の成長を楽しみにするように、見守っています。間もなく果実（酸味があっておいしいそうです）もみられそうです。

### ◆クワの実

6月上旬、河川敷のクワの実が黒く熟しています。袋を持参してクワの実摘みに余念のない人、枝を引っ張り寄せて摘んでいる散歩中のご夫婦、河川敷に降りて摘みやすい場所を探している人たちなど、空堀川のあちこちで見かけます。初春にはカラシナを、秋にはクコの赤い実を摘む人もいます。こんなことを通じて、川に関心を抱く人たちの輪が広がっていくことを願っています。

新会員です。どうぞよろしくお願ひします。

♥豊村洋治氏 東村山市青葉町

♥橋本一郎氏 東村山市栄町

これまでの経過と  
今後の予定

(2010/03/14～2010/06/12)

- ◎03/28 馬頭橋下流右岸にコヒガンザク  
ラ 21 本植樹
- ◎03/30 平成 21 年度第 3 回理事会 (21  
年度決算, 22 年度事業計画)
- ◎04/10 第 145 回定例会
- ◎04/18 第 26 回クリーンアップ
- ◎04/22 「第 12 回川まつり」 実行委員会
- ◎04/24 鯉のぼり取り付け
- ◎05/08 第 11 会定期総会, 第 146 回定  
例会, 午後鯉のぼりをおろす
- ◎05/11,12,13 下堀・ふれあい広苑定例  
作業
- ◎05/14 「第 12 回川まつり」 実行委員会  
(最終回)
- ◎05/26 鯉のぼり再取り付け
- ◎05/29 土曜子ども講座 (ヤゴ救出) 川  
まつりフリーマーケットの区画割り  
と放流用魚の捕獲
- ◎05/30 第 12 回川まつり
- ◎06/10 富士見小 3, 4 年生 ヤゴ救出作  
戦
- ◎06/12 第 147 回定例会, 13 時より水  
質検査 (身近な水環境の一斉調査)
- 06/15 八坂小 5 年生 空堀川探検と川  
遊び

会員募集

NPO 法人「空堀川に清流を取り戻す会」は、空堀川の自然再生と河川本来の景観の復元による街づくりを目指しています。私たちの活動を支援し、参加してくださる方を募っています。

NPO の活動に関心のある方、お問合せください。

◎会費は次の通りです。

・個人の場合

入会金 2,000 円

年会費 2,000 円

・団体・法人の場合

入会金 一口 10,000 円

年会費 一口 10,000 円

・賛助会員 (入会金不要)

個人 年会費 2,000 円

団体・法人 年会費 10,000 円

◎会費振込先

郵便振替 口座名: がたろう

口座番号: 00130-3-729803

◎お問い合わせは下記までお願いいたします。

東村山市萩山町 2-19-10

友保 (ともやす)

TEL/FAX: 042-394-9978

# からぼり川

がたろう通信

第64号

2010年9月11日発行

特定非営利活動法人 空堀川に清流を取り戻す会

ホームページ:<http://homepage2.nifty.com/karaborigawa/>

発行責任者:友保邦弘 TEL/FAX 042-394-9978 東村山市萩山町 2-19-10



## 【わくわく大発見】大盛況

7月17日(土曜日)、東村山青年会議所の主催によるイベント【わくわく大発見】が行われ、青空のもと、「子どもの水辺」に子供たちの元気な声が響きわたりました。市内の小学校4年生から6年生が空堀川に集い、ゴミ拾い、生き物調べ、ボート遊びなどで、眺めるだけではなく川をまるごと体験した一日でした(本文3ページ参照)。

## 過激な気象現象の緩和のために

正路 妙子

日中の気温が 30 度を越えていた 8 月初旬から 20 日間、海拔 1000 メートルの山麓で過ごしました。炎天下の気温は都会と変わらないものの、窓ガラスに付けた温度計によれば昼間の外気の最高温度は 27 度、朝夕は 18 度ほど。毎晩のように雨が降り、落葉広葉樹のミズキの葉が青いまま大量に落ちていたのが印象的でした。

9 月初めの現在、私たちの街では日中は 30 度を越え、夜間の最低気温も 30 度を僅かに下まわるに過ぎない熱帯夜が続いています。降雨はなく、川は干上がり、サクラやコナラは大量に葉を落としています。草本類も枯れたものが目立ちます。

天気予報で使われる「気温」は、地表から 1.5 メートルの高さの、日陰で風通しのよいところで測定するものとされています。都会が暑いのは、太陽エネルギーを反射する道路や建物などの構造物や人工排熱が多いことに起因します。夏の昼間、日の当たる道路面は気温より 30 度以上も高くなると言われます。日中の気温が夜になっても下がらないヒートアイランド(熱の島)現象は、周辺部と較べて都市部に島状に高温域が生じる問題で、20 世紀半ば過ぎには環境問題のひとつとして取り上げられるようになりました。人口が集中する場所では必然的に起こり、東京のように都市の規模が大きくなるほど影響が広範囲に及びます。

炎天下の道路から屋敷林のある農家のわき道に入ると、生き返るような思いがします。樹木は太陽エネルギーを用いて水と炭酸ガスから炭水化物を合成していますが、それを効率よく行うために、葉が互いに重なり合わないように枝を広げています。京都大学のチームは、人工衛星を使って測定された地表面の温度を解析し、大きな平面的な構造物の温度が高くなる傾向にあると結論づけ、樹木の葉の付き方から学んだ「フラクタル日除け」なるものを開発しました。

いつまでも続く暑さのなかで、自然の理を学び、理解し、妨げないようにすることの必要性を切実に感じます。

## わくわく大発見

友保 邦弘

東村山青年会議所の「まちづくり委員会」が企画したイベント「わくわく大発見」には「市内の小学校の4年生から6年生の生徒が集い、身近な川の空堀川を楽しみながら掃除し、環境美化や眺めるだけではない川として楽しみを体感し、未来の創造者である青少年に環境問題に率先して取り組む心と郷土を愛する心を育む事を目的に開催します」と掲げられており、その内容の概略は次のとおりでした。

- 空堀川のクリーンアップを行い、ゴミ投棄問題と自分たちのまちをきれいにすることを体験する。
- 当会のサポートのもとに水辺生物採取・植物あてクイズ、ゴムボート遊びを通して身近な川を体験する。
- 最後に、集めたゴミの分別が終わったらカキ氷でしめくくる。

当日は絶好の天気にも恵まれ、子ども30名、父兄10名、青年会議所12名、当会7名の総勢約60名という賑やかなイベントになりました。ゴミ集めで大汗をかけたあと、魚獲りや生き物調査で大奮闘。馬頭橋下で打った投網で大量の魚が獲れたときは大歓声。噂に聞いていたスッポンを捕獲した子どももいました。植物あてクイズのグループもほとんどの子どもが正解。朝から堰き止めて深くなった川にゴムボートを浮かべて皆はしゃぎながら結構上手にオールをさばっていました。最後の締めはカキ氷。みんな何杯もおかわりして暑さを忘れ、楽しい一日を終えました。



## 〈八坂小学校-子どもの水辺イベント〉 同行記

国田 隆雄

梅雨前の好天が続き、暑くなって気温が 25℃を越すと、子供達はそろそろ水浴びをしたくなる頃。そんな 6月15日 午後1時50分、東村山市立八坂小学校の5年生3クラス109名の生徒たちが、村松先生ほか二人の先生に引率されて、5時間目の授業として「からぼり広場」に集合しました。「空堀川に清流を取り戻す会」のメンバーは友保理事長、小林顧問、岡田理事、神山氏、土橋氏、国田の6名。まず友保理事長から空堀川の案内と挨拶があり、早速、一同新青梅街道を渡って空堀川「子どもの水辺」へ。

「子どもの水辺」で「川の生き物」と河原の植物“の二つのグループに分かれて観察する事となり、めいめい履物を履き替えて準備。“川の生き物グループ”はそれぞれ持参した網や水槽を持って次々に川に入り大はしゃぎ。網を入れると、まず“どじょう”がとれました。次第に上流まで進み、馬頭橋に着く頃には、みんなそれぞれにオイカワ、クチボソなどの川魚を入手。友保理事長が自慢の投網を打ち、思いのほか多くの魚が中に入っているのにびっくり。当日は平水位でしたが二度投げて30-40匹の小魚がかかり、みな大喜びで魚を分けて観察。この魚達はまた川にもどしてやったのですが、思っていたより豊かな川の恵みにびっくりしました。また、魚だけではなくてカワトンボのヤゴを始めとした水生昆虫の数々にも興味がそそがれました。



“植物グループ”は神山さんと小林顧問が対応し、各クラス5～6人のグループとなり、「子どもの水辺」周辺の知りたい植物を摘んでくることから始めました。あれこれ持ってきてもらい、花だけでなく葉や茎も一緒に採ってきてほしいのですが、なかには草の先端だけ持ってくる子も。それでも短時間の中でそれぞれのグループが約20種見つけることができました。あらかじめ神山さんが調査した植物一覧表（馬頭橋～浄水橋間で118種）を渡していたので、そこに印を付けて調査しましたが、一覧表になかったアップルミントを見つけた生徒もいて、真剣に学習する生徒たちから会のメンバーも学ぶことのできた、楽しいひとときとなりました。当日みんなが見つけた植物は、アップルミント、イタドリ、オオカワヂシャ、オオブタクサ、カラスムギ、キショウブ、シロツメクサ、セイタカアワダチソウ、チ



ガヤ、ナガバギシギシ、ネズミムギ、ヒメジョオン、ハルシャギク、ハルノノゲシ、ヘビイチゴ、ヘラオオバコ、ムラサキツメクサ、メドハギ、メリケンガヤツリ、ヤマグワ、ヨモギなどでした。

思ったより豊かな魚たち、魚を支えているヤゴや

昆虫、そして岸辺の植物までがみんな川を支えていると実感した1日でした。楽しかった授業は予定よりちょっと時間が延びて3時半に終了しました。

みなさんも散歩のついでに、川の中を探検してみませんか、きっと新しい発見がありますよ。



## 江戸学に学ぶ ～河川と樹木の関わり～

小倉安洋

今回は、法政大学田中優子教授の「未来のための江戸学～この国のカタチをどう作るのか～」(小学館)から、河川と樹木に関わる個所を抜粋し参考にと供したい。

-----前略-----

もちろん江戸時代でも、エネルギーや物の循環が常にうまくいっていたとはいえない。その代表例が木材の過剰伐採であった。これは下流の洪水という現象になって現れた。17世紀後半になると、幕府は盛んに、樹木の伐採を禁ずる法令を出している。1666年、治水治山についての初めてのまとまった法令「山川掟」が出された。そこでは、川に土砂が流出するので樹木を根から伐採することを禁じ、川上の左右に木の苗を植えることを命じ、川筋や河原での新田畑の開発と焼き畑を禁じている。-----中略-----1665年には、尾張藩が木曾山林において、また同じころ弘前藩も、「留山(とめやま)」を制度化している。留山とは、指定区域内の立ち木に手をつけることを禁止した森林で、木曾では幕末には20カ所にのぼった。留山のほかにも、鷹の巣の保護を目的とした入山禁止区域の「巢山」があり、これは木曾では59カ所あった。このほかにも入会林野(共有林野)では個人の伐採に制限があり、明山と呼ばれる自由な山林でも、「停止木(ちょうじぼく)」が定められれば、その種類の木を伐採することは厳禁された。藩のほうが幕府に先んじて伐採の影響を危惧的に感じ取り、手を打っているのである。

幕府も山川掟の後、さらに留山への触れを出している。たとえば1678年、遠江国、駿河国の山中に、留山では立っている木だけでなく、枝も切ってはならない、焼いてもならない。木の皮も取ってもならない、という厳しい高札を出した。また1684年には、関西の山城、大和、摂津、河内、近江の御料、私領に対し、土砂の流出の危険があるから、木の伐採と草の根を掘ること、焼き畑、そして川端での建築を禁止している。また同時に、木の苗、芝の根、竹、葎(あし)、萱、芝を植えることを薦めている。これは淀川のたび重なる氾濫の原因を調査した結果、水源地の山林伐採に行き当たったためであった。同年、河村瑞賢は淀川河口の開削工事を行っている。河口と源流とで、豪商と政府によって、的確な対策がとられたのである。これら、藩の施策も幕府の施策もすべて、綿密な実地調査によって出されている。-----中略----- (下線、太字は引用者による)

各地における禁止令などを田中氏の著書から以下に抜粋して年代別に示す。

1713年 信濃國，山中に留山での伐採・枝切り・皮はぎを禁ずる高札

1721年 吉宗時代， unnecessaryな山林伐採と売買の禁止

1742年 勘定奉行宛，川の周辺，農民の私有地であれ伐採や新田畑の開発禁止  
土砂が出る川べりに雑木を植えるよう命令

1744年 淀川筋，伐採の禁止と林の育成

…この後も伐採禁止令が繰り返して発布されているとのことである。

以上「江戸学」から学ぶことで，現代社会にも提起できる課題が見出せる気がしてくる。「水源林」保全や「水と緑の回廊」実現などである。

今回は，河川と樹木との関わりについて田中優子教授の書から抜粋して提供した。参考になれば幸いである。



5月の落葉広葉樹林



台風9号通過後の空堀川

**空堀川の草木 35** ヒトツバハギ (トウダイグサ科)

有川 栄子

本州，四国，九州の丘陵や原野にはえる落葉低木で，高さ2 m位，長く伸びた枝が多い。葉は互生，楕円形，あるいは卵状楕円形で長さ3~5 cm。先端は短く尖るか鈍形。ほとんど全縁で少し波を打ち，基部には短い葉柄がある。雌雄異株。夏頃葉腋ごとに淡黄色の柄のある小花を束生する。各花には5個のがく片があり，花弁はない。雄花は多数が集まり，花柄は短く，5本の雄しべがある。雌花は2~8個で，やや長い花柄がある。さく果は細長い柄をもち，扁平な球形で直径6 mmほど。3本のくびれがあつて3裂し，内部には6個の種子がある。和名は一葉萩の意味で，全体はハギに似ているが，葉はハギのように3小葉ではなく単葉であるところからこの名がある。第三天王橋際右岸の一株を神山みつ江氏が発見。昨年クワの木と共に伐採されてしまったが，今年再び芽を出している。

ヒトツバハギ



## 空堀川の水質測定、今年度の記録

垂水 荘 司

●第1回目：平成22年3月15日(日)天候曇り，気温22℃，採水方式で行った。3月11日に多少の降雨があったものの量は少なく，野行橋，大沼田橋では測定不能，浄水橋以外は溜まり水を採水し，後日パックテスト(化学的酸素要求量 COD, アンモニウム態窒素 NH<sub>4</sub>, 亜硝酸態窒素 NO<sub>2</sub>, 硝酸態窒素 NO<sub>3</sub>)および電気伝導度(EC)の測定を行った。水温と透視度は測定しなかった。以下に測定結果を表示した。なお測定は垂水が単独で行った。

測定地点	浄水橋	石橋一土橋間	下堀橋	秋津南橋	水道水
測定項目					
気温 °C	22	22	22	22	
におい	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭
pH	9.5	9	9.5	8	
EC mS/m					
COD mg/l	80	40	40	20	00
NH <sub>4</sub> mg/l	0.5	0.5	0.5	0.5	0.2
NO <sub>2</sub> mg/l	無反応	無反応	無反応	無反応	無反応
NO <sub>3</sub> mg/l	20	20	20	20	20
備考		溜水	溜水	溜水	

●第2回目：平成22年6月12日「新河岸川水系，身近な川の一斉調査」の一環として行ったものである。当日は6月の定例会の終了後，5名の会員が上流の上橋下から下流の大沼田橋まで7か所の地点で調査を行なった。水量は少なく，ふれあい橋，野行前橋は溜り水をくみ上げ測定を行い，下流の野行橋，大沼田橋付近は溜り水もなく測定不能であった。なお記入票は指定のものとは異なる。指定された書式には友保理事長が記入し提出した。希望者は入手可能。

測定地点	上橋下	浄水橋	ふれあい橋	御成橋付近	野行前橋
測定項目					
気温 °C	31	29	29	26.5	29
水温 °C	33	32	27	19.9	23
におい	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭
にごり(透視度) cm	0.79	0.72		0.96	
pH	9.5	7	7.5	7	7
EC mS/m	1.195	1.08	1.062	0.453	0.296
COD mg/l	80	80	80	40	06
NH <sub>4</sub> mg/l	0.5	0.5	0.5	0.5	0.2
NO <sub>2</sub> mg/l	0.005	0.005	0.01	0.005	0.1
備考	オヤシロ卵 中		溜水		溜水

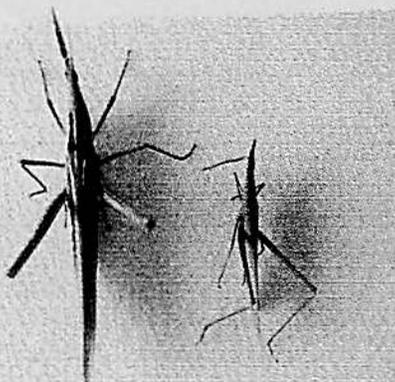
## 子どもの水辺から

### ショウリョウバッタ

小林 寛治

「東村山の原風景を守る会」の近藤会長が「最近、せせらぎの郷ではバッタが少なくなった」といわれました。「子どもの水辺」ではバッタ類は増えています。近藤氏がいうバッタはどの種類を指しているのか知りませんが、バッタ類全体が少なくなってきて心配しているのだと思います。

空堀川の「子どもの水辺」区間では5月初旬からショウリョウバッタがたくさん羽化し、6月初旬の草刈りで全滅してしまったかと心配しましたが、最近、草が伸びるにつれていたるところに飛び回っているのを見ました。



旧盆の送り火を焚いて精霊を霊界に送る頃たくさん現れるので、‘精霊バッタ’と言われます。また、オスがキチキチと鳴いて飛び立つところからキチキチバッタ、足を持つと体を前後させるところからコメツキバッタとも呼ばれる昆虫です。

不思議なことに緑色のもの

のと、茶色のものがあり、メスは体が15センチ程度あり、オスはメスの半分以下の大きさです。そのためかキチキチ鳴いて逃げるオスバッタを捕まえるのは容易ではなく、メスは反対に飛ぶ力が弱く、たやすく捕まえることができます。

生物界では不思議なことではないようですが、おなじ形態で色が異なる昆虫にトノサマバッタ、オンブバッタ、キリギリス、カマキリなどがあり、何時頃から分かれたのか、本来の色はどちらなのか不思議に思います。飛翔力があり、格好のいいトノサマバッタは都内では少なくなり、貴重種になっています。空堀川「子どもの水辺」では、一昨年から数匹単位で復活しています。

環境を整備し多様な環境を創りだすことの重要性を認識する事例だと考えています。

## インフォメーション

### ●空堀川に汚水流入

7月7日夕刻、空堀川柳原橋付近で大量の泡が発生し、舞い散るほどになる出来事がありました。まず最初に清瀬市の住民から「川づくり・清瀬の会」の宮澤氏に連絡があり、宮澤氏が現地で観察したのは午後8時。連絡を受けて清瀬市の財務課長、広報職員、警察署、消防署、東京都北多摩北部建設事務所の関係者も駆けつけました。流入元は東村山市内の栗木橋左岸と特定されました。当会会員が8日に採取した水はpH5と、強酸性であることが判明しました。残念ながら、東村山側ではそれ以上の調査は行なわれませんでした。

### ●空堀川の草刈り前の植生調査

河川敷の草刈りを前に、7月12日（月）午前9時大沼田橋に集合、北多摩北部建設事務所東村山工区の職員、草刈り業者、当会会員の三者で植生調査を行ないました。数日前に大雨が降り、河川敷の植物はなぎ倒され、小さな植物は覆われてしまい、上からは見えませんでした。今年はオオブタクサがほとんど見られませんでした。昨年花が咲く前に駆除した効果が現れたものと思われます。ヨシ、オギの群落をどうするか検討しましたが、今まで通り残すことにしました。ヤブカンゾウの花を期待したのですが、見つけることができずに残念でした。ジュズダマも少なくなっているようです。大袋小学校付近からススキが見られるようになりましたが、株数は増えていませんでした。上流に向かって歩いてみると、左岸の方が植物の種類が豊富で、春に開花するのも早いように思われます。馬頭橋から上流の河川敷はまだ若く、植物の種類も少ないようです。12時少し前に上橋に到着して、今回の植生調査は終了しました。

途中、散歩中の女性にクワの木を伐って欲しいと言われました。雨で流された枯れ草が引っ掛かり見苦しいからというのがその理由です。緑の葉を繁らせる木々から、ヒトを含めた生物すべてが大いなる恩恵を受けていることを考えて欲しいと思います。（有川記）

## これまでの経過と 今後の予定

(2010/05/29～ 2010/09/10)

◎05/29 土曜子ども講座「水のふしぎ探  
検隊」ヤゴ救出作戦 於：南台小プー  
ール 当会より3名参加

◎06/10 ヤゴ救出作戦 於：富士見小プ  
ール 友保，国田参加

◎06/12 NPO 交流会 於：地域福祉セ  
ンター 岡田参加

◎06/12 「身近な川の一斉調査」  
友保，有川，垂水，国田，正路参加

◎06/15 八坂小5年生 空堀川探検と川  
遊び 於：子どもの水辺 小林，友保，  
岡田，神山，土橋，国田参加

◎06/15 川まつり反省会 於：市役所  
友保，垂水，岡田参加

◎06/29 青年会議所のイベントについ  
ての打合せ 友保，垂水参加

◎07/10 第148回定例会 出席者11  
名

◎07/12 草刈り前の植生調査

◎07/17 青年会議所のイベント 於：子  
どもの水辺 当会より7名参加

◎07/20 定例作業 芝生の手入れ

◎09/03 久米川橋上で魚の救出

◎09/11 第149回定例会

## ●魚の救出作業



9月3日午前、久米川橋上流の水溜まりに残された魚たちの救出作業が行われました。北多摩北部建設事務所から工事第二課相馬課長補佐，守屋維持係長，河川管理課下川係長ほか数名と下村組関係者，当会から小林顧問，正路が加わり，キンブナ，キンブナ，コイなど100匹ほどを網ですくい上げ，浄水橋上の流れに移しました。網での捕獲はなかなか難しく，まだまだたくさんの魚影が見えましたが，40度を越えそうな炎天下，諦めざるを得ませんでした。

### 会員募集

NPO法人「空堀川に清流を取り戻す会」は，私たちの活動を支援し，参加してくださる方を募っています。お問い合わせは下記までお願いいたします。

東村山市萩山町2-19-10

友保（ともやす）

TEL/FAX：042-394-9978

# からぼり川

がたろう通信

第 65 号

2010年12月11日

発行

特定非営利活動法人 空堀川に清流を取り戻す会

ホームページ:<http://homepage2.nifty.com/karaborigawa/>

発行責任者:友保邦弘 TEL/FAX 042-394-9978 東村山市萩山町 2-19-10



## 第 27 回空堀川クリーンアップ無事に終了

11月21日(日), 秋の空堀川清掃が実施されました。上流部と下流部合わせて参加者は70名ほど。天候にめぐまれた小春日和のひととき、草刈り後に芽生えたイネ科の植物の緑が両岸を覆い、清らかな流れが残るなか、こちよい汗を流しました。

いつものゴミに加えて、今回は水を吸った毛布やゴザ、大量の猫砂が見つかりとても残念でした。

## 核廃棄物の処理をめぐる

正路 妙子

2002年ドイツは改正原子力法を施行し、新規の原子力発電所の建設・操業が禁止されました。それ以来2基が閉鎖され、残り17基も2020年位までに段階的に停止される予定でした。現政権は、今年10月その稼働停止までの期間を平均12年延長することに決めました。

そのドイツで、核廃棄物の処分場として選ばれた岩塩鉱山に不測の事態が発生し、閉鎖された例が2箇所あります。1箇所は東部ザクセン＝アンハルト州 Morsleben 近郊に、もう1箇所はニーダーザクセン州 Asse にあります。

Morsleben では、1988年に裁判所がこれ以上の核廃棄物搬入を禁止するとの判決を下した数週間後、岩塩鉱床を覆っていた2000トンの岩石が落下するという、衝撃的な出来事が起こりました。この直後に処分場の最終的な閉鎖が決まりましたが、すでに搬入されている放射性廃棄物が今後も危険な存在として残り続けることは変わりありません。

Asse では1906年から1964年まで岩塩が採掘されたあと、1967年から1978年まで低・中レベル放射性廃棄物の試験的な処分が行われていましたが、2003年にすべての試験が停止されました。Asse はもっとも早期に、核廃棄物が搬入されて、「ほとんど確実にといってよいほどの公算で、水が入り込むことはあり得ない」と賛成派が言明した坑内施設でしたが、1988年以来、毎日12000リットルの地下水が流入していることが知られていました。それどころか、2008年9月に提示された州政府環境省の調査報告では、既に岩塩鉱山として採掘されていた当初から塩水の存在が観察されていたことが明らかにされました。2010年11月にはAsse 周辺の住民に白血病、甲状腺癌、リンパ腫が高い割合で発症していることが分り、その原因究明が始まっています。

数千年に渡って生き物を死に至らしめる力をもち続ける放射性廃棄物を増やし続けることは、生物の未来を危うくすることです。しかし、人口の増加する開発途上国を中心に、原子力発電所は世界中でますます建設が進められています。

## 第27回空堀川クリーンアップ

垂水 荘 司



11月21日(日)、空堀川の秋のクリーンアップが実施されました。好天に恵まれ、参加者の皆さんも気持ちよい活動ができたものと思います。朝8時に天王橋から大沼田橋までのフェンス扉を1時間かけて開錠。午後4時に施錠の再チェックを行ったところ、1ヶ所鍵が紛失してい

るのを発見、周囲を隈なく探し回り、草むらから見つけ出して事なきを得ました。

今回は春のクリーンアップの教訓を活かし、下流の大沼田橋付近では何ヶ所ものフェンス扉を開錠し、ゴミの集積所を御成橋と曙橋の2ヶ所増やしたので、滞りなく作業が進められたと思います。

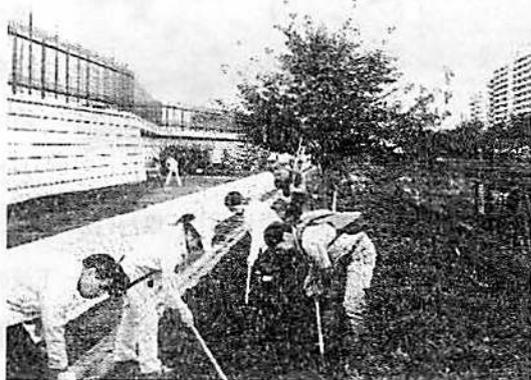
今回のゴミの種類で大変残念に思われたのは大量の動物の糞が投棄されていたことです。処理することは見送りましたが、このような悪質な行為に対しては、河川管理者を通して断固たる対応をとることが必要と思われます。

毎回クリーンアップ時に残念に思うことは、「捨てる人はいつも捨てる人」、「拾う人はいつも拾う人」であることです。よい自然環境を求めて行うボランティア活動はあくまでも自発的なものであり、押し付けてはいけないものです。しかし、立て看板、ポスターでの呼びかけに対して、一般市民の参加は46パーセントほど。毎日空堀川のほとりを散歩している人に、空堀川のクリーンアップにもう少し関心を持ってもらいたいと願っています。

## 空堀川景観対策花植えキャンペーン

友保 邦弘

9月初旬に当会顧問小林寛治氏を通して、東村山警察署防犯協会主催の「空堀川景観対策花植えキャンペーン」に協力して欲しいとの依頼がありました。防犯協会が実施場所を方々に打診してもなかなか適当な場所が見つからないとのことで、東京都北多摩北部建設事務所と協働関係にある当会から、空堀川周辺を利用させてもらえるよう、交渉してほしいと要請されました。北多摩北部建設事務所からは、維持管理に当会が協力するのであればとの条件で承諾の回答がありましたので、防犯協会と連携して維持管理を行うことで実施が決まりました。



キャンペーンの概要：

実施日：平成22年10月

花壇づくり

29日（金曜日）14：00～16：00

参加者：八坂小学校生徒70名及び校長・担任，防犯協会会員，当会会員，花業者

場所：浄水橋と馬頭橋の中間地点左岸管理用道路の空き地（東村山浄水場の南側）

花壇面積 0.7m×9m（6.3㎡） 周囲を川石で囲む

植栽花：当初の予定はパンジーでしたが，在庫の都合でマリーゴールドとベゴニアを合わせて300ポット

用具類：花壇造成に必要な鍬，スコップなどは当会が用意

資材類：ポット苗，腐葉土などは防犯協会が用意

造成場所は石やガラクタが多くて土壌が固いので事前に3回にわたって造成作業を行いました。かなりハードな作業でしたが、散歩中の一般市民の協力も得て順調に進行しました。



当日は午後一番で花や腐葉土が搬入され、すべて準備が整った午後3時に生徒や先生の大集団が到着。主催者側の挨拶に続いて校長先生によるキャンペーンの意義や注意事項などの説明に引き続いて生徒を3班に

分け、順番にワイワイガヤガヤ、植え付け作業はアッという間に終了しました。

最後に全員そろって記念写真を撮り、100人近い大集団による花植えキャンペーンは盛況のうちに終了しました。参加された皆さん、事前準備にご協力下さったみなさん、お疲れさまでした。今回植栽したマリーゴールドとペゴニアが枯れた時点での展開は、防犯協会と当会で協議して計画を立案して実施することに決まりました。



ただひとつ反省点があります。子ども達が事前に準備された花壇に穴を掘って花を植え、土をかぶせるだけでは安易すぎるので、土起こしの花壇作りから参加させれば「自分達が造った」という充実感によって花壇や花を大切にしていける心が育つはずであると提案したのですが、イベントにかける時間が限られているという理由だけで、それが実現しなかったことです。せめて数名の代表だけでも参加させておけば良かったという思いが残ります。

## 草刈りと生物多様性の確保について

小林 寛 治

ご承知のように空堀川は都市計画によって、狭い3面張りの樋のような川から、現在見られるゆったりと広い河道の川に生まれ変わりました。旧河道を含めて100万トン近い土砂が掘り出されました。それまでに生息していた植物やその種子、水路の魚や水生生物、また陸生昆虫などが土砂と共に搬出されたり、河道内に埋没したりしました。



改修前の三面張りの川



新たな河道

現在の川や河川敷の動植物は真っさらな所から再生したものです。土のなかに眠っていた昔の種子が芽生えたり、整備後周辺から風と共に飛来したり、住宅地からこぼれ落ちた種子が発芽したものがほとんどです。

10年前、河川敷の草刈りは年2度、全面の草を刈り取る方法で行われていました。これではいつまでも植物を含めた自然の再生はむずかしいと、東村山工区のI氏に訴え、水際1メートルを残して刈り取ることになりました。のちには、当会会員、工区職員、業者の3者が協力して草刈り前に河川敷の植物調査を行うようになりました。在来種や群落の植物を大切に、生態系からみて望ましい植物を残して新たな植生を育てるために、清瀬の合流点まで行ってきました。その後、清瀬市内は清瀬の市民団体に依頼し、現在に至っています。

川は自然が創ったもの。蛇行して瀬があり、淵や溜まり水や湿った場所や乾いた場所などがあり、多様な環境が出来ています。様々な生き物が水を求め、河川敷を棲み家とし、食うか食われるかという食物連鎖を繰り返しています。また外来の動植物が持ち込まれたり、知らぬ間に棲み処として繁殖していたりします。しかしながら、生き物が一時絶えてしまったところからの再生は、順調に來ているようです。

長い間草刈り前の調査を積み重ねてきた結果、現在は低水路(水が流れる部分)と高水敷(草の生えている部分)がはっきり区別出来るようになってきました。

これからは、生物多様性を重視し、豊かな生態系を創造するために、刈り取る時期、刈り方、頻度などを行政とともに考えていきたいものです。ヒトは、河川敷で生きている多くの生き物よりはるか後から出現した生き物であり、自然界では新参者です。仲良く共生していきたいものです。次世代につながる空堀川の環境を創造していくために、みなさんにこのことを真剣に考えていただきたいと思います。

#### 河川敷の草刈りに望むもの

1. 河川敷の草刈りは一律の仕様書に基づくのではなく、特定した場所は仕様を変えてもらいたい。
  - ①市民団体の意見を聞き、特定の場を保全する。
2. 植物の生長の循環、昆虫等の繁殖状況に配慮した草刈りを行う。
  - ①外来種の繁殖抑制を考慮した草刈り時期の選定。
  - ②昆虫など小動物の世代交代を妨げない刈り方。
  - ③刈り高を5cm以上残し、食草を考えて群落を残す。
  - ④緑化ブロック(環境護岸)の草は刈らない。
3. 河川敷の樹木については草刈りの対象外になっているため、実生からの幼木は残されて、後から問題になっている。したがって、幼木は草刈の対象とする。



刈り過ぎは自然の再生を阻む



緑化護岸の役割を無視

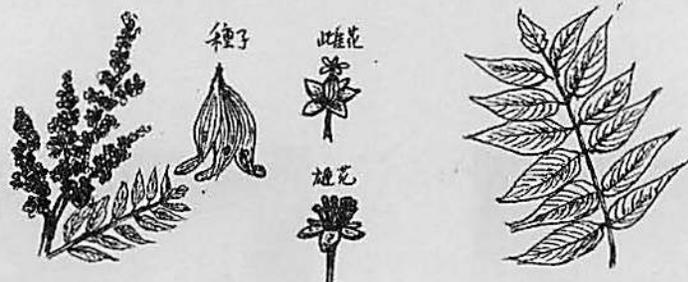
# 空堀川の草木 36 シンジュ (ニガキ科)

有川栄子

中国原産の落葉高木で生長が速く、高さ 10m ぐらいになる。葉は互生、奇数羽状複葉で、とても大きく長さ 50~70cm にもなる。小葉は 6~12 対で、短い小柄があつて長卵形または卵状披針形。葉の先端は次第に狭くなつて鋭く尖り、長さ 8~10cm ぐらいある。夏に枝の先に頂生する円錐花序を出して、緑色を帯びた白色の多数の小花をつける。雌雄異株。萼(がく)は 5 個で歯状になっている。花弁は 5 個、雄花には雄しべ 10 本、雌花と両性花には子房があつて、柱頭は 5 つに分かれる。果実は翼を持った薄質の披針形で、中央に 1 種子があり飛んでいく。別名ニワウルシともいう。ウルシに似た葉の樹木で庭園に見かけるからである。

空堀川の馬頭橋下流右岸のシンジュは大木になっています。下掘橋際にも何本か生えており、近くを散歩する人の中には、かぶれそうなので伐つて欲しいという人もいますので、対策を考えなくてはと思います。

シンジュ



## 野川を歩く

(2010年10月21日)

有川栄子

国分寺駅近くの日立中央研究所内から流れ出た野川は住宅街を流れ、西国分寺駅近くの「姿見の池」や「真姿の池湧水群」からの流れと一里塚橋で合流する。ここからハケの水を集めながらコンクリートの水路を野の川となって流れる。護岸は空堀川と同じで、川幅は少し狭い。河道は幅 2m ほどで狭く、草で覆われている。河川敷の草刈は年 3 回するそうで、ゴミひとつないきれいな川である。小金井市内に入ると、不法投棄に対する罰則を記したプレートがフェンスのあちらこちらに掛けられている。散歩中のお年寄りに昔の川の様子を尋ねてみると、家庭排水が流れ汚いドブ川だったという。

川の左岸北側はハケ線上に緑の森が带状にずっと続く。川にはカルガモ、シラサギなどの鳥は少ない。魚は余りいないのかも知れない。水際にはガマ、オギ、キショウブ等が見える。セイバンモロコシは余り生えていない。水辺に下りる階段が何ヶ所もあり、市民が水に親しめる川になっている。小金井新橋あたりから川の様子が変わる。護岸壁は消え、フェンスもない、広々とした緑の河川敷。

平成 18 年頃から野川も水量が減り、東京都では自然再生事業として河底の土を深さ 30cm ほど張替え、調整池等を整備し、美しい川となった。地域の多くの市民団体が協働作業をして川を守っている。遊歩道近くのオギ原の根元にナンバンギセルの花がたくさん咲いているのが見られ、みな感激。調整池で北多摩南部建設事務所の職員 2 人の話しを聞き、野川公園北門まで歩いて、野川散策の一日は終了。

## ゲリラ豪雨と洪水ハザードマップ

島崎 よう子

昨年の新河岸川流域フォーラム「ゲリラ豪雨からまちを守る 清流でまちを潤す」で、群馬大学の片田教授は、“温暖化の影響でゲリラ豪雨が起こるようになり、加えて、市街化整備が進み雨水は地面にしみ込まなくなり、水害の可能性が高くなった。今後 CO<sub>2</sub>対策で 1997 年比 25%削減に取り組まなければ、平均気温が 4 度上昇してしまうだろう。”と国の取り組みに期待しつつ、警鐘を鳴らしていました。現在はたった 1 度の上昇で、これほどの気象変化が起こっているとのことでした。

この夏はじめて配布された「洪水ハザードマップ」は、2000 年の東海豪雨（総雨量 589mm・時間最大雨量 114mm）と同程度の大雨が降った場合を想定したシミュレーション simulation 結果です。東村山市で発生した場合には、市内すべての河川があふれ、水深 1～2メートルの水没地域がでることが想定されています。時間最大 114mm の雨は、最近の東村山市内において観測された、2008 年ゲリラ豪雨時の時間最大雨量 45.5mm と比較すると、その倍以上になります。

公共下水道雨水整備計画で整備を進める管渠の最終的な放流先は、柳瀬川、空堀川、黒目川。時間最大雨量 50mm で計画された公共下水管ですが、放流先である河川の流下能力、排水能力の容量不足が、浸水の原因のひとつになると考えられます。能力の大きな公共雨水管を敷設しても、結果的に、河川の放流口で絞られてしまいます。現在の空堀川は、30mm 相当の降雨に対応していますが、東京都は来年度以降、50mm 対応の河床に掘削していく計画です。

ゲリラ豪雨の発生に備え、急な傾斜地、水の溜まり安い場所、危険個所の近くなどを避けた避難経路を日ごろからご家族で確認して、洪水ハザードマップを活用していきましょう。

## インフォメーション

### ★訂正のお願い

がたろう通信 64 号 9 ページ「空堀川の水質測定、今年度の記録」の訂正を 2 点お願いします。

① CODmg/l の数値に小数点を入れ、8.0, 4.0, 4.0, 2.0....のように訂正して下さい。

② 電気伝導度 EC の単位を  $\mu$  S/cm に、数値を 1195, 1080, 1062, 453, 296 のように訂正して下さい。

### ★八郎山のその後

8 月の作業が暑さのため中止になり、12 月 3 日、5 ヶ月振りにいつものメンバーが集まって管理作業を行いました。ササや外来種の一年草、蔓草を刈り取り、光が地面まで届くようになりました。1 月 24 日に淵の森から移植したマユミ、ニシキギ、ガマズミ、カマツカなどはしっかりと根付いています。今後も淵の森からこのような低木を移植することが予定されています。

### ★不法投棄されるゴミ

「第三仲よし広場」、「ゆりの木広場」などに大量に不法投棄されていたゴミを、11 月 21 日の空堀川クリーンアップの折に、一緒に回収してもらいました。不法投棄した人を特定して、責任をとって貰う以外に最終的な解決は無いかもしれません。

19 世紀英国の工芸家 William Morris ウィリアム・モリスは、「あなたが



“有用である”あるいは“美しい”と思えないものは、何もあなたの家の中に置かないように」と言っています。何か買う時に、有用なものか、美しいものかじっくり品定めをすること、これがゴミを減らす最良の方法であり、3R のひとつ Reduce への道です。

これまでの経過と  
今後の予定

(2010/09/11～ 2010/12/11)

- ◎10/09 第 150 回定例会 東村山市  
地域福祉センター
- ◎10/16 土曜子ども講座, 10月29  
日用の花壇づくり(堆肥置場前)
- ◎10/18,19 定例作業 下堀広苑の草  
刈り
- ◎10/21 野川見学 (「空堀川を考え  
る会」主催)
- ◎10/29 堆肥置場前の花壇にマリ  
ーゴールドとペゴニアを植栽
- ◎11/21 第 27 回空堀川クリーン  
アップ
- ◎12/11 第 151 回定例会 東村山  
市地域福祉センター
- ◎12/18 がたろう忘年会

私たちは、原則として毎月第 2 土曜日の午前 10 時から 12 時まで、東村山市地域福祉センターで定例会を開催しています。空堀川の鳥や水、植物や昆虫のことなど、日ごろお気づきの点をお聞かせください。お待ちしております。

**会員募集**

NPO 法人「空堀川に清流を取り戻す会」は、空堀川の自然再生と河川本来の景観の復元による街づくりを目指しています。私たちの活動を支援し、参加して下さる方を募っています。

NPO の活動に関心のある方、お問合せください。

◎会費は次の通りです。

・個人の場合

入会金 2,000 円

年会費 2,000 円

・団体・法人の場合

入会金 一口 10,000 円

年会費 一口 10,000 円

・賛助会員 (入会金不要)

個人 年会費 2,000 円

団体・法人 年会費 10,000 円

◎会費振込先

郵便振替 口座名: がたろう

口座番号: 00130-3-729803

◎お問い合わせは下記までお願いいたします。

東村山市萩山町 2-19-10

友保 (ともやす)

TEL/FAX: 042-394-9978

# からぼり川

がたろう通信

第66号

2011年3月12日発行

特定非営利活動法人 空堀川に清流を取り戻す会

ホームページ:<http://homepage2.nifty.com/karaborigawa/>

発行責任者:友保邦弘 TEL/FAX 042-394-9978 東村山市萩山町 2-19-10



## 大岱小学校植樹体験学習

大岱小学校の4年生は数年前から当会のホームページなどを参考にしながら空堀川について勉強しています。今回は総合学習として空堀川の管理道路にツツジの苗を植える体験活動を行いました。素手でスコップやシヨベルを握り、大株の苗木をつかみ、ホースで汲み上げた冷たい水をやり・・・78名で140本のオオムラサキツツジの苗木を見事に植え切りました。

## 「いただく」

正路 妙子

手作業をしながら耳を傾けているラジオから流れてくる政治家たちの言葉遣いには、いろいろなことを考えさせられます。彼らのほとんどが、「お答えをする」、「お伺いをする」、「お願いをする」、「お話をする」、「お会いをする」のような、時として不要な「を」を入れた語法を好むようです。「させていただきます」を多用し、謙遜した低姿勢を示そうとすることも共通しています。「肅々と」という言葉は、手垢がついた陳腐な表現と化し、肅々さのもつおごそかな気配は微塵も感じられません。

なかでも気がかりなのは、「いただく」の場違いな使い方です。「食べる?」、「飲む?」と訊かれて肯定するとき、私たちは「いただきます」と答えます。食事に際しては、森羅万象への感謝をこめて「いただきます」といいます。「いただく(戴く、頂く)」は、「頭の上にものをのせる」を語源とする謙譲語、すなわち、話し手が自分あるいは自分たちのものや動作を他者に対して卑下し、へりくだって表現する言葉です。つまり、「いただく」の主体は自分たちです。

時の首相の発した「オバマ大統領が来ていただく」に一瞬耳を疑いました。「オバマ大統領に来ていただく」と言いたかったのでしょう。「オバマ大統領にお越しいただく」といえばもっと丁寧ですし、「オバマ大統領が」とはじめてしまったら、「来てくださる」と結べば、日本語として真つ当な表現となります。

内館牧子氏の観察(日経新聞2月19日夕刊)によれば、ら抜き言葉が許容されてしまった結果、可能な意味合いが薄れてしまったと感じる若者たちが、「行ける」、「出られる」と表現すれば済むのに、「行かれる」、「出られる」と苦し紛れの造語を発明しているとのこと。

言葉はいきものであり、変化していきます。それでも、誤解を生まないような、簡潔で品位ある表現は、その国の文化です。以前耳にした、在日チェコ大使館の外交官の日本語、「どうぞプラハにおみあしをお運びくださいますように」のうつくしい響きが、いまでも耳に残っています。

## 東村山市立大岱小学校4年生による植樹祭

友保 邦弘

昨年11月のこと、前年と同じように大岱小4年生から空堀川についてアンケート依頼の電話があった。それを機会に、担任の先生に川に関係のある体験学習を実施してはどうかと提案してみた。

実は数年前に、学校にほど近い空堀川の管理道路に、当会の「みどりの基金」を活用してツツジの植栽を行った。そのうちの枯れて歯抜け状態になっている部分がかかり目立っており、出来るだけ早目に補植しなければと考えていたが延び延びになっていた。そこで、大岱小の子ども達の総合学習の一環として、植栽体験学習をやってどうかと担任の先生に提案してみたところ、「ぜひやらせてみたい」との意向であったので、具体的な実施計画を作成して提示した。

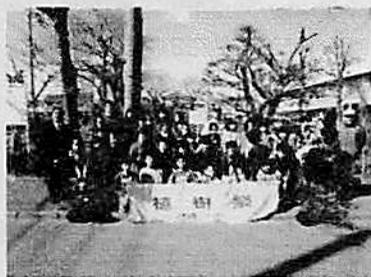


4年1組

当日は、はじめに今回の体験学習の目的や具体的な作業手順などの説明を行い、道具類や苗木の配分などかなりの時間を割いたので、実際の作業時間は30分少々と短くなり、各自が初日の植え穴掘り2箇所と二日目の2本植栽で、かなり厳しい時間配分となった。特に苗木の根鉢の大きさに合わせて直径30cm、深さ30cmの穴を二か所掘るのは、スコップを持ったことがない子ども達もいたので結構大変なこと。それでも二日目、苗木を植えるときは真剣そのもの。もしかして木を植えることは川で遊ぶことと同じで、人間の本能ではないかと感じた。

今回の作業は、土や苗木にじかに触って本物の感触を体感させるため、軍手をはめず素手で行った。この体験学習によって子ども達が自然や命の大切さに気付き、楽しい思い出として心にとどめ、いつの日か何かの役に立てて欲しいものである。

今回の作業は、土や苗木にじかに触って本物の感触を体感させるため、軍手をはめず素手で行った。この体験学習によって子ども達が自然や命の大切さに気付き、楽しい思い出として心にとどめ、いつの日か何かの役に立てて欲しいものである。



4年2組

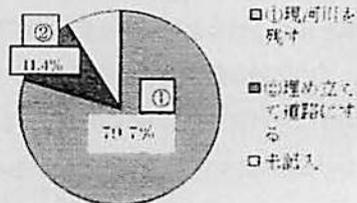
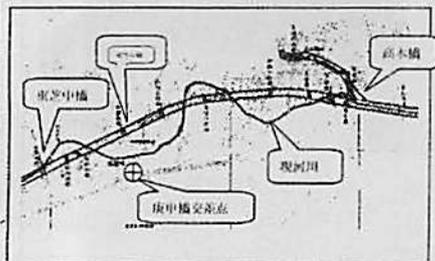
## 東大和市に空堀川をめぐる市民の会が発足

小倉安洋

東大和市の空堀川は、整備改修工事が進行中です。現在、高木橋の架け替え工事が来年3月まで、上流の東芝中橋と天王橋間の護岸工事が今年の3月までの予定で行われています。昨年高木橋の工事説明会が実施されて後、同橋右岸の親水護岸付近に自然発生的に人が集まるようになりました。これは、奈良橋川の合流点の直下に深みができており、オイカワ、フナ、コイなどの魚が集まっていた、最上の釣り場になっていたことが一つの要因かもしれません。

意見交換の場として毎月1回程度で続けませんかと私から呼びかけ、「高木橋市民会議」（仮称）が発足しました。5月のことでした。その後定例的に継続し、夏場は大きなムクノキの枝の影で猛暑をさけながら、また、ある時は急な雨を避ける軒先代わりに使いながらの気楽な集まりとなりました。話題は、高木橋から上流に続く蛇行して流れる現河川をどうするかに至り、工事が終わった新河川と蛇行する現河川を実際に歩いてみたり、周辺の住宅にチラシを配布して、意見を求めるための呼びかけを試みたりしました。しかし、集まりに参加する市民は限られており、十分な意見収集ができませんでした。それではアンケートを実施しようと話がまとまり空堀川周辺の住宅約500世帯を対象に行ったのが、9月中旬から10月上旬のことでした。アンケートが集まったところで、この会を正式に発足させようということになり、「空堀川をいり川にする市民の会」と致しました。会長、副会長を付近の熱心なお二人にお願いし事務局は「空堀川を考える会」が担当することになりました。

アンケートの、現河川の扱いについて、「残す」か「埋める」かとの問いに対して、ほとんどの市民の声は、「現行蛇行河川をぜひ残して欲しい」というものでした。(79.7%)



早速「柳瀬川・空堀川流域連絡会」に報告し、更に北多摩北部建設事務所工事第二課には、年末に会長に挨拶に出向いて貰いました。同様に、東大和市長のもとにも会長・副会長に同行願ひ、挨拶とアンケート結果の報告をし、市民の声を尊重するように切望してきました。また2月6日には、アンケート協力者を主体に報告会を開催しました。初めての試みでしたが、多くの皆さんと意見交換ができたことを今後の川づくりに活かしたいと思います。

市内の空堀川をどのような姿にするかは、これからが正念場になります。「いい川づくり」に関心ある皆様方のご支援をよろしくお願い申し上げます。

～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～

## 八郎山だより

加藤敏子

1月21日(金)、八郎山の自然再生に向けた作業がおこなわれました。対岸の「淵の森」からの苗木移植と、ショカツサイ等の外来種の除去が主な作業となりました。前もって印をつけられた「淵の森」の苗木を掘り起こし、八郎山側の、苗木の名前のついた杭の個所に移植するのを男性群が担当し、女性群は苗木を運び、ショカツサイやササを刈り取ることを担当しました。その後、陽光が十分に注ぐように、移植された苗木の周囲のクズやノイバラを刈り取りました。その作業中に土に埋もれた自転車が見つかり、若い男性たちが掘り出してくれました。自転車の間からタラの木が大きく育っていましたので、それを引き抜いての、大変な作業でした。近くに座椅子の骨組みとおぼしきパイプも見つかりました。この大きなゴミのほかにも大袋のゴミ12袋ができました。2時間ほどの作業で八郎山はすっきりと広くなりました。

八郎山は狭い場所ですので、野草が踏まれてしまうのをできるだけ防ごうと、20人ほどの限られた人数で作業しています。今回はその内4名が「がたろう」のメンバーであったのは嬉しいことでした。

次回の作業は3月です。その時にはいくつかの野草の花に出合えるのではと今から楽しみにしています。

## 空堀川「御成橋周辺の整備計画」について

小林 寛 治

“柳瀬川・空堀川流域連絡会”というものがあることはご承知と思います。誰でも委員に応募ができます。今年も1月15日付け「東村山市報」で呼び掛けました。

平成9年の河川法改正にあたり、河川の整備にあたっては市民の声を川づくりにも反映するように定められました。従来の河川法の目的である治水と利水に加え、“河川環境の整備と保全”が三番目の柱となったのです。

空堀川には水利利用の水利権はありません。改修目的は治水ですが、持続可能な社会をつくり維持していくには環境の整備は欠くことができない要素になりました。空堀川の欠陥は「流れを失った川」であることです。新たに加えられた“河川環境の整備と保全”を図るには、現状の手の施しようのない状態から一歩進めることが必要です。御成橋左岸から唯一ヶ所、JR武蔵野線トンネルからの湧水が出ています。水質、水量ともに申し分ありません。「御成橋周辺の整備計画」ではこの水を活用し、安全でしかも安心して利用できる、そして生き物と共存できる環境を整備していこうという計画です。区間は達磨坂橋となかよし橋の間で、右岸の芝生広場の整備と護岸の緩傾斜化等を目的としています。

図は流域連絡会において1年を掛けてまとめたものです。市民案となっているように、河川管理者の意見は入っていません。これを第6期の平成23年4月から2年間で成案にしていく作業が始まります。北多摩北部建設事務所と意見交換しながら、出来るところから実行していくことになっています。専門家の意見も聞きながら、先に決まった柳瀬川流域河川整備計画に則った、空堀川と柳瀬川の将来あるべき「モデル」にしていくことが、河川管理者との共通認識になっています。

問題は北多摩北部建設事務所の「ヤル気」と市民委員の「熱意」にかかっています。



## 空堀川の草木 37 オニグルミ(クルミ科クルミ属)

*Juglans mandshurica* var. *sieboldiana*

有川 栄子

各地の山野で川沿いなどの湿気の多い所に生える落葉高木。高さは 20 m 以上にもなる。小枝は太く、若枝に軟毛が密生し、葉は互生で柄があり、奇数羽状複葉、9~15 個の小葉からなり、星状毛が裏面に密生する。花は 5 月から 6 月、雄花穂は前年枝の葉腋から出て下垂し、長さは 10~20cm、雄花は緑色で多数付いている。雌花穂は新枝につき、直立して長さ 6~13cm、軸には長毛と腺毛が密生し 7~10 個の花をつける。雌花は狭卵形で赤い色の太い花柱が伸び、短毛が密生する。雌雄同株である。果実は秋に熟し、径 3~4cm 程。核果は硬く、楕円形、深いしわがある。核の中に種子があり、食用となる。

空堀川のオニグルミの木はまだ若く、実は少ししかならない。関東近辺では長野県に多く産し、脂肪分の多い種子を料理に使用している。

果実



雄花



雌花



## 私の散歩とゴミ

垂水 荘 司

1月21日、豪雪地の秋田県仙北市で、近所の高齢者のために屋根の雪おろしをしていた43歳の男性が事故で亡くなったと報道されました。「『当たり前のこと』をしているだけ」と、早朝から地域の雪おろしを率先して行っていた方とのことでした。

私にとって「当たり前のこと」は、散歩しながら空堀川の遊歩道のゴミを拾うことです。遊歩道は、ランニングする人、犬を連れて散歩する人、通学する生徒、自転車で通行する人などで賑わっていますが、いつもゴミが目立ちます。例えば、使用済みのティッシュペーパー、ビニール袋、タバコの吸殻、アメの包装、菓子袋、ペットボトル、空き缶、空き瓶、犬の糞入りビニール袋、手袋、手ぬぐい、ハンカチ、衣類、雑誌等々。散歩中に散乱したゴミを見ながら素通りすることには罪悪感を覚え、6kmほどの道のりのゴミを拾っています。時にはポリ袋3つになることもあります。収集したゴミは後日川の管理者に電話して処理してもらっています。

亡くなった仙北市の男性は、「困っている人を見過ごしにはできない、手を貸すのは当たり前のこと」という思いで行動なさったのでしょうが、私の場合も、「黙って見過ごしにはできない、自分の気持ちが悪くない」というのがゴミ拾いの原点です。この思いは当会に入会してから、ますます強くなりました。

青葉町在住のSさんは長年川沿いのゴミを拾い続けています。会うたびに「ご苦労さん」と声をかけていますが、Sさんも「自分の気持ちが悪くない」と感じる方なのでしょう。このような方には、市民の感謝と敬意の表明の印として、腕章のような物を身につけていただきたいと考えています。さらに、私たちはゴミを拾うだけでなく、ゴミを捨てさせない対策を、知恵を出して考え、実行に移さなくてはならないと考えています。

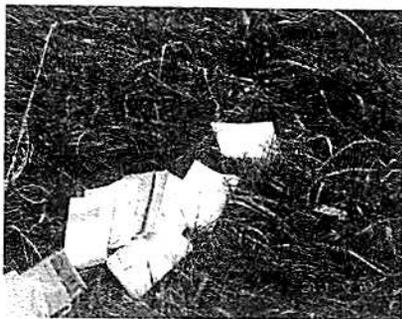
不法投棄という罪悪感なしでおこなわれる犯罪行為の後始末をすることで自分の罪悪感を解消しながら、今後も私の散歩は続くことでしょう。



## インフォメーション

### 臨時の空堀川清掃

2月2日に下堀橋から石橋までの区間の河川敷のゴミ拾いが数人の会員有志によって行われました。その後も、不法投棄されたゴミが目立ち、黙って見過ごしにすることができず、3月に入って会員たちが何回かゴミ拾いをおこな



河川敷に投棄された書籍

いました。橋の上から投棄されたと思われる大きなポリ袋に入れられたゴミ、細かく引き裂かれた発砲スチロール等のほか、いくつかのナップザックに詰め込まれた大量の書籍（新書版や参考書類）がありました。東村山市指定の大袋入りのゴミもいくつか集めました。

### 浄水場脇の花壇に新たに植栽

昨年10月29日に植栽されたマリーゴールドとベコニアが霜で枯れてしまいましたので、1月20日新たに八坂小学校5年生の手で耐寒性のあるパンジー、ビオラ、ノースポールが植えられました。

### 清瀬カタクリまつり

今年も3月26日から4月3日まで、中里緑地保全地域でカタクリまつりが開催されます。早春に短期間だけ花開く植物のために、「清瀬の自然を守る会」のメンバーが雑木の落葉掃きや枯れ枝集め、杭を新しいものに取り替えるなどの作業をおこなってきました。



清瀬中里のカタクリ

また花のある期間中はメンバーが交代でパトロールして、盗掘や踏み荒らしから植物を守っています。

### これまでの経過と 今後の予定

(2010/12/18～ 2011/03/12)

◎01/08 定例会：東村山市地域福祉センター

◎01/20 浄水場脇花壇に植栽：八坂小 5 年生，防犯協会関係者，岡田，国田，垂水

◎02/12 定例会：東村山市地域福祉センター

◎02/16 ふれあい広苑にてドーダンツツジの植え替え：友保，国田

◎02/21 清水富士見緑地にてクヌギの苗木の移植：小倉，友保，国田

◎02/24,25 丸山橋上流左岸にオオムラサキツツジ植栽：大岱小 4 年 1 組生徒，友保，国田，垂水

◎02/27 2010 年に植樹した 小彼岸桜の剪定：「小彼岸桜の会」会員，岡田

◎03/03,04 丸山橋上流左岸にオオムラサキツツジ植栽：大岱小 4 年 2 組生徒，友保，国田，垂水，岡田，正路

◎03/12 定例会及び理事会：東村山市地域福祉センター

空堀川の春の清掃が 4 月 23 日(土)9:00～12:00 と決まりました。今回からは東大和市と同一の日に開催することになりました。みなさんのご参加をお待ちしています。

### 会員募集

NPO 法人「空堀川に清流を取り戻す会」は、空堀川の自然再生と河川本来の景観の復元による街づくりを目指しています。私たちの活動を支援し、参加してくださる方を募っています。

NPO の活動に関心のある方，お問合せください。

◎会費は次の通りです。

・個人の場合

入会金 2,000 円

年会費 2,000 円

・団体・法人の場合

入会金 一口 10,000 円

年会費 一口 10,000 円

・賛助会員（入会金不要）

個人 年会費 2,000 円

団体・法人 年会費 10,000 円

◎会費振込先

郵便振替 口座名：がたろう

口座番号：00130-3-729803

◎お問い合わせは下記までお願いいたします。

東村山市萩山町 2-19-10

友保（ともやす）

TEL/FAX：042-394-9978

# からぼり川

がたろう通信

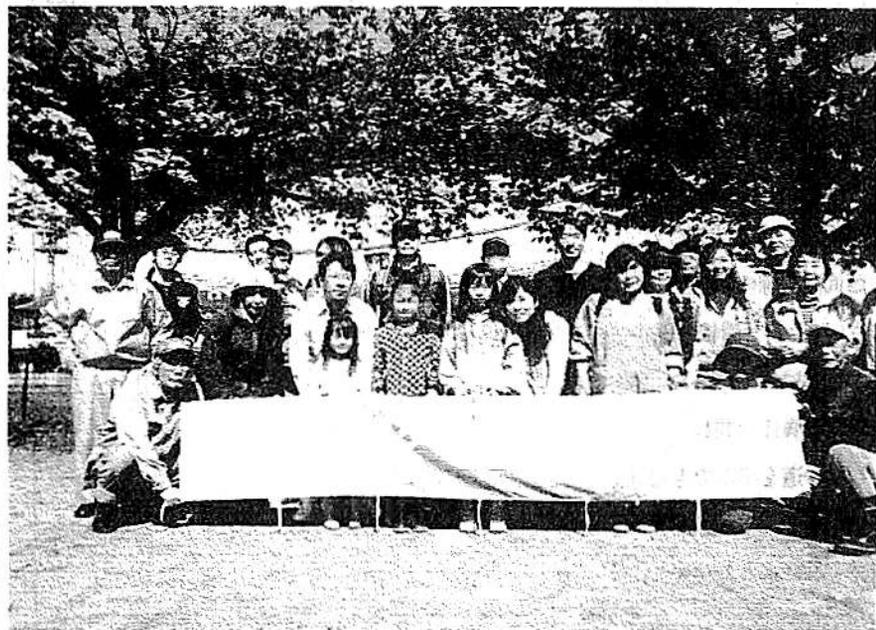
第67号

2011年6月11日発行

特定非営利活動法人 空堀川に清流を取り戻す会

ホームページ:<http://homepage2.nifty.com/karaborigawa/>

発行責任者:友保邦弘 TEL/FAX 042-394-9978 東村山市萩山町 2-19-10



## 第28回空堀川クリーンアップ実施さる

4月24日のクリーンアップは、初めての試みとして、東大和市の「空堀川を考える会」との共催で行われました。絶好の晴天に恵まれ、参加者は多いとは言えませんでした。元気な子どもたちの声が響き、なごやかに、無事に終了しました。

## 震災後に思う

正路 妙子

3月11日に震災に見舞われた東北地方の様子が世界中に伝えられた時、被災した人々のとった行動に各地から賛嘆の声が寄せられました。震災直後に日本を訪れた人によって作成された「日本と日本人に学ぶべき10の項目」が、知人の米国人から届きました。最初のdignity(高潔さ)は、水や食料の配布に、先を争うことなく整然と並んだ態度を讃えています。四つ目のsacrifice(犠牲)は、事故が発生した原子力発電所内に残った50人の作業員に捧げられた言葉です。踝の骨を骨折した若い女性が、駆けつけた救急隊に対して、自分が引き起こした「迷惑」を詫びたそのpoliteness(礼儀正しさ)、停電となった時、棚に商品を戻し、静かに立ち去った買い物客たちのconscience(良心)、さらにorder(秩序)、tenderness(優しさ)、grace(品位)、the ability of the architects(建築家の能力)、the Japanese media(日本の報道機関)、the technology(科学技術)が、実例とともに挙げられています。

先日西武池袋線の踏み切りで、「線路に石を置かないで下さい。また電車にものを投げないで下さい」という看板をみかけました。不特定多数の人々の命を危険にさらしかねないこのような行為は、「しないで下さい」と頼むのではなく、本来は、その行為の引き起こす結果に対する責任を問わなくてはならないことでしょう。欧米の法体系を取り入れて、法治国家としての道を歩んできた日本では、法律を守らない行為やルール違反が、しばしば糾弾されずに許容されていると常々感じていました。しかし、法律を厳格に守らせることを回避しようとする日本人の態度は、もしかしたら、日本人が昔から培ってきた価値観と結びついているのかも知れないと、今回の震災を機に考えています。人の行うべきこと、あるいは行ってはならないことを、法によって達成するのではなく、各人が人格をみがくことによって達成すべきであるという日本人の考え方が、不法行為を容認しているのかもしれませんが。そして、今回の震災では、このような価値観から出た多くの行為に、外国人は日本人の美德を見たのでしょう。

放射性物質の拡散が止められないという、人類にとって未知の状況下に置かれることになった私たちは、sacrificeやdignity, politenessなどを保ちながら、しかも、将来を見据えた、責任ある行動を選択することを求められています。

## 平成 23 年度事業報告

安岡 建依

第 12 回定期総会が 5 月 14 日（土）午前 10 時から東村山市地域福祉センターで開催されました。総会員数 37 名中、出席者 16 名、委任状提出者 17 名。過半数の議決により平成 23 年度の事業計画が以下の通り決定されました。

### I. 実践活動

- ・ 「子どもの水辺」の維持管理：東京都北多摩北部建設事務所と取り交わした「覚書」に基づいて「子どもの水辺」の維持管理を行います。
- ・ 環境学習支援：「子どもの水辺協議会」と連携して「子どもの水辺」を利用した環境学習支援を行います。
- ・ 川まつりへの参加：今年度は東日本大震災の影響で延期となり、9 月 11 日（日）に予定されています。
- ・ クリーンアップ作戦：春期は 4 月 24 日に実施済み。秋期は 11 月に予定しています。
- ・ 水量・水質調査：「世界環境デー」の「身近な川の一斉調査」に参加します。
- ・ 空堀川の環境整備：JR 武蔵野線の湧水を活用した「御成端周辺の環境整備計画」を「柳瀬川・空堀川流域連絡会」と連携しながら進めていく予定です。
- ・ 内野吉之助緑の基金事業：空堀川流域の緑化を行います。

### II. 調査活動

「子どもの水辺」区間の水質・植生などの調査：水質・昆虫・鳥類・水棲生物・植生の調査を行います。

### III. 普及啓発活動

- ・ 会報の発行：会の活動報告を中心に年 4 回発行し、会員および公共施設への配布を行います。
- ・ 会員の拡充：ポスター、ポストカード、DVD などを用いて会員の拡充に努めます。
- ・ 環境セミナーへの参加：6 月 5 日に予定されていましたが、総会で議決後、主催者側から無期延期の通知が届きました。大震災を考慮し延期とのことです。

### IV. 収益事業

東村山市環境部から委託された 2 件の契約を履行します。

## ヤゴ救出作戦あれこれ

友保邦弘

5月28日、土曜子ども講座「水のふしぎ探検隊」と「自然と遊ぼう」の合同イベント、“南台小プールでのヤゴ救出作戦”が行われました。原発の放射能汚染が心配される中、子どもはプールに入らない方法でしかも自由参加としましたが、ほとんど全員が参加しました。2時間足らずの体験学習でしたが、実に2150尾のアカネ系ヤゴを救出しました。特筆すべきなのは何と言ってもギンヤンマ。一昨年は2尾捕獲しましたが昨年はゼロ。今回は特大を1尾。家に持って帰って飼いたいという子が続出。混乱を避けるため、私が飼って途中経過をみんなに報告すると言ったところ、一人の男の子が泣き出した。自分が捕ったので自分が飼いたいと泣き声で打ち明ける。たまたま別のグループに参加するため居合わせた両親と相談した結果、その子が責任を持って面倒をみるということで一件落着。こまっしゃくれた子どもが多い時勢に、ほんとうに子どもらしい子どもが居たのでホッと嬉しくなりました。

中二日において今度は富士見小学校の総合学習でヤゴ救出授業。5年生3クラスの総勢87名。加えて1年生80人が見学に押しかけたから大変。プールサイドは満杯状況。こちら子ども達はプールに入らず、プールサイドで大人達が掬いあげたヤゴをカウ



ントする方式。どういうわけかヤゴが少ない。大人達がツルツル滑るプールの中で奮闘するが如何せんヤゴの絶対量が少ない。あっちこっちから「ヤゴちょうだい!」・・・の大合唱。2時間近くかかってやっとのことで277尾を捕獲した。「水棲昆虫研究班」のメンバーが学校で50尾飼い、家に持ち帰って飼う子が8名、残りをミニ田圃へ放流した。

20年ほどヤゴ救出作戦にかかわって来たが、今回ほどにぎやかなイベントは経験したことがない。ヤゴが少なかったのは昨年9月に残っていた大量の消毒剤をプールに投入したことが原因らしい。薬剤に耐えて生き延びた最強のヤゴ達だから無事に羽化してトンボになってくれるでしょう。

## 人の絆に甘えてください！

伊藤 邦夫・秀子

私たちは3月11日という日を忘れないでしょう！

その日をどういう言葉で言い表せるでしょうか？

ただただ自然の驚異におののくのみです。

優しい海が大きくうねり、黒い手足となって町に村に怒濤のごとく襲いかかり、何もかもすべてを一気に飲み込んで連れ去りました。握っていた手を離された親と子、夫と妻、祖母と孫…… 今まで住んでいた家が、車がそして船までも、荒れ狂う濁流の中に巻き込まれる一瞬の出来事でした。

高い丘に駆け上がりそれを見守るしかない人々、これまでの暮らしが根こそぎ覆された瞬間です。

そして、原発からの目に見えない放射能漏れが重なりました。文明の利器が、牙をむいた瞬間です。故郷を離れ、捨てざるを得ない人も出る厳しい現実には呆然とするばかり。誰に恨み言をいえばよいのでしょうか？

天に対してでしょうか。

それとも人災として為政者、企業家に対してでしょうか？

震災後の今も、多くの人々が愛する人の元に帰っていません。

この怒り、孤独、悲しみを誰が満たしてくれるのでしょうか？

大きな瓦礫の中で、何も無くなってしまった町や村々。

海水の退かぬ田畑の水たまりがあちらこちらに大きく残ります。

牛舎では飼われていた牛がえさもなく、やせ細り倒れています。

何時になったら元の平穏な日々が蘇るのでしょうか？

本当に心底から胸が痛みます。

しかし、多くの心ある人々から暖かい支援の手が、少しずつしかも確実に寄せられています。

この津波に耐えた一本の松が残ったとも聞いています。

巡る季節の春を忘れない花も咲き始めています。

ゆっくりした歩みでもいい、一步一步確実に前へと進むしかありません。

今は何も考えられなくとも、必ず時が解決してくれることを期待して。

こんな時こそ、どうぞ人の絆に甘えてください！

そういう言葉しか見つかありません。今の私たちには。

**新会員お二人が、入会の動機について書いて下さいました**

内堀 光朗

私は14年前に東村山市野口町4丁目に転入してきました。60歳で定年退職後、ある財団法人に6年間勤務し、昨年サラリーマン生活を終えました。これからは地域で活動している人たちの仲間入りができればと思い、市のホームページで市内のNPO法人の活動状況を調べていたところ、「空堀川に清流を取り戻す会」の活動主旨と内容に興味を抱きました。理事長宅を訪問し、活動状況などを伺い、3月の定例会を傍聴したあと、入会を決めました。

空堀川については、川の流れ、河川敷の花、釣り糸を垂らしている人々を目にし、都市を流れる河川にしては汚れも目立たず、環境も維持されているのは、市民モラルが守られている結果であり、行き届いた行政の賜物であろうと推察していました。しかし、定例会での話を聴き、「がたろう通信」で様々な活動を知り、これまで積極的に環境保全に取り組んでこられた方々の強い想いと活動の成果であると認識しました。微力ではありますが、皆さんの一員に加えていただき、ひとつひとつ体験しながら、これまで関わってこられた多くの方々の想いを継承する活動に参加していきたいと思えます。よろしくお願ひします。

宮田 元夫

定年退職後、北山公園や空堀川周辺を散歩する機会が増えましたが、不法投棄されたゴミの多さに驚き、北川の清掃には何回か参加したことがありました。その後、第二の職場として12年間勤めた小学校の用務員時代に、学校で飼育したホタルを野火止用水で育てて飛ばそうと、3年間挑戦したこともありました。しかし、見た目ほどには流れは清らかではなく、実現しませんでした。

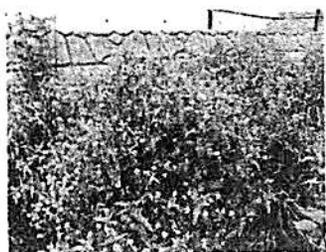
今までの経験を生かして、何か社会に貢献できることをしたいと考えていた折、「空堀川に清流を取り戻す会」の会員募集を見て入会を決めました。空堀川は整備されたとはいえ、不法投棄物は相変わらず多く、ゴミの無いきれいな川辺であったら、散歩していても心がうるおい安らぐのにと感じています。

まずは4月24日のクリーンアップに参加しましたが、ヤゴ救出作戦、公園の草刈りと手入れ作業などには、用務員としての経験が生かせるのではないかと考えています。

## 空堀川のカワヂシャ

神山 みつ江

今春も空堀川の植生調査を終えました。1回目は3月29日から4月13日まで11日間、2回目はイネ科を中心に5月9日から5月21日まで7日間、計18日の調査でしたが、これまでになく水が少なく、文字通り「空の堀」を歩くこととなりました。



カワヂシャ

水を好む植物、セリ、オランダガラシ (クレソン)、フトイ、ガマなども元気がありません。例年水際を薄紫色で覆ってしまうオオカワヂシャも、今年は流れが確保されている上流部以外は、本当に少ない印象を持ちました。

それでも、今年は在来種のカワヂシャの群落を見ることができました。空堀川ではあまりお目にかかれませんが、昨年まで、オオカワヂシャの周りをよく観察してたまに白くてかわいい花をつけたカワヂシャを見つけると「あった！」と喜んだものでした。今年は16回目の調査でようやく出会うことができました。

ただし喜んでばかりもいられません。このカワヂシャの群落は、オオカワヂシャの群落と隣り合う形で生育しています。カワヂシャの草丈が低いので、オオカワヂシャの花粉の影響を受けやすくなっています。つまり同じゴマノハグサ科の植物で交雑しやすいのです。

オオカワヂシャは、他の植物に影響を及ぼす可能性が大きいとして特定外来種に指定されています。おなじみのオオブタクサも特定外来種ですが、これまでの取り組みでその数をかなり減らすことができました。オオカワヂシャを減少させていくことは今後の課題となるでしょう。



オオカワヂシャの群落

オオカワヂシャは、紫色の花がとても美しく、大きな群生になるので景観としては残したいと思われる方もいると思いますが、カワヂシャの可憐な群生を保護することができたら嬉しい限りです。

# 空堀川の草木 38 タネツケバナ(アブラナ科タネツケバナ属)

有川 栄子

水辺の湿地、田や溝、道端などに生える越年草。茎は直立し、高さ20～30cm。下部から分枝、葉は互生し頭大羽状<sup>\*</sup>、長さ2～9cm。3～5月頃枝先に総状花序をつけ、白色の小形十字状花を10～20個ひらく。花弁は長さ3～4mmで、雄しべのうち4本が長く、雌しべは1本。長角果は無毛で、長さ2cm、幅1mmの線形、種子の部分はふくらんでいる。熟すと開裂し、細かい径1mmほどの種子を飛ばす。指でちょっと莢(さや)にふれるとパチッ、パチッと音をたてて四方、八方に飛んでいく。小さいころ、庭のハウセンカの角果にふれるとパチッと行って果皮が反り返り、種子が飛んでいくのが面白かったことをふっと思い出した。日本名種漬花。苗代をつくる直前、米の種籾を水に漬ける時期に、盛んに白い花が咲くのでこの名がついたという。(参考文献：牧野日本植物図鑑)

※頭大羽状：羽状複葉の先端が最大で、基部が小さくなるもの



## 第28回空堀川クリーンアップ

当初4月23日に予定されていた春のクリーンアップは、雨天のため繰り延べとなり、翌日晴れ渡った青空の下で実施されました。

参加者は上流部15名、下流部36名でした。今回から、東大和市の「空堀川を考える会」との同時開催となったために、参加者が分散し、上流部では参加者が減少しました。下流部でも、参加者の人数を考慮して一部割愛せざるを得ない箇所もありましたが、森永乳業から、家族といっしょに、しかも市外から参加して下さった方々がおられ、微笑ましい親子のやりとりにこころをなごまされました。イネ科の植物が生長した緑の草原を泳ぐようにして歩くのは、小学生の子どもたちには大変な作業でしたが。

目立ったゴミとしては、上流部では、布団、マットレス、カーペット、畳、自転車、テレビ、木製机、消火器、そして、個人名の刻まれた印章が20数本もありました。下流部では、3個の18リットル缶、マットレス、布団、動物のフン、猫の死体、そして鞆に詰められた書籍がありました(2月以来、この区間には大量の書籍が河川敷に投棄されました)。カード類が残された財布もひとつ見付き、拾った人が交番に届けることになりました。

ここちよい汗を流した清掃終了後、からぼり広場では恒例のスイトン入り豚汁が、下堀広苑でもいつものおいしい豚汁が振舞われ、三々五々散会しました。

---

## 春の八郎山

4月に入って、「淵の森の会」のメンバーから「八郎山が花園のよう」との連絡が入り、出かけてみました。林床には大輪のイチリンソウ、ニリンソウ、セントウソウが咲き、樹上では子育て中のオナガのあわただしい動きがみられました。

5月13日の定例作業時には、ショカツサイ、ハルジオンなどの外来種の植物の除去が行われました。昨年と今年はじめに対岸から移植した中低木類も、新芽を出していました。斜面にはナルコユリの見事な群落があり、河畔林のムクの大木の下には、菌根菌と共生しているといわれるキンランが1本ひっそりと咲いていました。

今後の植生の復活がますます楽しみです。

子どもの水辺から

## 鯉の恋、子どもの水辺に春が来た

小林 寛治

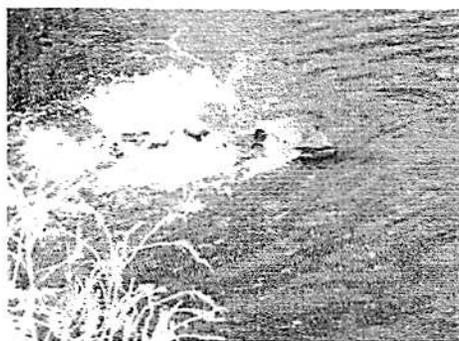
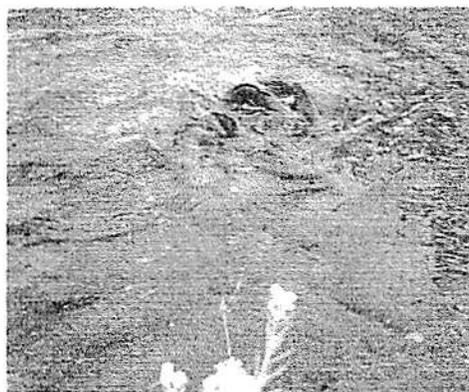
水辺の緑が濃くなり、陽射しが強くなって水温も上がってくると、空堀川「子どもの水辺」の生き物たちにも恋の季節がおとずれます。空堀川の東村山地域には水のある場所は少なく、唯一「子どもの水辺」だけが水の枯れることのない場所になっています。

ここでは、毎年繰り返して鯉の産卵が見られます。僅かに数日の行事でしかありませんが、すさまじい動きと種の保存のための争いが観察できます。1匹のメスの鯉に数匹のオスが寄り添って産卵を促し、産卵と同時に精子をかけるという仕草が繰り返して行われます。この水辺ではこの時期に鯉の他、オイカワの産卵風景を見ることができます。オイカワの繁殖活動は鯉の産卵から少し遅れて見られます。両方とも、流れのある底石が卵大の大きさが揃った場所を選んで産卵し

ています。

6月の半ばになると、数百万の鯉の稚魚、オイカワの稚魚で川の中がにぎやかになります。

これだけ大量に生まれる稚魚ですが、増水で流されたり、コサギやアオサギ、ゴイサギ等の鳥に狙われたり、あるいは狭い環境要因のせいでしょうか、ほとんど大きく育つことはなく、この場所が増えることは無いようです。



写真は4月25日

## インフォメーション

♥空堀川「川まつり」は9月に行われる予定です。

天王橋から浄水橋までの約900mの新河道が完成したのを機に、毎年5月末の日曜日に行われるようになった「川まつり」ですが、今年は、東日本大震災の影響で9月11日(日)に実施されることになりました。空堀川のことを一般の市民に知って貰い、流れを復活させるためにはどうしたらよいかを考えて貰う機会でもあります。会員の皆さん、是非ご参加ください。

### ♥「身近な水の一斉調査」

今年は6月5日(日)に実施されました。調査地点は7箇所。大沼田橋から上流に向かい上橋まで。今年は雨に恵まれていたために、流れが途絶えることもなく、魚影もあちこちで観察できました。



### ♥新しい植物出現

水質調査の折に、浄水橋下中州に、巨大なタデ科の植物を見つけました。調べたところオオケタデ(大毛蓼)と分りました。江戸時代に薬草として導入された熱帯アジア原産の帰化植物で、高さは2mにもなるこのことです。無事に育てば夏に赤紫色の花が見られます。



### ♥ピンクのノイバラ

下堀橋右岸上流にめずらしいピンクのノイバラが咲いて、芳香を放っています。よく見ると、そのピンクの色にもヴァリエーションがあります。マルハナバチが盛んに蜜集めに通っています。

これまでの経過と  
今後の予定

(2011/03/13～ 2011/07/14)

◎04/04 第 13 回川まつり実行委員会

於：市役所

◎04/09 第 156 回定例会 於：東村山市

地域福祉センター

◎04/24 空堀川春のクリーンアップ

◎04/29 鯉のぼり掲揚

◎05/09 鯉のぼりおろし

◎05/14 第 12 回定期総会及び第 157 回

定例会 於：東村山市地域福祉センタ

ー

◎05/16～05/18 下堀広苑およびふれ

あい広苑の維持管理作業

◎05/28 土曜子ども講座「ヤゴ救出作

戦」 於：南台小学校プール

◎05/30 富士見小学校総合学習「ヤゴ

救出作戦

◎06/05 身近な水の一斉調査

◎06/11 第 158 回定例会 於：東村山

市地域福祉センター

●06/16 八坂小学校「花壇作成イベン

ト

●6 月下旬 八坂小学校「空堀川体験学

習」

●07/09 第 159 回定例会

●07/14 川まつり実行委員会

会員募集

NPO 法人「空堀川に清流を取り戻す会」は、空堀川の自然再生と河川本来の景観の復元による街づくりを目指しています。私たちの活動を支援し、参加してくださる方を募っています。

NPO の活動に関心のある方、お問合せください。

◎会費は次の通りです。

・個人の場合

入会金 2,000 円

年会費 2,000 円

・団体・法人の場合

入会金 一口 10,000 円

年会費 一口 10,000 円

・賛助会員（入会金不要）

個人 年会費 2,000 円

団体・法人 年会費 10,000 円

◎会費振込先

郵便振替 口座名：がたろう

口座番号：00130-3-729803

◎お問い合わせは下記までお願いいたします。

東村山市萩山町 2-19-10

友保（ともやす）

TEL/FAX：042-394-9978

# からぼり川

がたろう通信

第68号

2011年9月10日

発行

特定非営利活動法人 空堀川に清流を取り戻す会

ホームページ:<http://homepage2.nifty.com/karaborigawa/>

発行責任者:友保邦弘 TEL/FAX 042-394-9978 東村山市萩山町 2-19-10



## 八坂小学校5年生の空堀川体験学習

八坂小学校5年生3クラスの児童が、クラス毎に7月初旬の1日を選んで「子どもの水辺」に集まり、「川の生き物」、「川岸の植物」、「川の歴史と今」の内からひとつのテーマを選んで学習しました。しめくりに、全員が馬頭橋下で川に入って魚を追い込み、投網で捕らえて貰った魚を、歓声を挙げながら観察しました。最後に、魚たちを川に帰して体験学習を終えました。

## 河畔林の運命

正路 妙子

空堀川が合流する柳瀬川の、最後に残された河畔林が切られようとしていると聞き、あるシンポジウムでの講演を思い出しました。

1972年、世界の科学者、経済学者、教育者、経営者が集まり結成したローマ・クラブは、報告書「成長の限界」を発表し、人口増加、資源消費、汚染物質の排出の傾向が現状のまま続けば、人類の生存に重大な危機が訪れると警告しました。それを受けて80年代には「持続可能な発展」の理念が広く受け入れられるようになり、1992年のRio de Janeiro地球サミットでは「環境と開発に関する宣言」とその行動計画「アジェンダ 21」が合意されました。それから40年、今年7月初め、「生存の条件」と題するシンポジウムでの米・英・インドネシアの研究者の発表によると、事態はますます深刻化しているとのこと。ホモ・サピエンス誕生後5億人に達するのに10万年以上を要した世界人口は、18世紀の産業革命時から急激に増加し、1950年には25億人となり、現在70億人に達しようとしています。これらの数値は19世紀以降の人口増加がいかにか異常なものであるかを示しています。

人類はエネルギー・資源・水・食料などの自然の恵みによって生かされています。しかし今や人間活動が地球環境に与える負荷は極限にまで達しています。食料需要の増大に対処するために、本来は農業に適していない土地での灌漑が、河川や湖の干上がり、地下水の枯渇を引き起こしています。過去20年間小麦を自給してきたサウジアラビアは2008年初頭、灌漑用に汲みあげていた地下水がほとんど枯渇したと発表し、2016年以降は、3000万人の国民のための穀類をすべて輸入で賄うことを計画しています。インド、中国でも枯渇の恐れのある井戸から汲み上げた水を使って穀物生産が行われ、パキスタン、イエメン、イランでは地下水の減少で収穫減に直面している由。飢餓に苦しむ人の数は現在世界で10億人に達していると報告されています。

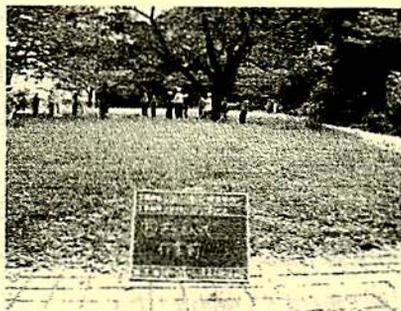
2009年までの17年間の調査によれば、「アジェンダ 21」の項目中「環境教育の推進」、「リサイクルシステムの確立」、「産業界の環境対策」は進んだものの、根源的な問題である「人口・貧困問題」、「ライフスタイルの変更」には進展が見られないとのこと。

この進展できない問題こそが、私たちの河畔林の運命を危うくしている原因と言えるでしょう。

## 会の収入—広苑整備作業—

友保 邦弘

当会は東村山市「みどりと環境課」から広苑整備作業を受託している。当会会員の有志が有償ボランティアとして作業を担当し、一定の報酬を受け取って収益の一部を納税し、残りを当会の本来事業会計に繰り入れて会の運営資金に充当している。



広苑整備作業の中身は、植込み、生垣、芝生などの手入れや管理道路の除草、ゴミ処理等である。上の写真は芝生広場の作業前、下は同じく作業後の写真である。草を根こそぎ刈り取ることはせず、10cm程度の高さに刈り取っている。休眠している雑草の種に日光が当たって芽生えるのを防ぐためと、緑を保護して土埃が舞いあがるのを防止するためである。草刈り作業一つを取ってみても、環境保全のために試行錯誤を重ねている。



## 空堀川での八坂小学校の総合学習

国田 隆雄

今年は梅雨明けが早かったため、八坂小学校5年生3クラス118名の総合学習は、7月6日から8日までの3日間、強い日差しの中で行われました。場所は「子どもの水辺」。生徒たちは担任の先生に引率されて、毎日1クラスずつ「井戸端」に集合。先生の挨拶と友保理事長からの注意事項を聞いた後、①空堀川の歴史を知る班 ②川岸の植物班 ③川の中の生き物班の3つに、ほぼ10人ずつ分かれ、担当の当会会員から内容の説明を受け学習をスタートしました。

「生き物班」では、事前に用意しておいた調査表とタモ網を児童に手渡し、見たもの、採ったものを記録するように指示しましたが、はやる児童は内容の説明もそこそこに、川の中に入って網で魚をすくい始めました。

前日理事長が仕掛けたペットボトルの筒にオイカワがいっぱい入っているのを目ざとく見つけて大喜び。何の指導の必要もなく、遊び慣れた水辺のように各児童が小1時間を楽しみました。

「生き物班」には私の他に内堀氏と垂水氏が参加、「植物班」は神山氏と正路氏、加藤氏、「歴史班」は分部氏と土橋氏が担当しました。



生き物班

学習が終わると、最後は全員揃って馬頭橋下の淵で魚の追い込みと、友保理事長の投網魚を楽しみました。「生き物班」の調査の結果は、次ページの表のように、ほとんどが魚類のオイカワとドジョウでした、中でもドジョウは簡単にタモ網に掛かるので、多数の児童が手づかみしていました。調査表の回答数は31で回答率は86%でした。調査表の回収は、各組グループのリーダーの統率努力に負うところが多く、また内堀氏には3日間を通して調査を担当して貰いました。

表 「子どもの水辺」で観察された水中の生き物の種類と数

生き物の種類	数	生き物の種類	数	生き物の種類	数
フナ	7	アメリカザリガニ	7	ミミズ	4
コイ	1	ヤゴ	1	ヒル	16
オイカワ	22	ヘビトンボのヤゴ	1	アメンボ	26
タナゴ	1	トンボ	1	クモ	14
ドジョウ	27			テントウ虫	1

注：数は各児童が採取したか、採取された生き物を見た数で、採取された個体数ではない。  
水棲以外でも、児童が記載した生物はリストに加えた。

昨年の「植物班」に刺激され、会員の方々の知見を得ながら、今回初めて「生き物調査表」を作りましたが、次回は、石について水生昆虫や底生生物のマキガイなどにも目を向けたいと思います。



歴史班



植物班

植物ピンゴ：



## 第13回空堀川・川まつり

—東日本大震災からの復興を願って—

垂水 荘司

日本中の何もかもが狂い始めた3月11日。日本のみならず世界中に衝撃的な自然災害として伝えられた“想定外”の東日本大震災に、東京電力福島第一原子力発電所の事故が加わり、今年の春は日本中の歯車が狂い始めました。各地のイベントも中止され、当会が5月末の日曜日に予定していた「第13回空堀川川まつり」も延期となり、9月11日（日）に開催されることになりました。

川との関連で興味深いのは英語の rival (競争相手, 対抗者) です。この言葉は、ラテン語の rivalis (本来は「他の人と共同で川を使う人」の意) に由来し、rivalis は同じくラテン語の rivus (川, 河) の派生語とのこと。水が如何に貴重なものとされていたかの証しです。しかし、その水も、度を過ぎれば災いの元。日本語では、恵みの雨は慈雨とも喜雨とも表現されますが、大雨の被害が相次いだ建暦元年(1211年)夏、鎌倉幕府の若き将軍・源実朝は「時により過ぐれば民の嘆きなり 八大龍王雨やめたまえ」と仏に祈ったと伝えられています。

空堀川は源流水が乏しく、ふだんは随所に瀬切れが発生しますが、上流部で大雨が降ると、濁流が駆け下ります。水の無い川は豪雨で暴れだすと、周囲に甚大な被害を及ぼす恐れがあります。7月末の新潟・福島での記録的な豪雨では、40万人に対して避難勧告や指示が出され、田畑は水没、日本の穀倉地帯に甚大な被害がでました。

川は大きな被害をもたらすこともあれば、人々の憩いの場ともなります。各地で川とのつながりが大切なものとされ、川を通じてさまざまなイベントが繰り広げられています。イベントのタイトルを拾い上げてみると、「わくわく川清掃&あそび」、「子どもと大人の自然塾『お魚と遊ぼう』」、「わいわい川遊び『アユの棲む黒目川をきれいにして遊ぼう』」、「北山わんぱく夏まつり」、「鳥になろう 魚になろう『大森の池まつり』」などがあります。空堀川・川まつりも、川に親しみながら環境問題並びに「より良い川づくり」を考えることを目的に、魚の放流、カモレース、ゴムボート・カヌーなどの川を利用した遊びの他、フリーマーケットなどを計画しています。9月の空に秋の風を一杯にはらんだ鯉織が翻る下で、東日本大震災の被災地の日も早い復興を願う川まつりとなることを願っています。

## 講演会「空堀川の歴史と変遷」

安岡建依

7月2日、ふるさと歴史館において講演会「空堀川の歴史と変遷」が開かれました。講師の小林寛治氏は当会発足時より理事長として、現在は顧問として長年に渡り空堀川に係わり続けてきた方です。また当会での活動以外にも「柳瀬川・空堀川流域連絡会」を始めとして関係行政機関との協同にも積極的に係わり、まさに空堀川についての第一人者です。

今回の講演は、①空堀川の概要②空堀川の生い立ちと歴史③空堀川の現状④空堀川の未来に向けて、の4つの柱で構成されたものでした。

概要、生い立ちについては、地形、地質、歴史、民俗史、そして近年の当会の活動を始めとする市民・行政の取り組み、その成果といった多角的かつ広範囲の内容で大変密度の濃いものでした。こうした知識を持って空堀川の現状を見つめ、未来を考える機会を得た事は有意義でした。現在の空堀川の抱える問題が幾つも挙げられましたが、その全ての根本は「水溜れの川をどうするか？」に集約されることを強く感じました。

空堀川の河川改修工事は莫大な費用をかけて現在も進められています。河川整備が進むと共に水の流れは消えていきます。水が無い事によって引き起こされる防災面の不備、周辺のホットスポット化、生物の減少。これらの問題の背景には、現在も進められている河川整備が昭和40年代に計画されたものの継続であることがあります。平成9年に河川法が改正され、改修計画には流域市民の意見・要望を取り入れる事が決まり、「柳瀬川・空堀川流域連絡会」等、関係行政と流域市民の話し合いの場が設けられるようになりました。しかし、工事は40年代に計画された線引きのまま進捗しています。氏はこうした現状をふまえた上で空堀川の未来に向けての提案を示します。ひとつの河川の改修という視点から、より広範囲な「街づくり」の視点を持つこと。そのためには情報公開の徹底化、流域4市と市民が協同する必要性、市民参加の維持管理が不可欠であると訴えます。そしてこの考えを、現在「柳瀬川・空堀川流域連絡会」から市民案として提示されている「御成橋周辺整備計画」に生かし、具体化していきたいとの意欲が語られました。

川は世代を越えた貴重な共有財産であることを改めて感じた講演会でした。尚、現在当会では、今回の講演会のDVD化を進めています。より多くの方々に空堀川を知ってもらいたいという思いからです。

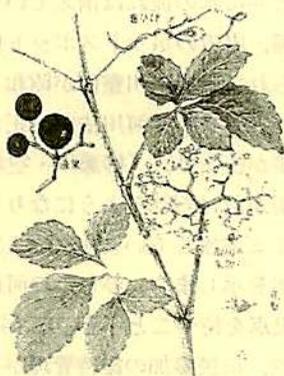
## 空堀川の草木 39 ヤブガラシ (ビンボウカズラ)

(ブドウ科)

有川 栄子

熱帯アジアから東アジアにかけて自生する。日本のいたるところにはえるつる性の多年草で、害草として著しい。地下茎はひも状で盛んに地中で伸び、ところどころに芽を出す。若芽は濃褐色、茎は緑紫色で稜があり、生長が早くすぐに他の植物にからみつきそれを覆ってしまう。巻きひげは葉の反対側に出る。葉は鳥足状の掌状複葉で小葉は5枚。夏に柄のある散房状集散花序を葉の反対側に出し、多数の淡緑色の小花が集まる。花弁は4~5枚、雄しべ4本、雌しべ1本。花は朝開き午前中に花びらと雄しべは落ちてしまう。オレンジ色の花盤がこの花のアクセントになっている。蝶や蜂がこの花によく飛んでくる。液果は球形で、熟すと黒くなる。

名前は、やぶを枯らして盛んに繁茂することに由来している。



## ポーチュラカと5年生

分 部 光 春

6月16日午後、「空堀川景観対策花植えキャンペーン」の一環として、通称「井戸端広場」前の花壇に、八坂小学校の5年生と共に防犯協会提供のポーチュラカ200鉢を植えました。昨年10月に造成した花壇は約6平方メートル。当日は、防犯協会より2名、当会より4名そして八坂小学校からは先生と5年生計120ほどの大人数で、クラス別にポーチュラカを植え付けました。クラス別ですから色々な花壇ができました。列を揃えて植えるクラス、密集型で植えこむクラス、そして「5-2」とクラス名を造るクラスなどなど。先生の指導力、クラスの団結と独創力などが垣間見え、ワイワイガヤガヤ、アツと言う間に植栽終了。当会会員と防犯協会有志が、前回植栽したマリーゴールドなどを前もって撤去し、地ならしを行っていたので、子供達は植え付けだけ。ちょっと物足りなかったかも。ポーチュラカが草に負けないよう時々手入れをすることを子供達と約束して解散。



帰る子供たちの後を大きな入道雲が追いかけて行ったけど、濡れずに学校まで戻れたかな。でも、おかげでポーチュラカの水やりはカミナリさまが十分にやってくれました。協力してくださった皆さんとカミナリさま、まことに有難うございました。

最後に、反省点を挙げておきます。

1. 植栽のイベントだけでなく、「子どもの水辺」への関心を増すような事前の準備が必要ではないか。
2. 事後のフォローとして、体験学習などの時間に草取りなどを行うことや、水辺を訪れるチャンスを多くもてるよう、学校側との協議が必要と思われる。
3. 100名以上の生徒数で約6平方メートルの花壇は少し狭いのではないか。

「子どもの水辺」から

## ワンドの生物調査

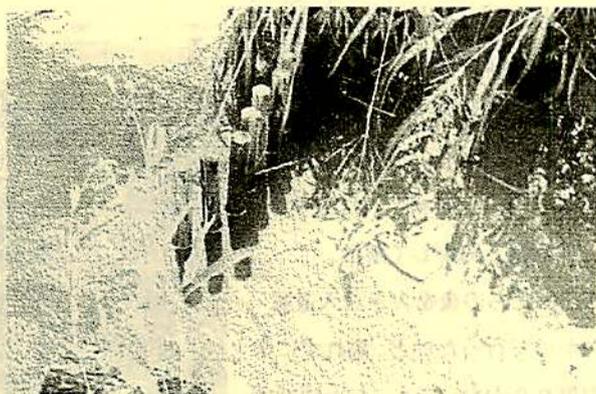
小林 寛 治

空堀川の改修工事は「洪水対策」である、といまだに河川管理者は言い、河川環境に対する配慮はほとんどありません。洪水対策が重要であるとしても、生き物はどうでもいい、という態度は時代の求めるものに反しています。

空堀川は昭和40年に一級河川になり、42年の都市計画決定により河川整備が行われてきました。定規で測ったような断面が続く川づくりで、お世辞にも環境に配慮された川づくりとはいえません。

平成4年、日本は生物多様性条約の締結国になりました。東京都では平成8年に「東京河川ルネッサンス21検討委員会」の答申を受けて「多自然型川づくり」を提唱してきました。最近、「多自然に型をつけるのはおかしい」と、“型”を取り、「多自然川づくり」に変更し、技術指針も作られています。平成9年の法改正で、河川法の目的に「環境の整備と保全」が加わり、治水・利水・環境が法律の目的になりました。

残念ながら、空堀川には河川環境に配慮した工事・施設はありません。唯一「子



どもの水辺」浄水橋上流左岸に小さなワンドがあります。周囲にヨシを植えて囲み、川の水が常時出入りするようになっています。私は毎年観察し魚やカメ、カエルなどが棲みついているのを観察・記録してきました。

空堀川には川の整備を行政とともに考える「流域連絡会」があるのはご承知のとおりです。空堀川の治水はもとより、河川環境、水循環について意見を交わしています。平成22年末、ワンドの生き物調査を行うことが決まりました。この結果を検証し、河道内にワンドを作ろうと考えています。

今年10月中旬あたりに、「子どもの水辺」ワンドの調査を流域連絡会で行うことを計画しています。会の皆様のご協力をお願いします。

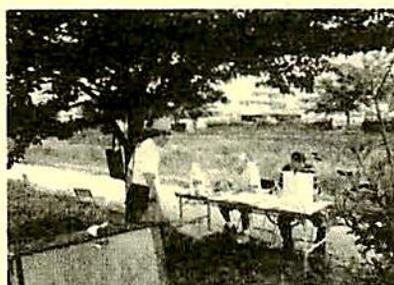
## インフォメーション

### ♥講演会のお知らせ

11月26日(土)13時から、「街づくりの視点から見た川づくり」をテーマにした当会主催の講演会を予定しています。場所は東村山市民センターです。詳細は追ってお知らせいたします。

### ♥市民へのアンケート実施

空堀川の馬頭橋～第二砂川橋の区間は『WAKUWAKUひろば』の名称で「子どもの水辺」に登録されています。全国291箇所の「子どもの水辺」のひとつとして平成16年に登録が完了しました。当会と東京都はこの区間の維持管理についての覚書を締結しています。当会



の役割のひとつに「住民の意見及び要望等の取りまとめ」という項目があります。そこで、8月2日、浄水場下の管理道路で通行人を対象に「市民アンケート」を実施しました。2時間で24名に回答をいただきました。第二回目を8月26日に予定しています。両方の結果を分析・集計して次号の「がたろう通信」

に掲載することを予定しています。

### ♥「空堀川の歴史と変遷」をHPに掲載

7月2日の小林寛治氏の講演会の資料が平田健一氏(当会会員 平田和彦氏の父上)の手でまとめられ、当会のホームページに掲載される予定です。空堀川の歴史と現状について調べたいことがあったら、アクセスしてみてください。

ホームページのアドレスは<http://homepage2.nifty.com/karaborigawa/>です。

### ♥河川敷のクワ伐採さる

8月30日に天王橋から第二天王橋の間の河川敷のクワが伐採されました。前回このような出来事があったあと、「流域連絡会」からの提言がなされています。伐採についての指針が未だに作成されていないのは残念です。

### ♥不法投棄ゴミその後

春先に、受験参考書や答案その他の書籍、多数の1斗缶などの不法投棄が頻発しました。見るに見かねて、北多摩北部建設事務所にお問い合わせし、不法投棄が犯罪であると警告する看板をいくつかフェンスに取り付けていただきました。管理道路から見ると、現在はビニール傘、ポリ袋に詰められたゴミが目立ちます。

## これまでの経過と今後の予定

(2011/06/12～2011/11/26)

- ◎06/16 「井戸端」に花スベリヒユ植栽  
八坂小5年生, 防犯協会及び当会
- ◎07/02 小林寛治氏講演会「空堀川の歴史と変遷」於：ふるさと歴史館
- ◎07/06～07/08 八坂小5年生総合学習
- ◎07/09 定例会
- ◎07/20 河川敷草刈前の植生調査
- ◎07/23 「空堀川を考える会」主催クリーンアップ
- ◎07/28 井戸端前の草刈り
- ◎08/02 市民に対するアンケート実施  
(井戸端)
- ◎08/20 臨時定例会
- ◎08/26 市民に対するアンケート実施  
(下堀橋)
- ◎09/04 鯉のぼり掲揚
- ◎09/08 八坂小学校総合学習
- ◎09/10 定例会
- ◎09/11 第13回空堀川・川まつり
- 10/08 定例会
- 10月中旬 下堀・ふれあい広苑植栽管理作業, 井戸端前の草刈り
- 10/15 土曜子ども講座支援(釣竿作り)
- 11/12 第162会定例会
- 11/26 秋のクリーンアップ, 講演会  
(13時～16時30分)

## 会員募集

NPO法人「空堀川に清流を取り戻す会」は、空堀川の自然再生と河川本来の景観の復元による街づくりを目指しています。私たちの活動を支援し、参加して下さる方を募っています。

NPOの活動に関心のある方, お問合せください。

◎会費は次の通りです。

・個人の場合

入会金 2,000円

年会費 2,000円

・団体・法人の場合

入会金 一口 10,000円

年会費 一口 10,000円

・賛助会員(入会金不要)

個人 年会費 2,000円

団体・法人 年会費 10,000円

◎会費振込先

郵便振替 口座名：がたろう

口座番号：00130-3-729803

◎お問い合わせは下記までお願いいたします。

東村山市萩山町2-19-10

友保(ともやす)

TEL/FAX：042-394-9978

# からぼり川

がたろう通信

第69号

2011年12月10日

発行

特定非営利活動法人 空堀川に清流を取り戻す会

ホームページ:<http://homepage2.nifty.com/karaborigawa/>

発行責任者:友保邦弘 TEL/FAX 042-394-9978 東村山市萩山町 2-19-10



## 講演会「考えよう！ いい川づくりといい街づくり」

11月26日(土), 市民センターにおいて当会主催の講演会が開催されました。3人の講師がそれぞれの立場から川づくりについての思いを語り、参加者からも熱のこもった質問がたくさん寄せられました。安らぎの空間としての川の姿を、いくつもの例から学ぶことができました。私たちの街でも実現に向けて踏み出したいものです。

## “水資源 “から思うこと

正路 妙子

地球は青い水の惑星といわれます。その地球の水の97.5%は海水を含む塩水で、淡水はわずか2.5%。そのうちのほとんどは氷河や氷山で、人類の利用できる淡水は地球にある水資源のわずか0.01%にすぎません。その貴重な水資源も、人類の活動により急速に失われつつあり、世界の至るところで水不足が生じています。

日本は水の豊かな国とされています。確かに、年平均の降水量(1,690mm/y)は、世界平均(810mm/y)の約2倍ですが、一人当たりの年降水総量(5,000m<sup>3</sup>/y)は世界平均(16,400m<sup>3</sup>/y)の約1/3(降水総量=降水量×国土面積)。人口が多く、国土の狭い日本では、一人当たりの水資源量はオーストラリアよりも少ないのです(国土交通省水資源部の資料)。

世界の水資源の最大の消費先は農業で、全体の2/3に達しています。食料資源の確保のために、降水量の少ない砂漠やステップ地帯を灌漑して農業を営むことも、太古の昔から行われてきました。近いところではソ連が、1940年代から河川水を用いて自然改造と称する大規模な灌漑を行いました。その結果、それらの河川が流入していた、アゾフ海、アラル海、カスピ海の水位が大幅に低下し、塩分濃度が上昇しました。中でもアラル海は、流出する河川のない広大な塩湖で、豊かな漁業資源を擁していましたが、1960年以降、流入する河川の水量が減少し、水位が低下し始めました。やがて周辺の草や樹木は枯れ、生物の大半も死滅し、漁業も壊滅しました。灌漑された農地での綿花の生産量は、当初3倍以上に増え、人類が豊かになる象徴のように見えました。しかし、綿花畑にはやがて塩分が沈殿し、綿花の栽培はできなくなり、不毛の地と化しました。チグリス河とユーフラテス河の流域のメソポタミアも、かつて大穀倉地帯でしたが、大規模な灌漑の結果、残存する塩分濃度が増したために砂漠となったといわれています。

人口増加と共に、自然はますます改変されていきます。自然についての十分な知識と配慮が必要なことを訴える例は、枚挙にいとまがありません。

参考文献：石谷久編「地球環境セミナー 有限の地球と人間活動」オーム社。  
旭硝子財団「生存の条件」

## いい川づくりといい街づくりに向けての講演会

小林 寛 治

昭和46年から行われている空堀川の工事には、巨額の税金が投入されています。この川を単なる雨水路としてはならない、大きく広がった河川空間は生き物たちの住処であり、流域の人にとっても憩いの場所、流域4市の財産として都心から人を呼び、街おこしのバックボーンにしたい。そんな思いをもって講演会を企画しました。

今回は流域4市の後援と市報での広報をお願いし、支援を受けました。これは今までにない試みでした。東京都北多摩北部建設事務所からも、工事第二課をあげての協力を頂きました。

講演は、河川整備と街づくりに豊富な経験を持っておられる(株)プランニング・ネットワーク社長の伊藤登氏、「多自然型川づくり」から「型」を取り去り、国交省「多自然川づくり」の技術基準を作られた、(株)吉村伸一流域計画室代表取締役の吉村伸一氏の二氏、および河川管理者の工事第二課課長西村正行氏の錚々たる講師陣で、11月26日午後1時から「東村山市民センター」2階の1～3号室をぶち抜いて行いました。参加者

の数はいまひとつの観がありました。集まったメンバーの多くはなじみの顔ぶれで、熱心に聞き、メモを取って勉強していました。進行はどうか？質問は出るか？と心配しましたが、3人の講師に答えきれないほどの質問がありました。講師の方々も親切に答えられて、中身の濃い講演会になりました。伊藤氏と吉村氏は、「緑地と水辺を繋げることがいい川づくりの基本、さらに設計・デザインの力がいい川づくりの基本であり、加えて熱心な市民の力が必要だ」と言われました。



これを契機に、いい川づくりに繋げていきたいものです。

(4)

## 八坂小総合学習「空堀川のゴミ拾い」

友保邦弘

7月の川遊びイベントに続いて、9月初旬、5年生3クラスの117名と共に「空堀川のゴミ拾い」を行いました。八坂小学校の先生方はみな非常に熱心です。

### イベントの概要

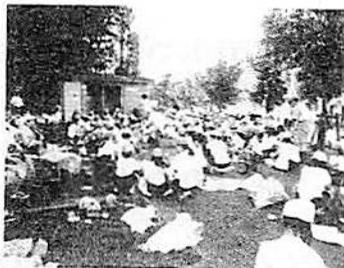
実施日：平成23年9月8日（木曜日）

13:25～15:00

参加者：八坂小学校5年生117名及び

校長・担任、当会会員8名

場 所：空堀川子どもの水辺（第二砂川橋～馬頭橋）



### 当日の時間配分

13:25 生徒が学校出発      13:45 井戸端到着      13:50 挨拶、イベントの目的の説明、スケジュールの説明、注意事項      14:00 ゴミ拾い開始、4班に分かれて馬頭橋からスタート、川の左右及び管理道路の左右に分かれて下流へ向かい、14:30に第3仲よし広場のトイレ前に到着      14:30 分別作業開始（燃えるゴミ、燃えないゴミ、ビン、カン、ペットボトル）      15:00 挨拶、川まっつりのPR、解散（子ども達は学校へ）

### 総括と改善点

- ・それぞれの担当ルートでゴミの量に差があったため、早く終わったクラスと時間がかかったクラスの差が出た。
- ・事前にゴミの量をチェックしておいて当日の人員配分を考慮する必要がある。
- ・ゴミの分別に時間がかかった。次回はゴミの種類別に担当者を決めておくことにする。（来年2回ぐらい実施予定）

さて、ここからが今回のイベントの特徴です。ただのゴミ拾いで終わらないのがすばらしい。子ども達が5人1チームで「ポイ捨て防止」のポスター30枚を作る。それを下級の4年生が審査するというコンテストを行い、A3サイズにラミネート。次回の総合学習で、一部は立て看板として、不法投棄が常態化している地点に設置し、残りは川のフェンスに貼り出すという計画です。

## 八坂小「花壇造りとポイ捨て禁止ポスターの設置」

友保邦弘

9月の総合学習に続いて、11月17日は、定例の花壇造りと、総合学習の後で作成した「ポイ捨て防止ポスター」の設置イベントを行いました。当日の参加者は、警察防犯協会の関係者2名、八坂小5年生3クラス120名、担任の先生方、当会会員4名。花壇班108名とポスター設置班12名に分かれて作業しました。

### 花壇班

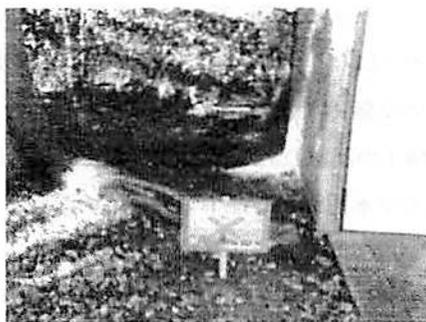
3つのグループに分かれて順次花植え作業。パンジー200株とストック350株。何回か経験しているので作業は順調にはかどりました。翌日雨模様であったので水遣りは省きました。



### ポスター班

杭をつけた板にセットした看板は不法投棄が常態化している場所に設置し、ラミネートしたポスターは川のフェンスに取り付けました。

写真を見てください。出来上がった花壇のすばらしいこと！ポイ捨て防止の看板の威力！トイレ横の、ポイ捨てが常態化していた場所に看板を取り付けてから2週間た



ポスター設置後2週間

った後もゴミはゼロ！それにしても、子どもの力を借りなければならないとは、情けない大人達ではある。

## 秋のクリーンアップ

加藤敏子

恒例の空堀川のクリーンアップが 11月26日(土)朝9時から、天候に恵まれて行われました。いつもは、区間内で最下流の大沼田橋下から秋津南橋下までを担当し、上に上がるのですが、数日前に草刈りが行われて、河川敷がきれいになっているとの知らせがあり、今回、会員になって初めて、下堀広苑に集合してから始めました。

今まで、拾い始めの頃の人数はせいぜい2~3人でしたが、今回は6名以上の仲間の下堀橋からなかよし橋まで清掃しました。相変わらずの多量のゴミに、皆の袋はすぐに一杯になり、行程の途中で応援の仲間が上からひもを下ろして袋をつりあげてくれました。終点のなかよし橋でもたくさんの袋を持ち上げました。

ゴミ拾いの途中、御成橋で、JRの湧き水が丁度放流されているのを運よく目にしました。橋の上からは何度も見たことがありましたが、間近でみるのは初めてでした。この豊かな、きれいな水がすぐに川底に吸い込まれてしまうのは、なんとも惜しく思われます。ようやく、東京都北多摩北部建設事務所が流域連絡会での小林委員長をはじめとするメンバーの意見を汲み、いよいよ湧水利用の実現に向けて動き始めたことは、大きな実りだと思います。さらに、柳瀬川との合流地点が洪水対策としてもう少し上流に新たに造られることにより、従来の流れに沿う河畔林が破壊されそうになりましたが、保存に向けた運動に応え、残されることになったことも、大きな喜びです。

御成橋下の湧水のあるところには、15cm以上の魚もたくさん泳いでいました。この魚たちが水濁れの心配のない流れのなかですっと泳いでられるようにと願わずにはられません。

クリーンアップの翌日、友保理事長からのファックスが届きました。記帳名簿によると、参加者は62名とのこと。実際の参加者はもう少し多かったと思われます。またゴミの総量は大袋36個とのことでした。

次回4月の春のクリーンアップでは、より多くの参加者と、より少ないゴミの量を期待したいと思います。

## 空堀川のヤハズソウ

神山みつ江

ヤハズソウは、マメ科の植物で30cm程度の大きさ、「小石の混ざる路傍や乾燥した空き地で普通に見かける1年草」とであると図鑑の説明にあります。最近では、川原だけでなく、道端でも「普通に」見かけることは滅多にありません。今秋の調査でも、ヤハズソウはあまり見られませんでした。今年だけでなく、数年来少なくなってきたという印象があります。



昨年の秋、馬頭橋から上橋の区間で数カ所の群生を見つけていたので、今年は気をつけて探しました。ありました！ 淡い紫色の5mmくらいの小さな花をつけていました。足元は石ころだらけで歩きにくいことこの上ない場所です。昨年は正路さんと一緒に調査をしていて、しゃがみこんで観察しているところを、ちょうど刈取り作業をしていた業者の方（夏の調査に同行してくださった方）が、「保護した方がよいですか」と声を掛けてくれました。刈り残すことをお願いできるほどの草丈ではありません。地面を這うような形をした植物です。普通に刈り取りをしていただきました。

この区間の調査は、ここが2008年に開通してから始めたのですが、今年はこの区間より多くの植物が見られました。133種を観察できました。そのうち外来種は49種で、在来種もたくさんあります。この区間は特別な管理をしていません。では何故多様性豊かな川原になったのでしょうか。開通して間もないので、土砂の堆積が少ない場所（石ころが多い）と堆積している場所があり、それぞれに適した植物が生育しているためなのではないかと考えています。セイバンモロコシやセイタカアワダチソウもありますが、ヤハズソウとマルバヤハズソウ（葉の先が凹んでいます）の群生が見られる場所は、石ころが多いためか、セイバンモロコシはまばらです。

初めて調査した2004年頃には、「子どもの水辺」付近でも群生が「普通に」見られたのですが、今年は見つかりませんでした。石ころ川原に土砂が堆積して、ヤハズソウには適さない土壌になったのでしょうか。川は変化しています。植生も変わっていくのが自然なのかもしれません。

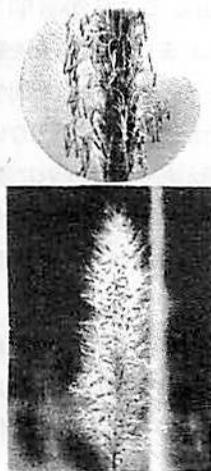
## 空堀川の草木 40 チガヤ (イネ科)

有川 栄子

日本の各地の山野に群生している多年草。根茎は細長く、白色で節があり、長く地中を這う。葉は細長く、幅 1cm 位、長さは 30~50cm 位ある。春の終わり頃、若い花穂は茅花(つばな)と呼ばれて「万葉集」にも詠まれており、葉鞘に包まれたものを抜いて食べると、かすかに甘くておいしい。5~6月頃、花穂は仔犬の尾のように柔かく、銀色に輝いてたいへん美しい。白い絹毛の間から雄しべが伸び出て、風に花粉を撒き散らす(風媒花)。葉は屋根材にも利用されたり、葉を丸く束ねて「茅の輪」を作り、6月の「夏越しの祓い(なごしのはらい)」に輪をくぐって魔除けとする。

根茎は利尿や止血などの薬効がある。穂は、火打石で火をおこす時、炎をとるために綿毛が利用された。

空堀川の「子どもの水辺」の土手に見られる。



チガヤ

## 川の思い出

伊藤邦夫

私の故郷は、東北の小都市です。

そこには、高い山や大きな川や小さな川もありました。

川の思い出は、もう60年以上も昔のことになります。

まだ私が小学生の頃、朝早く、「さあ行くぞ!」と言って起こされます。

そして、まだ元気な父親の自転車の前に乗り、二人乗りで出発します。

自転車でがたがた道をほぼ一時間も、そんな格好で走ります。

その頃、故郷には、まだまだ自然が残っていました。

釣りの前日、父が自前の仕掛けを楽しそうに作ります。

孔雀の羽を小さな針にくくりつけ、鮮やかな色の毛ばりが完成するのです。

それから小刀でそうっと削り上げ、小さい軽い木片でウキを作ります。

そうです!川釣りのひとつ、テンカラの準備です。

ひとつひとつ作り上げて行く工程を幼い自分がじっと見つめていました。

歯でテングスを押さえ、きゅっと絞る時の父の顔。

10本近い針と新しいウキが、テングスに縛り付けられています。

満足そうなできばえにふっとため息をついた父の表情を今も思い出します。

川は、まだ朝霧が立ち込めています。

ひっそりとした中、さらさらと流れがきらめいています。

新しいウキと毛ばりがひゅっと風を切り、弧を描いて川面を下ります。

一本の線が出来上がり、ピーンと腕とテングスが、流れを捕まえるのです。

まもなくピビンという当たりが、右腕を通し獲物がかかったことを知らせます。

さおを手繰れば、新しい針にきらりと、鱗が光ります。

親子のささやかな一日が始まったのです。

こういう光景が、今でも懐かしい思い出として私の心に残っています。

しかし、最近、いたるところで、川の壊されている姿が映し出されます。

昔ながらの川をこれからも大事に残したいものです。

心に残る思い出として!

空堀川（東大和市内）の空間放射線

小倉安洋

3.11 の原発事故は、大きな負の遺産を半永久的に残すことになった。事故の原因と責任は糾明されるべきであり、再発防止に英知を集める必要があると考えるのは当然であるが、一方、日常生活においては、現実と向き合い科学的に冷静に、かつ粘り強い対応が求められている。

河川において、原発事故により放出された放射線は、今後、どのような形で現われるのであろうか、先ずはできるところから測定をしてみようと、東大和市内の空堀川を測定してみた。

河川の放射線に懸念をもつのは、水は低きへと流れ集まるからである。

結果（空間放射線）のデータは、下の表を参照していただきたい。

この表から言えることをまとめると、以下のようになる。

1. 東大和市内より河川敷は高い。(市内は高くても約 0.1  $\mu$ Sv/時)
2. 雨水流入口付近の河川敷が高い。(3倍～4倍)

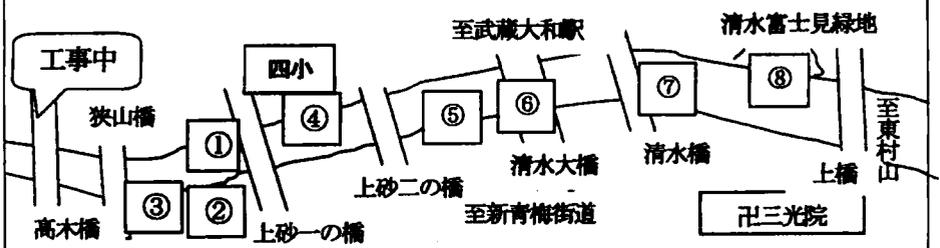
川に入る時は、不必要に長くどとまらないこと。また、川の中の生き物やゴミなども濃縮されている可能性があるので注意が必要である。

## 空間放射線測定結果（測定期日：2011.11.9 午前、薄曇り、場所は下図参照）

測定器種：東大和市環境課から借用の環境放射線モニタ（ラディ・PA-1000）を使用。

測定方法：測定放射線は、 $\gamma$ 線。測定値は地上1mと5cmの地点を3回測定し、その平均値とした。

NO.	場所	地上5cm( $\mu$ Sv/時)平均	地上1m( $\mu$ Sv/時)平均
①	上砂一の橋上流左岸	0.1253	0.1380
②	狭山橋下流右岸流入口	0.3543	0.2560
③	上砂一の橋上流右岸広場	0.1153	0.1097
④	上砂一の橋下流左岸下	0.2587	0.1873
⑤	上砂二の橋下流右岸下	0.1790	0.1120
⑥	清水大橋下右岸河川敷	0.1800	0.1897
⑦	清水橋下流右岸流入口	0.4007	0.2763
⑧	清水富士見緑地左岸	0.1093	0.1023



## インフォメーション

### ♥空堀川の植物の絵葉書ができました

空堀川の河川敷に四季折々に咲く草花を、会員の北出篤氏が長年丹精こめて撮影してきました。第 13 回空堀川・川まつりの折に、大勢の人たちに見て貰おうと、有川栄子、神山みつ江の両氏が考えた短い説明文を添えて、北出氏が印刷。ガガイモ、ヤブカンゾウ、ホトケノザなど、10 種類の美しい絵葉書 200 部が完成しました。川まつりでのアンケートに回答した人へのお礼として使ったり、会員が買い取ったりして、残りは 40 枚ほどになりました。1 枚 80 円です。



### ♥淵の森の植生調査

10 月 26 日、当会会員と、八郎山の保全作業の所沢・清瀬の参加メンバーが協力して、淵の森の植生調査を行い、100 種以上の植物を確認しました。かつて駐車場となっていたところに植樹された樹木も大きく育ち、下にはコマユミ、ツリバナなどのニシキギ科の低木が育っていました。森の植生は豊かさを増しています。



### ♥下堀広苑に枝垂れ柳の丸太椅子

9 月末に関東地方を襲った台風のため、下堀橋上左岸にあったシダレヤナギが倒されました。樹齢は 10 年余りと思われ、直径は 50cm に達していました。業者に引き上げて貰った根元部分を、友保理事長が chain saw で 55cm ずつに切斷。下堀広苑の桜の大木の周りに椅子として設置してくださいました。



これまでの経過と今後の予定  
(2011/09/11～ 2011/12/10)

- ◎09/11(日)第 13 回空堀川・川まつり
- ◎10/08(土)第 161 回定例会
- ◎10/14(金)講演会チラシ印刷
- ◎10/15(土)土曜子ども講座「空堀川に行こう・釣竿作り」
- ◎10/18(火)～21(金)下堀, ふれあい両広苑の定例作業
- ◎11/02(水)八坂小「不法投棄防止ポスター」設置打合せ
- ◎11/12(土) 第 162 回定例会
- ◎11/17(木) 井戸端前の花壇の植栽と「不法投棄防止ポスター」の取り付け
- ◎11/23(水) 講演会の最終打合せ, ロータークラブによる空堀川清掃
- ◎11/26(土)クリーンアップ (9:00～11:00), 講演会(13:00～16:30)
- ◎12/07(水)第 13 回空堀川・川まつり反省会
- ◎12/09(金)八郎山の保全作業
- ◎12/10 (土) 第 163 回定例会, がたろう通信 69 号発行
- ◎12/21(水) 忘年会
- ◎01/14(土)第 164 回定例会
- ◎02/11(土)第 165 回定例会
- ◎2 月中 八坂小学校総合学習
- ◎03/10(土)第 166 回定例会

◎3 月中 理事会, 第 14 回川まつり実行委員会

## 会員募集

NPO 法人「空堀川に清流を取り戻す会」は, 空堀川其自然再生と河川本来の景観の復元による街づくりを目指しています。私たちの活動を支援し, 参加して下さる方を募っています。

NPO の活動に関心のある方, お問い合わせください。

◎会費は次の通りです。

・個人の場合

入会金	2,000 円
年会費	2,000 円

・団体・法人の場合

入会金	一口 10,000 円
年会費	一口 10,000 円

・賛助会員 (入会金不要)

個人	年会費 2,000 円
団体・法人	年会費 10,000 円

◎会費振込先

郵便振替 口座名: がたろう  
口座番号: 00130-3-729803

◎お問い合わせは下記までお願いいたします。

東村山市萩山町 2-19-10

友保 (ともやす)

TEL/FAX : 042-394-9978

# からぼり川

がたろう通信

第70号

2012年3月10日  
発行

特定非営利活動法人 空堀川に清流を取り戻す会

ホームページ:<http://homepage2.nifty.com/karaborigawa/>

発行責任者:友保邦弘 TEL/FAX 042-394-9978 東村山市萩山町 2-19-10



## 森永乳業(株)東京多摩工場の見学

2月11日(土), 当会会員と空堀川の環境保全に取り組んでいる清瀬・東大和両市の市民が森永乳業の東京多摩工場を訪ね、牛乳・ヨーグルトの製造工程はもちろん、地下水が空堀川の貴重な「水源」となるまでの工場内での水の流れも見学しました。製造部マネージャーの菅原幸男氏の説明を聴いたあと、微生物を用いた排水の浄化処理施設、汚泥を燃料・肥料として取り出す工程などが見学を中心となりました。

## 1年が過ぎて

正路 妙子

癒すことのできない痛みを私たちの心に残した3月11日から1年。災害からの復旧・復興に向かって、一歩ずつ歩みが進んでいます。しかし、原発事故からの復旧は、先が見えないどころか、全国の原発の運転にまで影響が及んでいます。さらに、原子力開発が多くの問題を抱えていることも、明らかになりました。54基もの原子力発電所が建設された一番の理由は、「原子力発電は安い」からでした。その根拠とされたのは、政府が発表する発電コストの数値。平成21年度の「エネルギー白書」によれば、キロワット時あたりの発電コストは、原子力5～6円、LNG火力7～8円、水力8～13円、風力10～14円、地熱8～22円、太陽光49円です。このような数値が繰り返し発表され、様々なパンフレットや報告書の中で繰り返し引用されることによって、いつの間にか多くの国民が「原子力は安い」と思い込んでいました。しかし、発電コストを算出する計算方法に問題があり、単純な比較ができないことに加え、原子力発電の発電コストには、従来含まれていなかった巨大なコストが存在することを、私たちはいま目の当たりにしています。

発電コストに含まれていなかったものに、原発が立地する自治体に支払われ続ける巨額の交付金と、核廃棄物の処理に要する算出不能な費用があります。年々増加する核廃棄物の処理については、現実性のある展望は何も示されていません。核廃棄物の中からプルトニウムを取り出してもう一度利用するという再処理は、トラブル続きで進捗せず、そのまま廃棄する地層処分に至っては、数万年に亘って安全に埋め立てることのできる場所の選定すらできずにいます。

浜岡原発の運転差し止めを求めて2003年に住民たちが起した訴訟の証人尋問で、原子力安全委員会の委員長が語ったと言われる「非常用ディーゼル発電機が2機とも起動しなくなるといった事態を想定していたら、原発はできない」という言葉が伝わっています。想定から外されたことの中に、事故原因の一端があるかもしれません。

想定が可能であった災難を防げなかったことは、痛恨の極みです。原子力発電が、事業として経済的に成り立ち得るのか。結論はすでに出ているように思われます。

## 「東村山市自治基本条例策定市民会議」に出席して

友保 邦 弘

【東村山市自治基本条例策定市民会議】なるものが、東村山市経営政策部の主導で昨年10月に発足しました。無作為に抽出された120名程の市民が、条例の基礎から学び討議したうえで、審議会に提言し、市議会でそれを審議し、26年度に条例を施行するという段取りで、今年1月までに4回の会議が行われました。

第5回の会議が2月4日に開催され、地域で活動している団体として選ばれた当会と青年会議所が発表を行いました。友保がパワーポイントを使用して約10分間、会の過去・現在・未来についての紹介と報告。大まかな内容は、当会が発足した経緯、取り組んでいる活動内容、空堀川の問題点や課題などで、資料に基づいて解説しました。



自治基本条例とは、一般的には市民・行政・議会の役割や責務、市民にとって良い街・住みやすい街にするための行政の在り方などを定めた法文であり、「自治体の憲法」と呼ばれたりもします。条例が制定されている自治体は意外に少なく、多摩地区では三鷹市、国分寺市、小平市、多摩市で、近隣の所沢市でも制定されています。詳しくは市のホームページをご覧ください。

<http://www.city.higashimurayama.tokyo.jp/shisei/keikaku/jichikihon/jiti-siminkaigi/dai5kaisiminakaigi.html>

## 空堀川についてのアンケート調査

友保 邦 弘

がたろう通信第 68 号 (2011 年 9 月 10 日発行) に、空堀川についてのアンケート結果をまとめて報告すると記載していました。遅くなりましたが概要を報告します。

昨年 8 月 2 日と 26 日に川の遊歩道で実施したアンケートでは 64 名から回答を得た (男性 23, 女性 36, 不明 5)。設問は 11 問。遊歩道を散歩したり, サイクリングしたりしながら, 常時, 川を見ている人達なので, それぞれの設問に対する回答は具体的でありテキパキと記入する人が多かった。自由意見・要望を述べてもらった中で主なものは次の通り。①昔にくらべて水が少なくなったが, キレイになった。しかしゴミは相変わらず多い。②子供から老人までみんなが親しめる川になってほしい。③トイレを増やしてほしい④いつでもきれいな水が豊かに流れている川になってほしい。

また, うれしいのは, 64 名中 43 名がカワセミを見たことがあると回答していたこと。

同じアンケート調査を 9 月 11 日の空堀川・川まつりで行った。56 名から回答を得た (男性 25, 女性 24, 不明 7)。こちらでもほぼ同様の結果がでたが, なかでも次の感想が印象に残る:「住民が一緒になって川まつりなどのイベントが行える自然豊かな川だと感じています。これからも水量・水質ともに改善の取り組みを進め, 地域内外の, より多くの人々に親しまれる川になってほしいと思います。」こんな人が増えてくれれば川もよみがえるし, 我々もこの言葉を重く受け止めて活動しなければならぬと改めて責任を感じます。

アンケートの詳しい内容に関心のある方はご一報ください。資料を送付します。

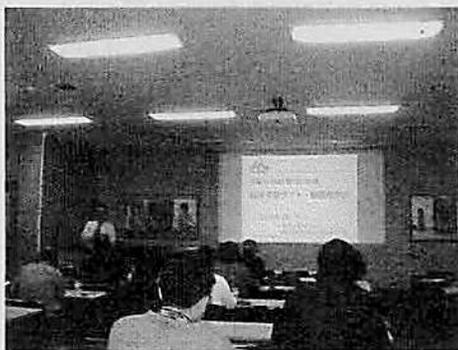
## 森永乳業(株)東京多摩工場を見学して

内堀光朗

2月11日(土) 当会が主催した森永乳業(株)東京多摩工場の見学会に、参加者22名の一員として加わりました。

見学は、午後1時30分から約3時間に亘り、ビデオを交えた施設概要の説明を受けた後、2班に分かれて行われました。高度な品質管理の下におかれている牛乳などの製造工程を窓越しに見る一般の見学に加えて、さらに、環境保全・省エネ・省資源への取組み(資源のリサイクル、排水処理、廃熱利用など)について丁寧な説明を受けながら、その関連施設を間近に見学しました。

私は、当会に入会して丸1年になりますが、空堀川の最大の水源が東大和市内の東芝中橋右岸に流入する日量4千~5千トンの工場排水であり、その排水は森永乳業の高度処理水であると聞いてきました。水量が乏しいとはいえ、1級河川(法令規制適用)である空堀川に工場排水が流される仕組みについて知りたいと思っていたところ、今般、それを直接見学することができました。そして、工場排水がそのまま直接空堀川に流されているのではなく、高度に処理されて、道路等に降った雨とともに公



Videoを用いた概要説明

共排水溝(条例規制適用)を通じて、空堀川に流入していることを知りました。また、森永乳業が取り組み実践している、様々な環境に対する負荷削減に対する活動も知り、その努力に感動しました。

## みどりの楽校の野鳥観察会に参加して

有川 栄子

立春も過ぎた 2月12日(日) 晴れ。西武園駅午前9時集合。参加者は20数名。「東村山の自然を愛し守る会」の会員が講師を務めて下さる。双眼鏡の使い方などを丁寧に指導し、鳥をジッと見ることなどと説明がある。八国山の西の端から林に入る。耳を澄ませ、目は飛ぶ鳥を追う。メジロのつがい木から木へと飛ぶ。メジロは識別しやすい鳥なので、肉眼ではっきりと見える。カンツバキ等の花を好む。空は青く晴れ渡り、コナラ、クヌギなどは凛として高くそびえている。コツ、コツと音がする。キツツキの仲間のコゲラが二羽。コゲラはとてもおしゃれな縞々模様羽を持っている。望遠鏡を担いだ先生について山の稜線を行く。耳をすますと下のブッシュからウグイスの笹鳴きが聞こえてくる。シジュウカラやヒヨドリが飛び交う。またコツ、コツと、先程のコゲラより大きい音だ。目を凝らすと、赤い帽子を被り、モスグリーン色の上着をつけたアオゲラが一羽、木の中の虫を探している。突然、上空の木々の梢の茶色で羽ばたきもしない大きな鳥が目に入った。私はオオタカではないかと思った。先生は「この辺に棲息しているのは確かなようだが、それが何処ということとは言えない」と話された。

南斜面の少し広い場所で休憩する。陽だまりはとても暖かい。小さな草が芽を出している。光の春というが、鳥達は人より早く感じ取って活動し始めるのだろうか。



ツグミ

白十字病院の脇の道を下り、二つ池に向かう。

池の周りの藪からコジュケイがゾロゾロと出てきたのには驚いた。チョットコイ、チョットコイと鳴くあの鳥である。菖蒲田に出ると、ツグミ、ハクセキレイ、キセキレイ、池にはカルガモはいたが、いつもの棒の先にカワセミの姿は無かった。最後に、講師をして下さった会の方から観察できた約30種の鳥の名前が発表された。もう一度鳥達に会いに八国山に行きたいと思う。

帰りに善行橋から北川をのぞくと、あの美しいカワセミが水面を見つめ、魚を狙っていた。明るい陽射しに翡翠色の羽が輝いて見えた。

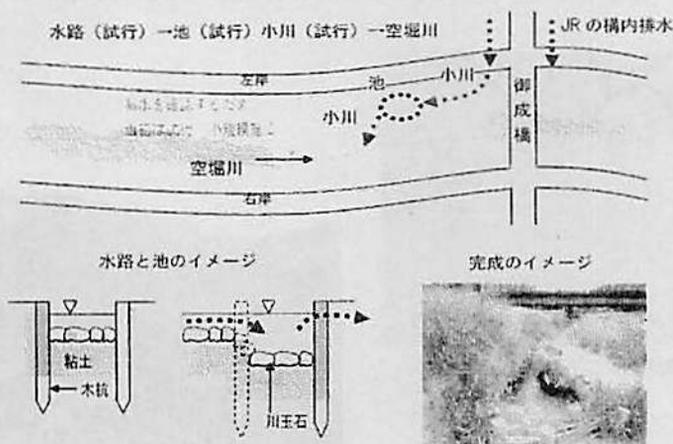
## 「御成橋周辺の整備計画」が進展しています

小林 寛 治

この計画は、2011年3月に市民案として公表され、11月26日の講演会で北多摩北部建設事務所工事第二課長西村氏から案が説明されました。計画案については、2011年9月、北多摩北部建設事務所のスケジュールが示されましたが、2012年2月22日の「第8回流域連絡会水循環分科会」でようやく討議が行われました。事務局案と市民が考えている手法には若干の相違はありますが、24年度に、貴重な水源である湧水を活用して池と水路を造り、生き物の生息環境を整備する動きが進み始めることになりました。空堀川のモデルとなる整備作業です。右岸の芝生広場に築山をもうけること、パーゴラに日陰をつくる樹木を植栽すること、ベンチ・椅子を配置することなどが実施されます。

JR湧水を活用した池と水路の整備案は下記のようなものです。当該箇所は砂礫層が剥きだしで、排水口直下では大量の漏水があると予想されています。この漏水防止と池・水路の透水防止のため、上流部の工事で掘り出されている関東ローム層の土を用いて透水防止対策を試みることになりました。計画案は26年度以降も順次施行されます。

北多摩北部建設の提案図



## 空堀川の草木 41 カワヅザクラ (バラ科サクラ属)

有川 栄子

空堀川の馬頭橋右岸際に 2007年3月カワヅザクラ3本が植えられた。今はもう4メートル以上に成長している。一昨年未心ない者に半数の木が大きく折り取られ、傷つけられてしまった。その後すぐに「小彼岸桜の会」の会員により傷の手当がなされ、春には見事な花を咲かせ、散歩を楽しむ人々を喜ばせた。今年も桜の開花を待ち望んでいるのだが、寒気が強いせいか開花が随分遅れている。2月24日現在では蕾が堅かった。

カワヅザクラは伊豆半島の河津町で1955年に見出された。全国的にはまだ十分には知られていないが、ソメイヨシノなどの桜に先駆けて2月中頃に開花する。この桜は自然雑種で、親はカンヒザクラとオオシマザクラ。暖かい河津町に植えられた沖縄のカンヒザクラに、周辺に自生していたオオシマザクラが交雑したのではないかとされている。花は直径約3センチ位。濃いピンクをしている町の中を流れる河津川沿いの桜並木は、大勢の観光客で賑わう。街中の民家の庭先に河津桜の大きな原木がある。



馬頭橋際のカワヅザクラ 2011年2月



河津町のカワヅザクラ原木 2011年3月1日

## 八坂小学校の総合学習

分 部 光 春

3月8日(木)は八坂小学校5年生の最後の総合学習の日。前回の反省を活かし、今回は①最初から分別に徹する分別班、②仲よし広場のゴミ拾い後、分別する広場班、③花壇のストックを引き抜いて、馬頭橋下流左岸のゴミ拾い後、分別する左岸班、④右岸のゴミ拾い・分別担当の右岸班の4つに分れ、ワイワイガヤガヤ作業開始。前回の「ポイ捨て防止」ポスターが効いたのか、ゴミは少なめ。それでも、家庭ゴミ、犬の糞、廃材、そし



てたくさんのタバコの吸殻！大人に対する辛らつな批判を漏らしながらも、5年生は元気一杯、時間が少なかったため、一部は駆け足しながらのゴミ拾いとなりました。子供と付き合うには体力が必要なことも実感。反省点がいろいろありますが、用具を無くしたり、怪我をすることもなく、無事終了。用具の返却時にひとりの班長に「ありがとうございます。」と言われて、ウルウルと少し涙目に。

昨年の最初のイベント時には、腕白坊主が跳びはねて、整列もできず、先生の大声が響いていましたが、今回は、進行役の5年生の挨拶に始まり、担当の子どもたちから行動予定・注意事項の発表、初参加の母親たちや当会の紹介、協力へのお礼の言葉などがあり、皆びっくり。最後の挨拶もきちんと終えて、ハイタッチしながら帰って行きました。元気で立派な6年生になれ！

「子どもの水辺」のプロジェクトを八坂小学校の子どもたちと1年間やってきましたが、来年度は今年度の体験をいかして、より勉強と努力をし、体力の増強に努めなくてはと実感。来年も頑張ります。

## 元気に育て！ 小彼岸桜

東村山市小彼岸桜の会  
会長 橋本一郎

2年前の平成22年3月28日、空堀川の馬頭橋より下流に、21本の小彼岸桜の苗木(3年生苗)を八坂小学校の生徒数名及び保護者、「空堀川に清流を取り戻す会」と合同で植栽しました。

植栽後元気に枝葉が繁茂し、花も目立つように咲き、成長して来ました



が、昨年は台風が2度も来襲して、強風で川沿いのフェンスに枝葉が当たり、枝の皮がはがれて生育困難な枝も多数ありました。この様な枝や混雑枝、又は徒長枝の切除、そして支柱に縛り通す等々の作業を、2月26日(日曜日)「空堀川に清流を取り戻す会」と合同で行いました。この日は寒空の天候でしたが、桜の説明や手入れ方法等々多数の通行人に対応し、この桜に興味を持っている人が多いのに驚きを感じながら、無事終了しました。

この桜の特徴は箒状に上空に向かって伸長することです。花は少し小さく、鈴なりに咲き誇るのが見事です。幼木の頃より毎年手入れをし、将来の樹形を想像して剪定を行います。



剪定後に保護剤を塗布

このような桜を空堀川の両岸に植栽して、桜並木を造る事が願いです。苗木は桜の会で提供して、植栽は市民参加で行うことができます。実現を願っています。

## インフォメーション

### ● 河川水質環境基準の類型指定見直し

空堀川の水質に関する環境基準である類型指定が近く見直されます。現在は柳瀬川・空堀川とも最低ランクのE類型ですが、柳瀬川がC類型に、空堀川も同等の類型か最悪でもD類型に見直されます。埼玉県ではE類型の河川であった不老川がC類型に見直されE類型の河川はゼロになりました。東京都の河川では柳瀬川、空堀川、川口川、立会川の4河川がE類型で残っています。（提供：小林寛治顧問）



清瀬のカタクリ 2011 4月

### ● 第13回清瀬カタクリまつり

今年は3月31日から4月8日（午前10時から午後4時）まで開催されます。3月31日（土）と4月1日（日）には第4小学校校庭で清瀬産の野菜や鉢花、苗木、和菓子のほか、市の刊行物「清瀬の名木」、「巨木百選」、「清瀬の植物」などの販売も行われます。

### ● 河川敷の樹木

2月下旬に天王橋と丸山橋の間の岸边と護岸側のクワ、ナンキンハゼ、カジノキ、ヒトツバハギが伐採されました。「近隣の住民からの苦情に対応した」とのことですが、河川敷の樹木の剪定・伐採について、柳瀬川・空堀川流域連絡会でルールづくりをしている最中の出来事でした。市民が納得できるルールの確立が待たれます。



